

678.3-Y75



1200500750602

678.3
Y75



始



15

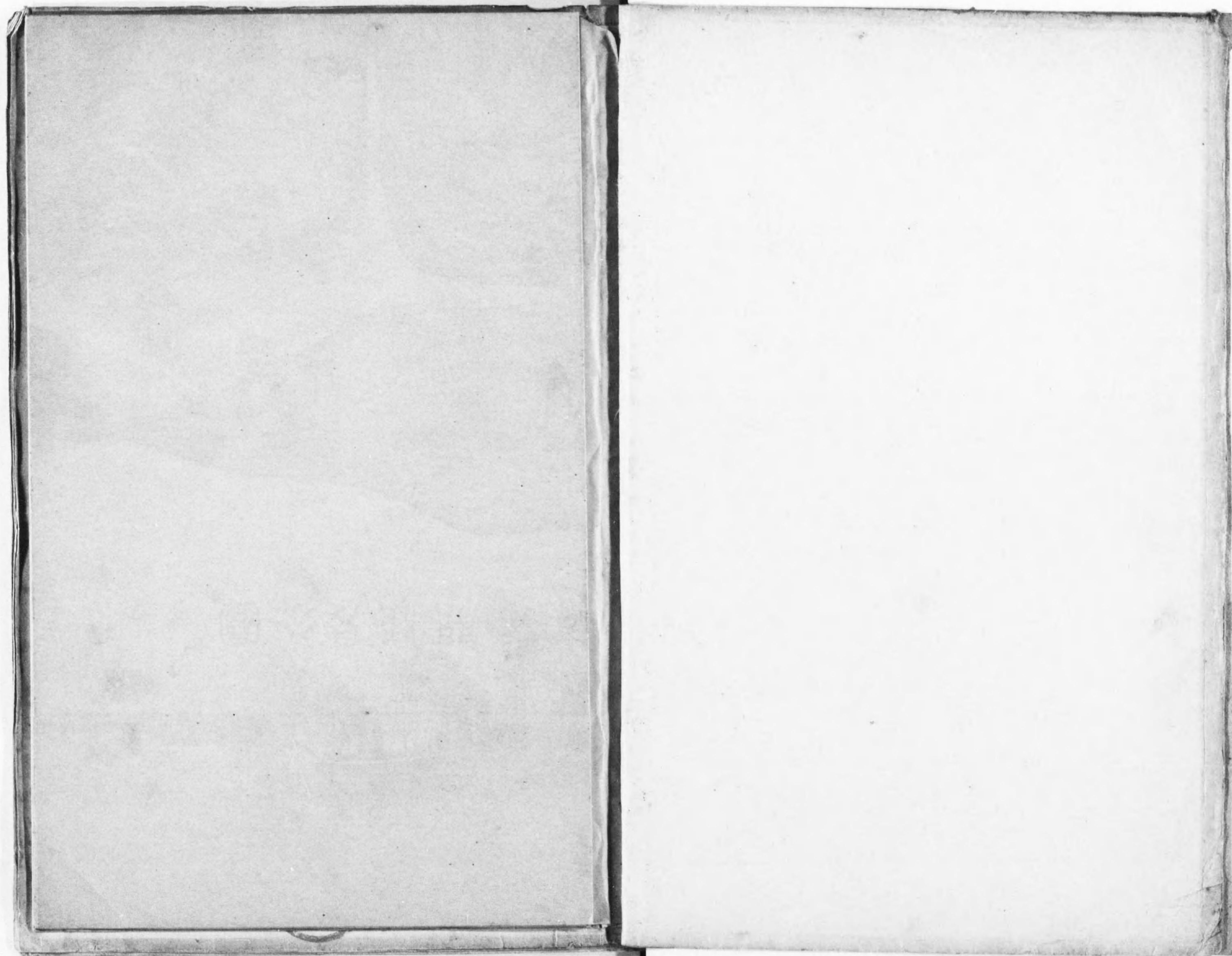
橫濱稅關沿革

稅關月報附錄

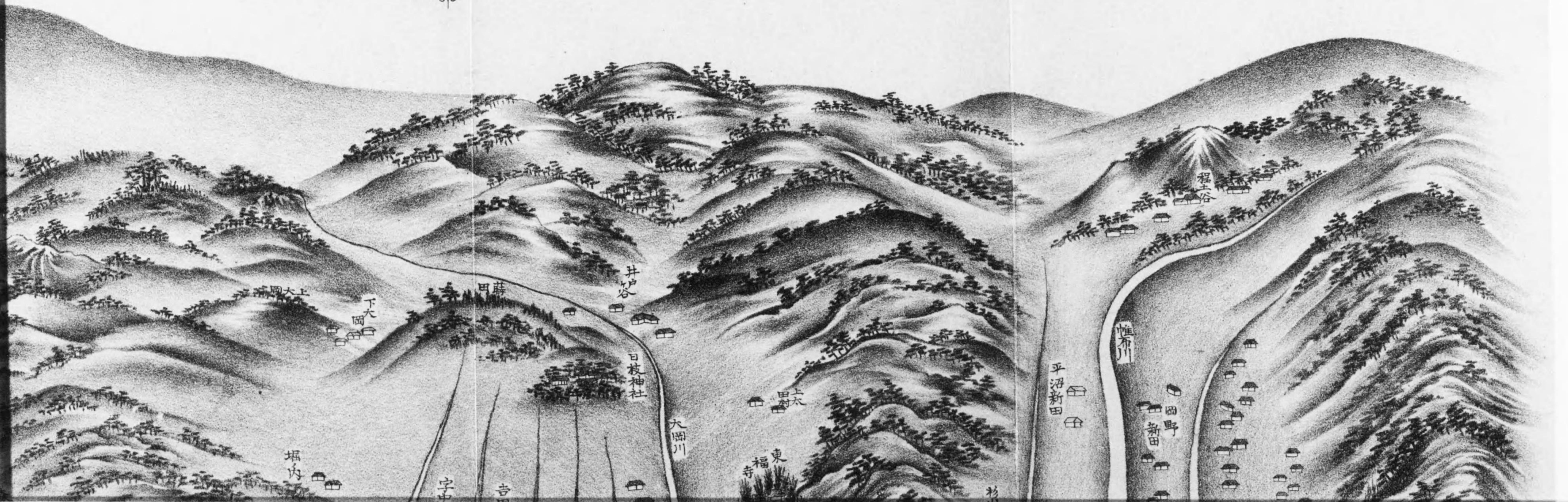
981
41

(非賣品)

新刊
橫濱稅關沿革

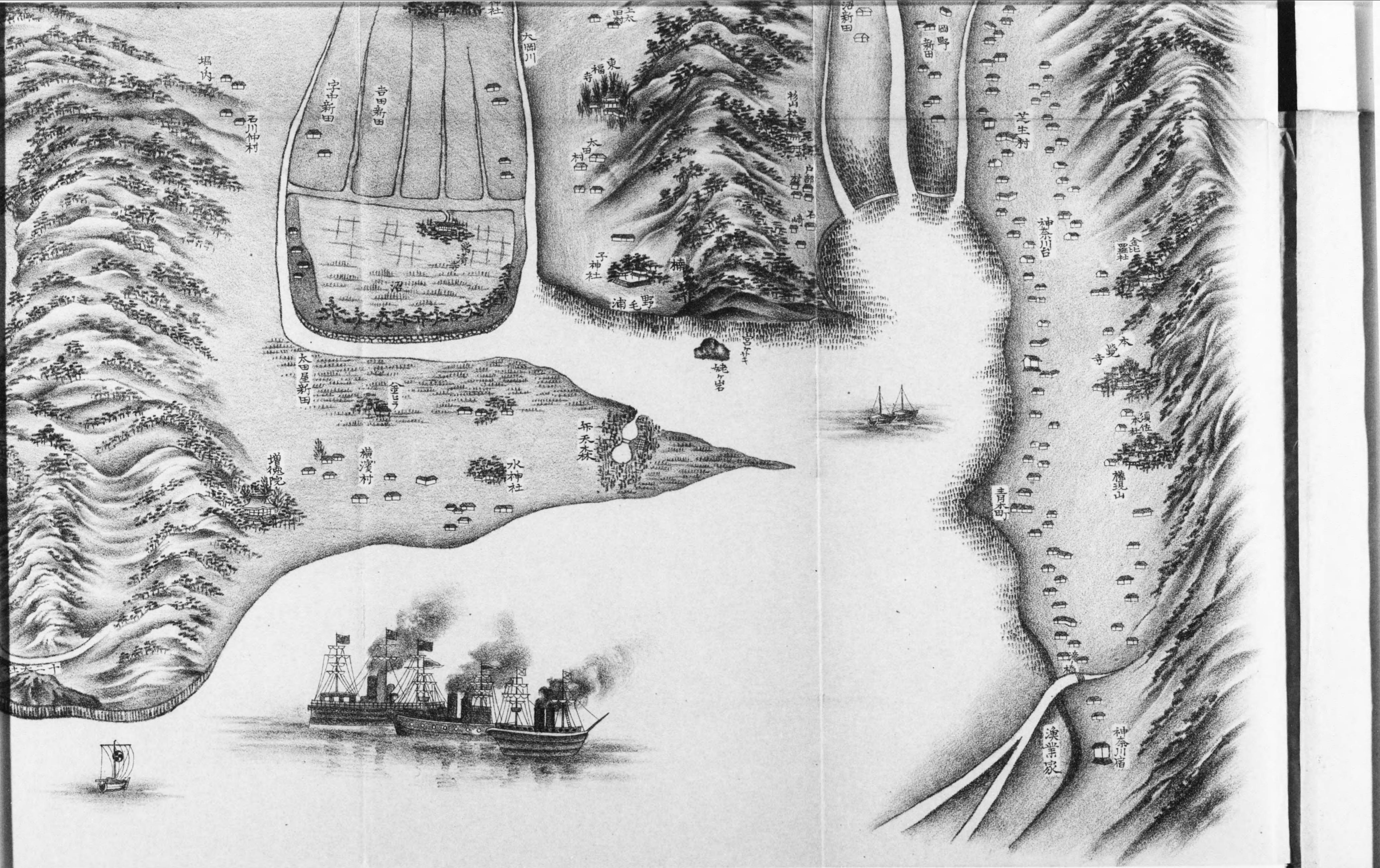


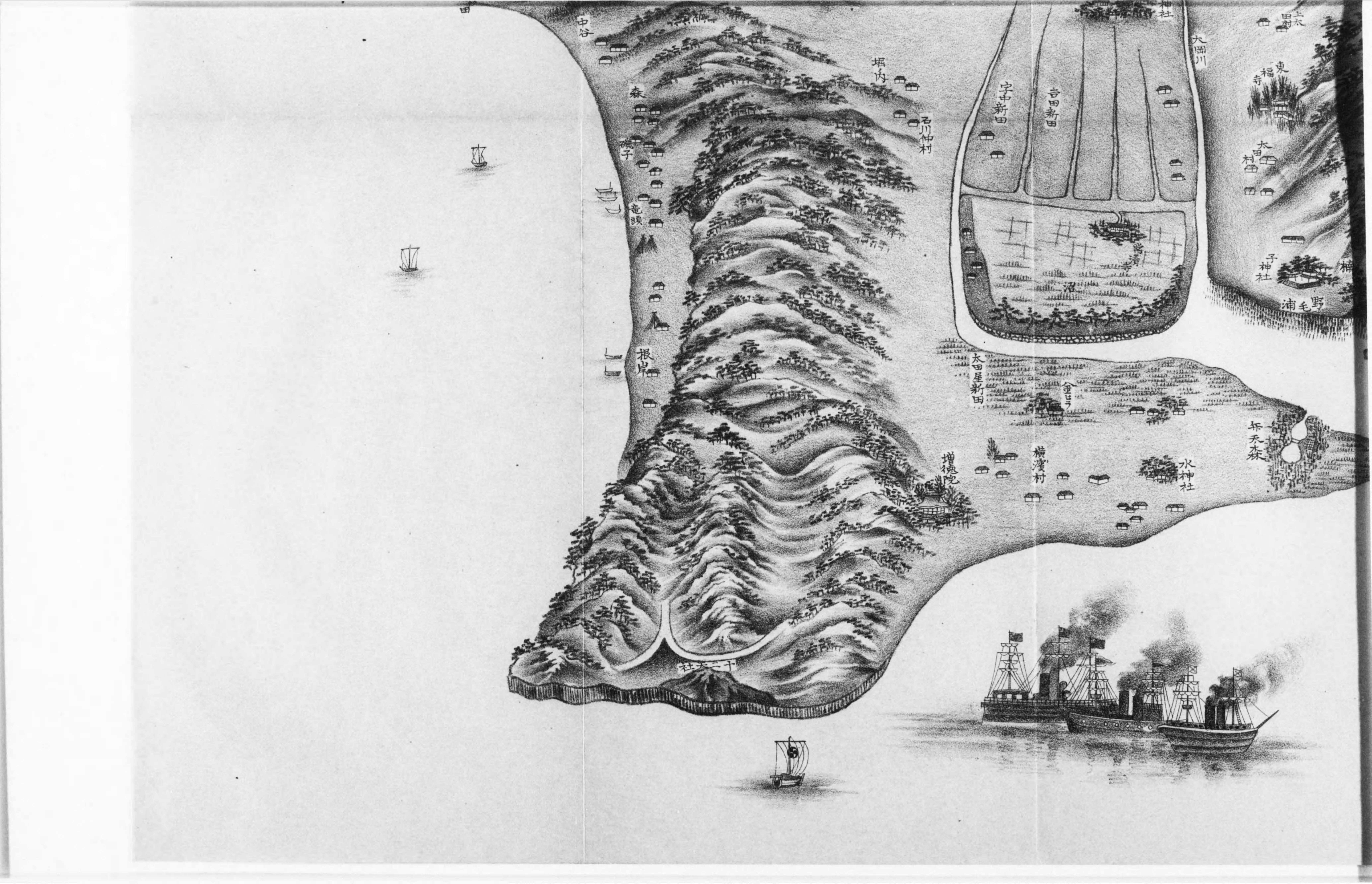
安政六年未嘗三月横濱開港見分圖



安政六年己未春三月横濱開港見分圖







中谷

堀内

石川村

森

磯子

竜頭

根岸

宇田新田

吉田新田

大田川

東福寺

大田村

子神社

浦毛野

大田屋新田

金目

増徳院

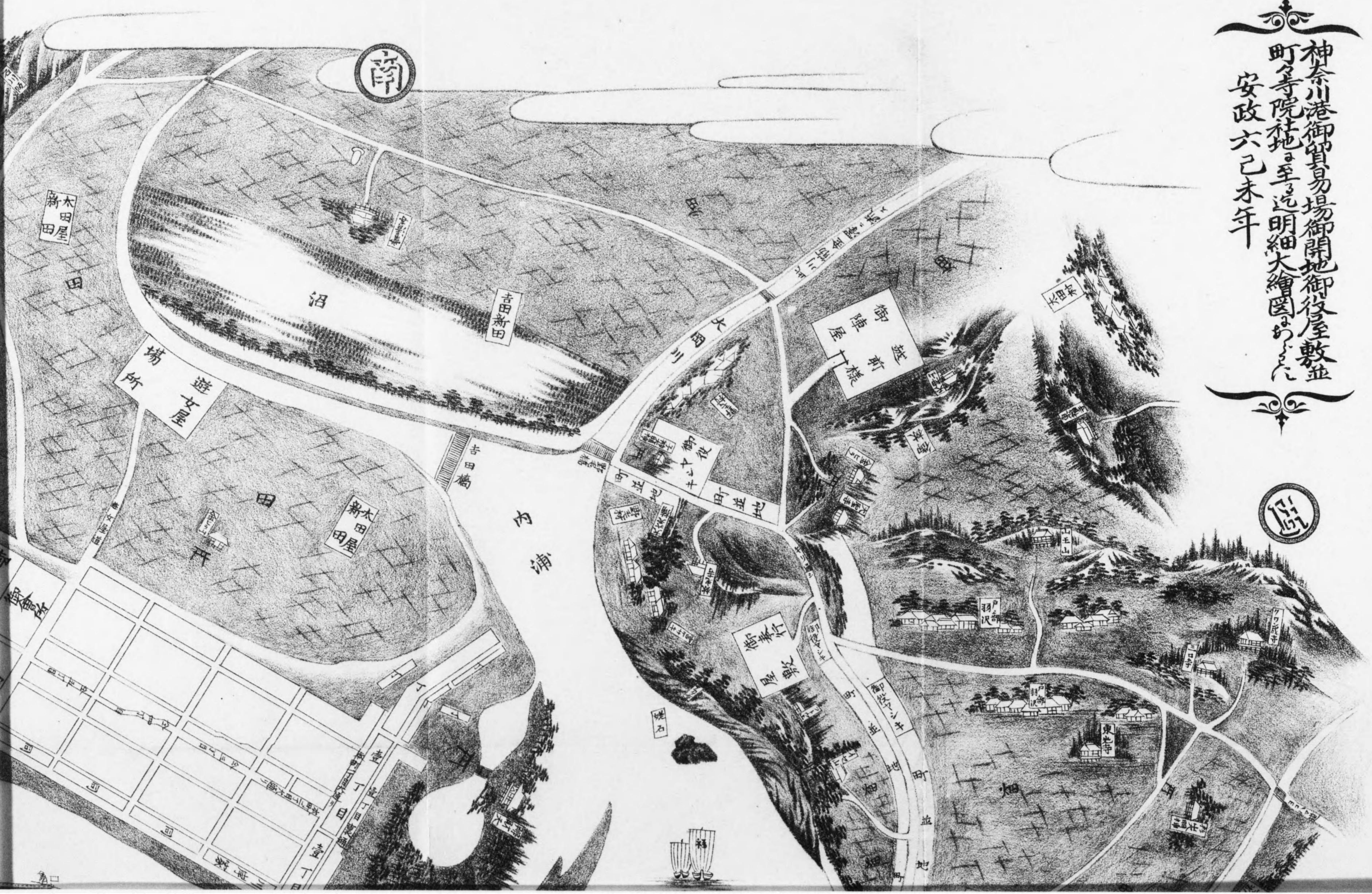
横濱村

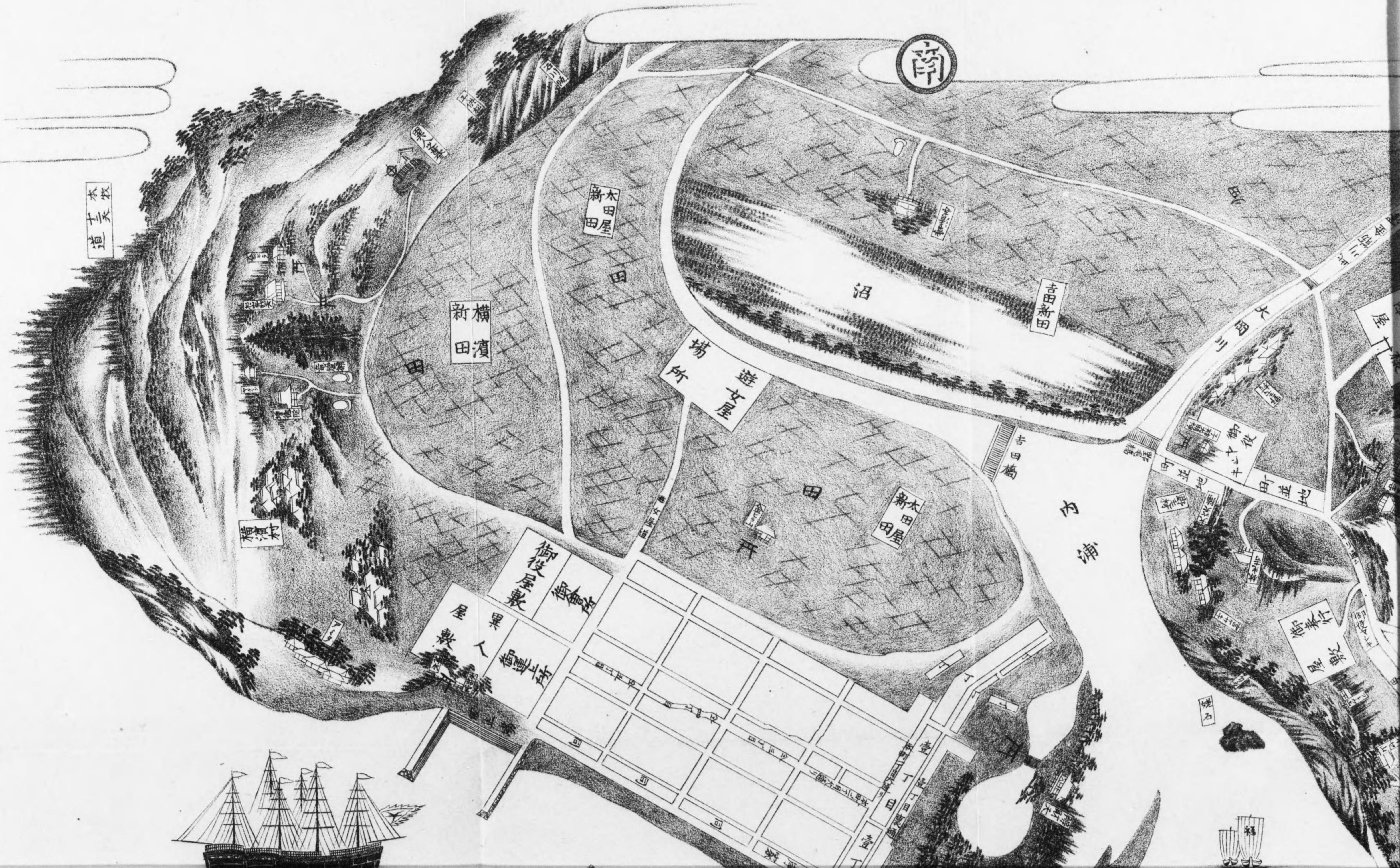
水神社

弁天森

社天二十

神奈川港御貿易場御開地御役屋敷並
 町奉行地至遠明細大繪圖
 安政六己未年





水天
道

南

新木田屋

吉田新田

新横田濱

遊女屋
場所

吉田橋

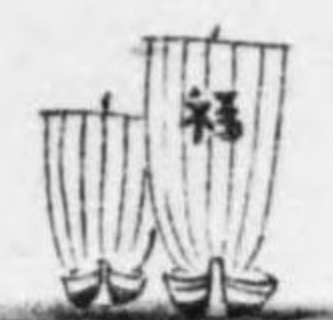
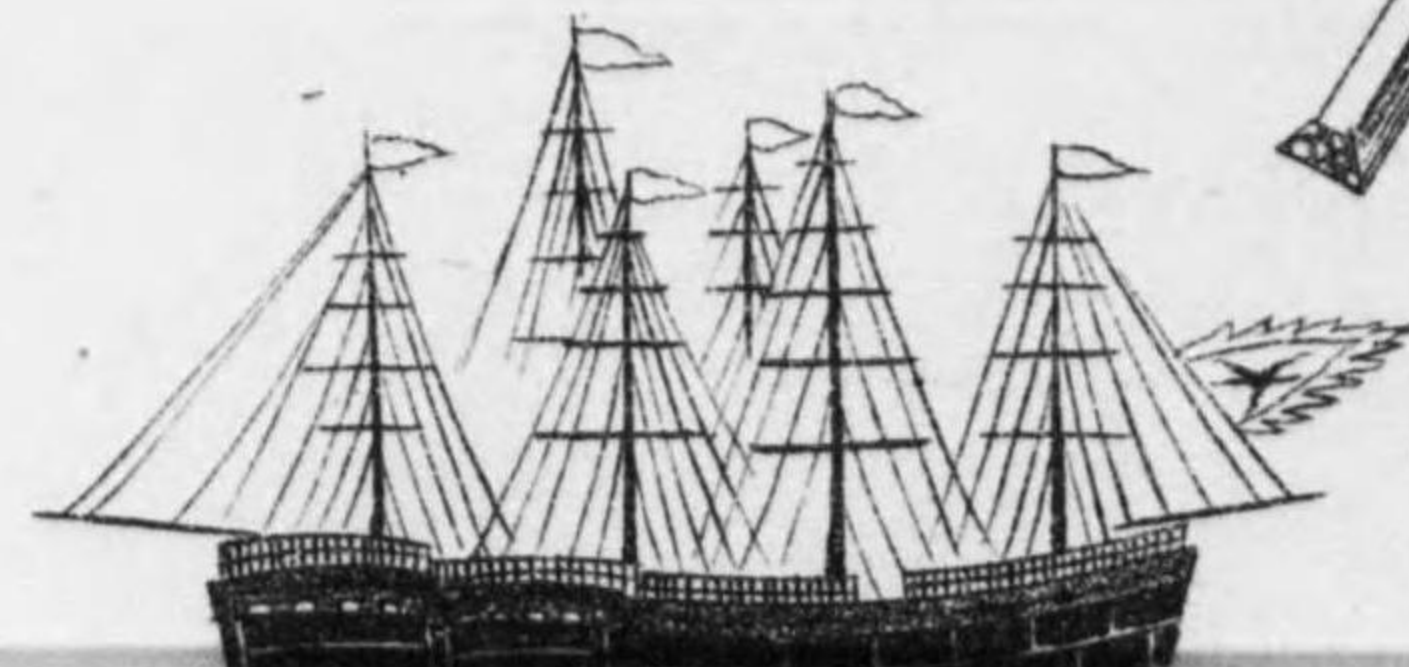
新木田屋

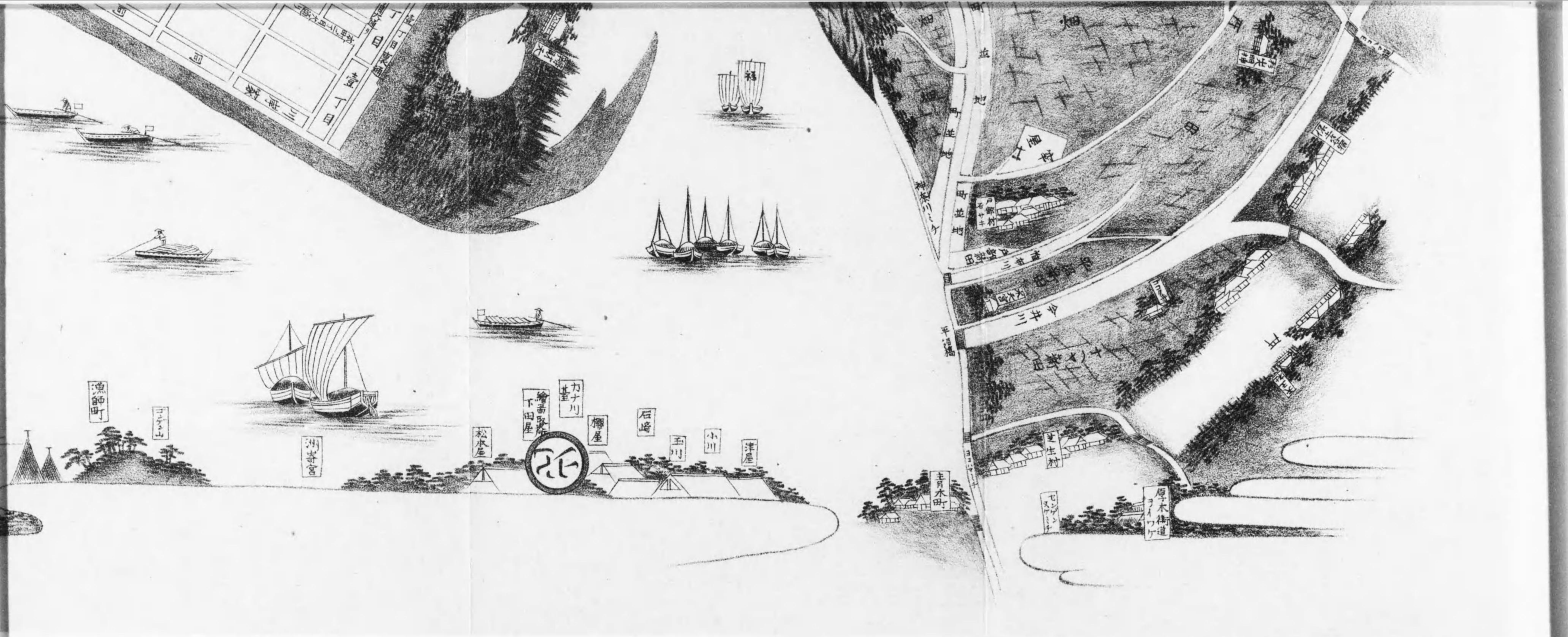
横濱村

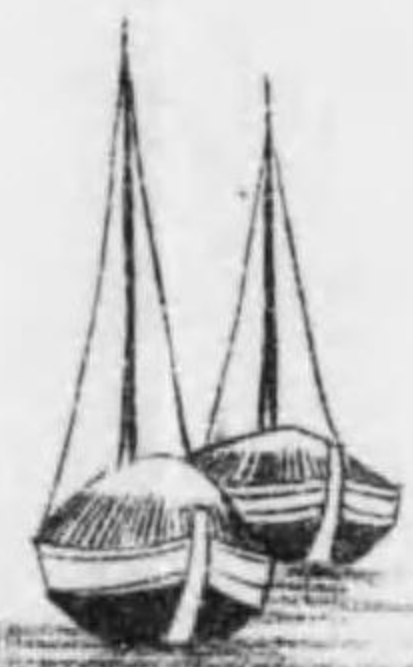
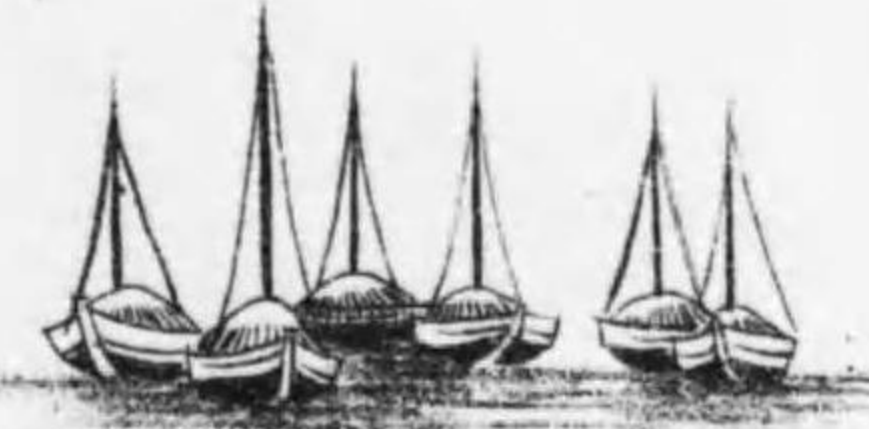
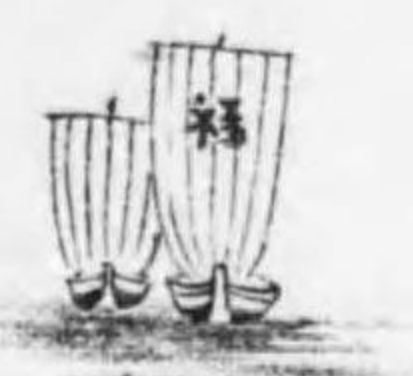
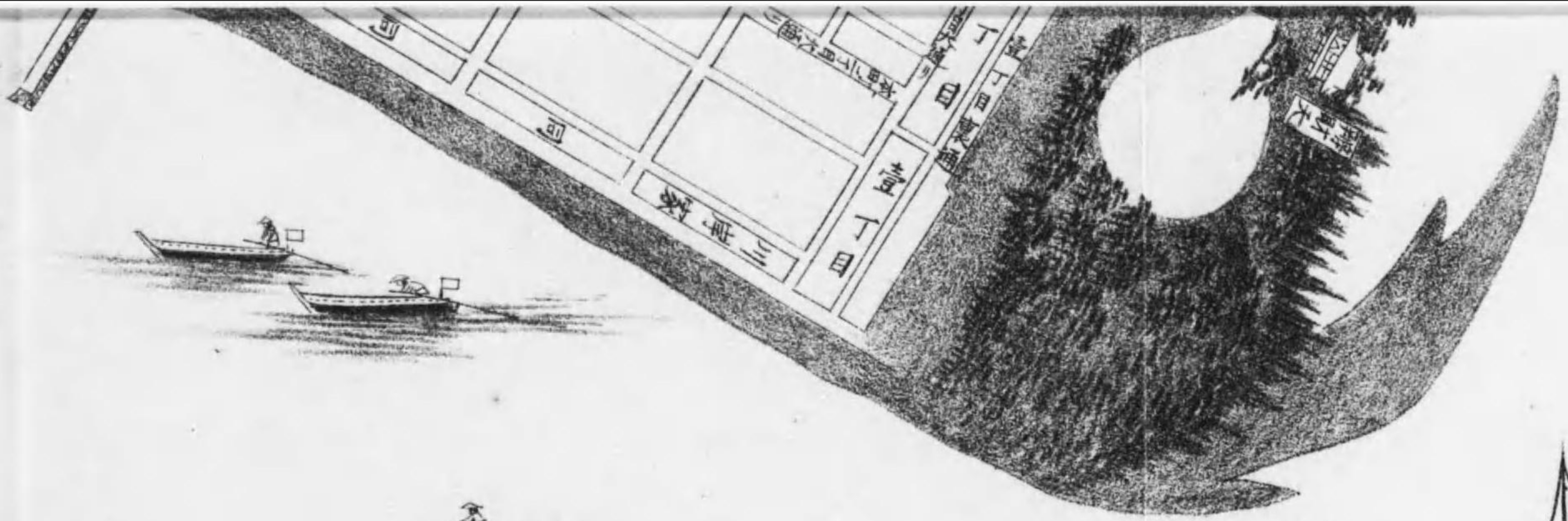
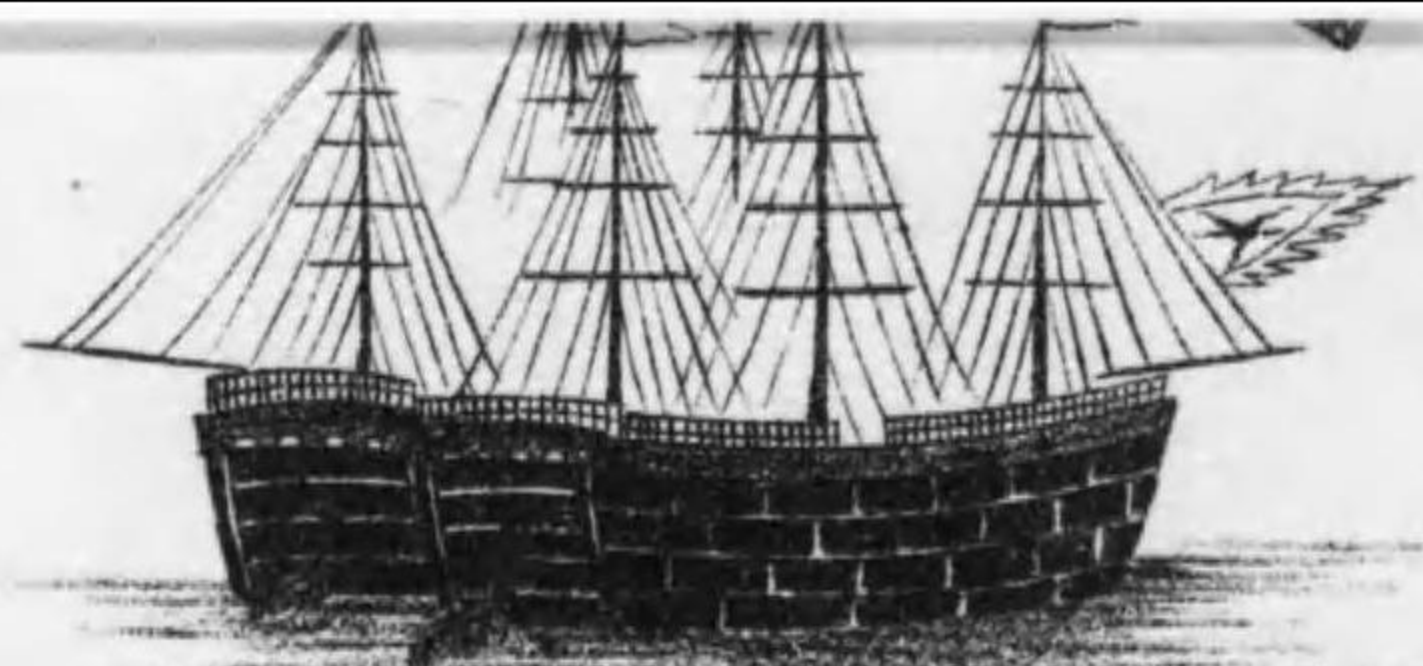
御役所
御奉行

屋敷
果人御奉行

御奉行
屋敷








 浦島社
 横濱本町
 新榮堂

三浦

魚師町

丁子山

洲崎宮

松本屋

繪田屋
下田屋



力十川

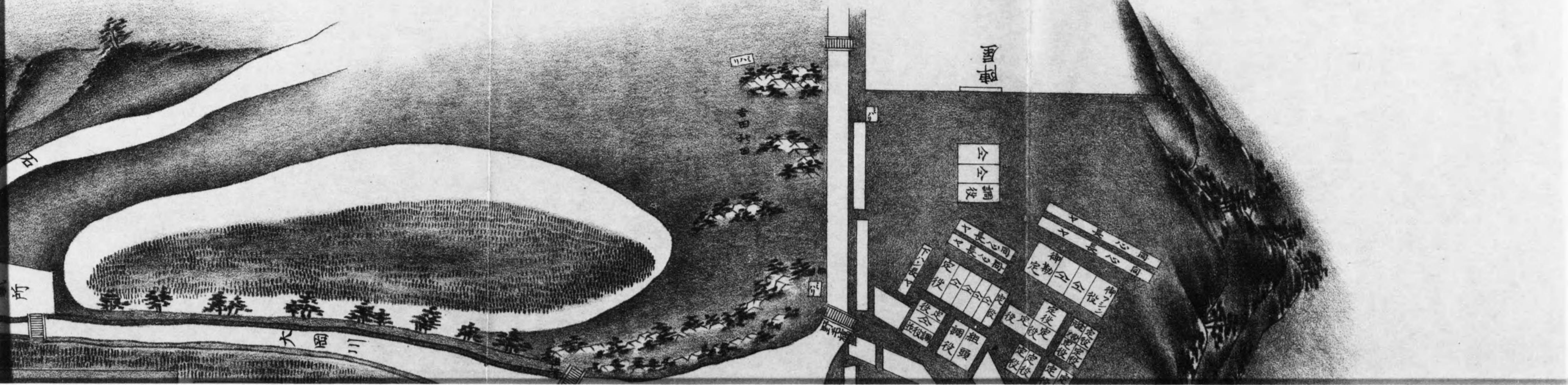
櫻屋

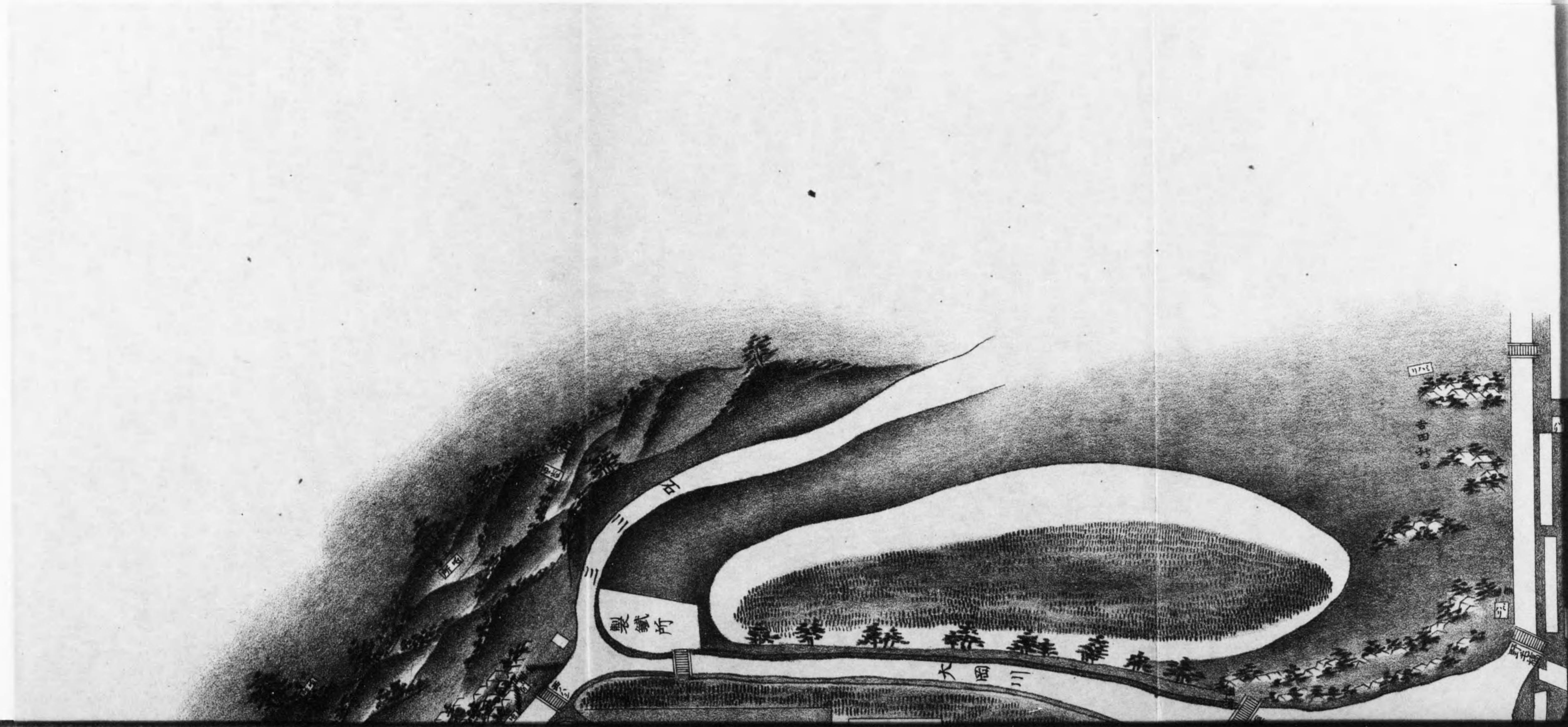
石崎

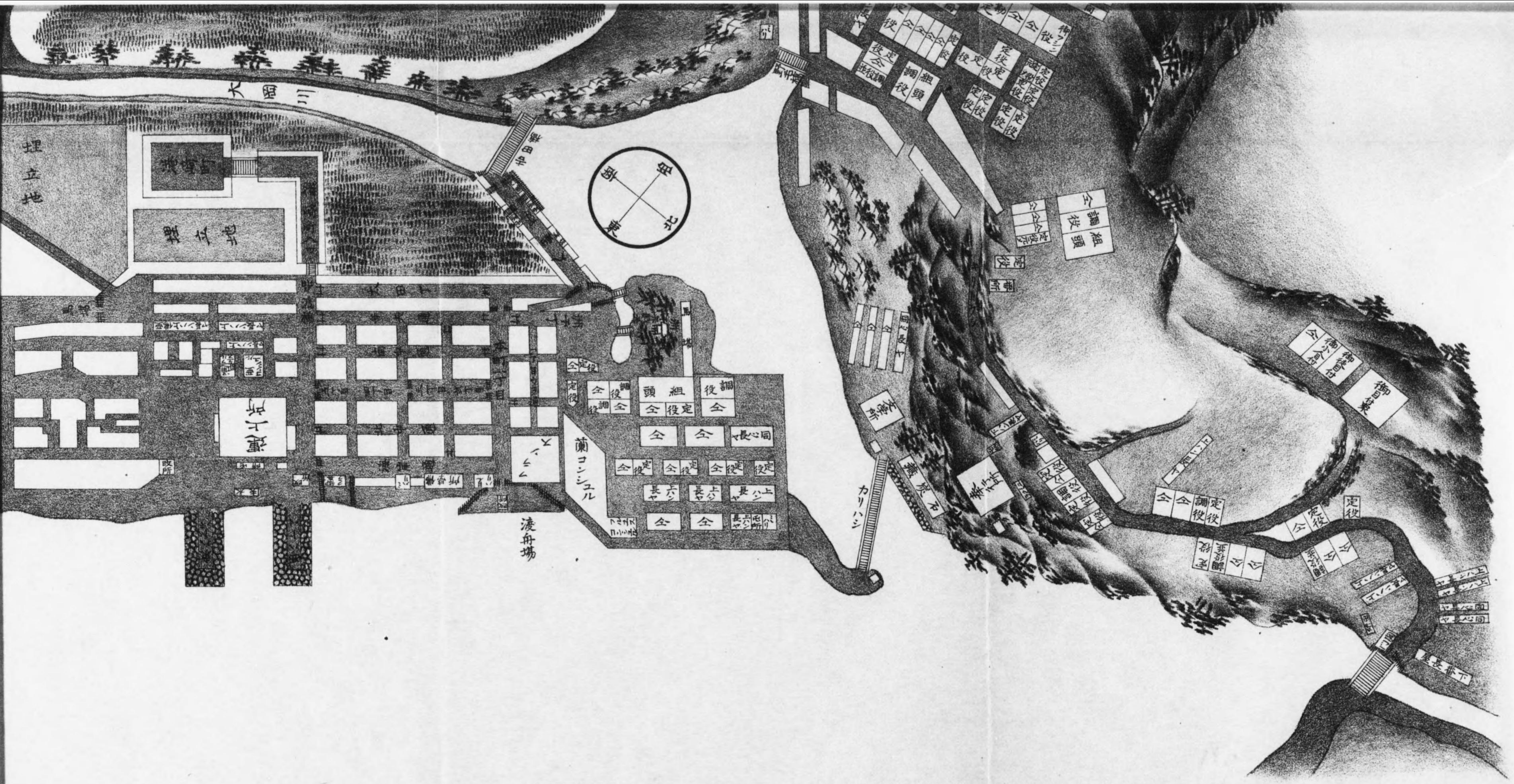
玉川

小川

津屋







埋立地

御所

埋立地

御所

渡舟場



蘭コンシユル

役調 全
組頭 全
役定 全
長心洞 全
長上 全
長中 全
長下 全
長左 全
長右 全

カリハシ

炭灰石

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

御所

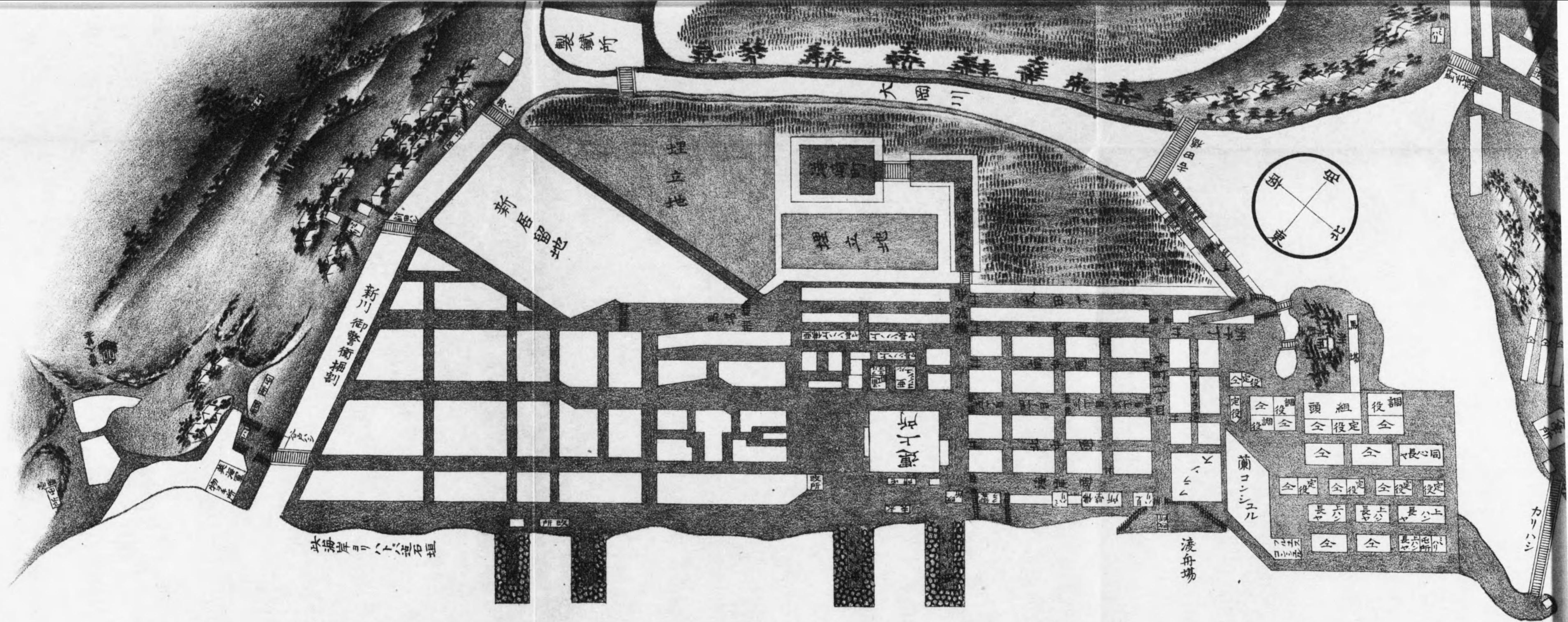
御所

御所

御所

御所

御所



文久三年、現景ナリ
 当時普請掛所藏ノ
 原圖ヲ復寫シタルモノ

678.3
Y75

横濱税關沿革

例言

一本篇ハ安政六年横濱開港ニ起筆シ明治三十四年ニ至ル本關沿革ノ概要ヲ列叙シタルモノニシテ專ラ本關并ニ大藏省保存ノ舊記公文等ニ依リ纂輯ス其明治四年以前ニ在テハ記録ノ存スルモノ少ク亦全ク之レ無キモノアリ故ニ或ハ古老ヲ叩テ其實歴ヲ聞キタルモノアレトモ今ヨリ四十餘年前ノ事跡ニ至テハ悉ク記憶ニ止マルモノアラス(其緒篇ニ掲ケタル開港ノ顛末ハ故神奈川奉行並合原猪三郎在職中ニ聞キタル實話ト浦港十日彙聞及横濱沿革誌等ニ依リ編綴シ又税關ノ起源及事務取扱ニ關スル事項并ニ各編ニ於ケル維新前ノ事跡ハ概テ其當時在職セル元主税官石川有幸ヨリ聞記シタルモノナリ)其他資料不備且急案ニ成ルヲ以テ闕漏誤謬亦尠ナカラサルヘシ猶補訂ヲ加ヘ初メテ全豹ヲ見ルヘキナリ

一舊記中年月日ヲ異ニシ或ハ月日ヲ書シテ年ヲ書セス或ハ年月アツテ日ヲ書セサルモノアリ彼是參照其正シキニ近キモノヲ採テ之ヲ録ス

明治三十五年二月

稲富信太郎氏寄贈本



981
4 1

橫濱稅關沿革

目錄

緒篇

橫濱開港顛末.....一頁

橫濱稅關起源.....一一

開港當時事務振興.....一三

第一編 職制并分課

第一章 本關.....二一

第二章 支署.....九九

第三章 監視署.....一〇三

第一節 築地稅關監視署.....一〇三

第二節 父島稅關監視署.....一一〇

第三節 本牧外八稅關監視署.....一二二

第四章 分課事務.....一二五

第一節 稅關長官房.....一二五

第二節 監視部.....一二七

第三節 監查課.....一四二

第四節 檢査課.....一五二

第五節 鑑定課.....一五三

目錄

橫濱稅關沿革



第六節 徵收課	一五七
第七節 貨物課	一六二
第八節 庶務課	一七一
附 慣行方法	一八一
第一編 船舶	一一五
第一章 外國船	一一五
第一節 郵船及商船	一一五
第二節 遊船	一二四
第三節 鯨漁船及遭難船	一二五
第四節 雇入外國船	一二六
第五節 內地製造外國船	一二八
第二章 內國船	一二九
第一節 外國通航船	一二九
第二節 沿海通航船	一三四
附 內國船難破漂流物及外國人ニ關係アル貨物ヲ積載シタル西洋形商船ノ 船難報告并ニ同證書ニ關スル事	二四一
第三編 貨物	二四五
第一章 輸入	二四五
第一節 陸揚、引取及仕入書	二四五
第二節 再輸入	二四七

第三節 內國品積戻	二四七
第四節 損傷品減稅	二四八
第五節 無檢査無稅通關貨物	二五〇
第六節 見本品	二五二
第七節 爆發物及揮發物	二五四
第八節 小包郵便物	二五五
第九節 返稅及追徵	二五七
第二章 積戻、積返及船移	二五九
第三章 輸出	二六一
第一節 普通輸出	二六一
第二節 再輸出	二六一
第三節 無檢査無稅通關及簡易通關	二六二
第四節 醬油、酒類造石稅及烟草稅ノ返戻及還納	二六二
第五節 輸出貨物ヲ内地ニ陸揚シタルトキノ措置	二六四
第四章 廻漕	二六四
附 課稅沿革表(印刷ニ附セス)	〇〇〇
第四編 倉庫并置場	二六九
第一章 借庫	二六九
第二章 一棟貸庫	二八五
第三章 保稅倉庫	三〇四

第一節 官設保税倉庫.....三〇四

第二節 私設保税倉庫.....三〇八

第四章 上屋.....三二一

第一節 官設上屋.....三二一

第二節 私設上屋.....三二五

第五章 貨物假置所.....三三六

第六章 假置場.....三四一

第七章 石川仲村揮發物揚場.....三四二

第五編 雜.....三四五

稅關休日ニ關スル事.....三四五

臨時開應并貨物積卸特許ニ關スル事.....三四七

臨時勤勞手當金ニ關スル事.....三五九

輸出入檢印ノ事.....三六二

從價稅品買上ニ關スル事.....三六三

預稅ニ關スル事.....三六四

鑑定官吏養成ニ關スル事.....三六八

見本室ノ事.....三七八

分析室ノ事.....三八一

稅關應舍ノ事.....三八二

稅關棧橋ニ關スル事.....三八六

稅關收入官吏ニ關スル事.....三九五

簿記ニ關スル事.....三九六

内外貨幣比較并收納ニ關スル事.....四〇五

稅關旗章ニ關スル事.....四一四

外國人雇入ニ關スル事.....四一六

英商ジョン、ハートリー阿片密輸事件.....四一九

密輸出入申告者ニ賞賜ノ事.....四三一

増シ稅并ニ謝銀ニ關スル事.....四三三

蕎麥ヲ慰勞ト爲セシ事.....四三四

稅關官吏服制ノ事.....四三八

稅關經費ノ事.....四五二

第六編 關稅警察.....四五九

第一章 關稅警察機關.....四五九

第一節 機關變移ノ概要.....四五九

第二節 監視官吏ノ配置.....四六四

第三節 監視官吏ノ任用賞罰.....四七四

第四節 監視船及同船員.....四八九

第二章 關稅警察事務.....四九四

第一節 港内碇泊船ニ關スル事務.....四九四

第二節 海陸交通ニ關スル取締.....五〇二

第三節 旅具検査……………五二八

第四節 外國船ノ不開港廻航……………五二八

第五節 犯則處分……………五二三

附 錄 (印刷ニ附セス)……………〇〇〇

統計諸表……………〇〇〇

諸書式……………〇〇〇

横濱税關沿革

緒 編

横濱港ハ古横濱村ト稱シ全村概テ漁業ヲ以テ生活トシ人烟稀少頗ル寂寥タル一小寒村ニ過キサ
 リシカ安政六年六月此地ヲ開港場ト定メタルヨリ内外ノ人々陸續玆ニ輻湊シテ忽チ繁華熱鬧ノ
 港ト變シ陸ニハ大厦高樓櫛比シ海ニハ大艦巨舶常ニ出入シ現ニ人口二十九萬餘人ヲ有シ輸出入
 年額二億二千二百餘萬圓ニ達セル一大貿易港トハナリタリ昔日攘鎖ノ說喧シキ時ニ當ツテハ誰
 レカ今日本港ノ隆盛ヲ夢想スルモノアラシヤ既往四十餘年ヲ回顧スレハ其進化ノ急劇ナルコト
 蓋シ本港ノ如キハ稀ナリ冒頭ニ掲ケタル地圖ニ依リ開港前後ニ於ケル變遷ノ跡ヲ推知スヘシ今
 玆ニ本關沿革ヲ記述スルニ當リ其開港ノ顛末ヨリ税關ノ起源等ニ及ヘル梗概ヲ列叙シ以テ緒編
 ニ充ツ

横濱開港ノ顛末

弘化嘉永ノ初年ニ當リテ外國艦船ノ我カ房相ノ海洋ニ遊戈シ或ハ進ンテ三崎附近ニ侵入シ來リタル
 モノモ少カラス而モ幕府ハ鎖國ノ遺憲ニ則リ令ヲ沿海警護ノ士ニ下シ是等ノ艦船ヲ望見セハ直ニ發
 砲擊退スヘキヲ以テセリ當時ノ俚言之ヲ打拂ト云フ弘化三年閏五月北米合衆國ノ軍艦二艘相摸國浦
 賀港ヘ渡來シ同所奉行大久保因幡守忠豐ニ就テ互市ヲ請フ幕府聽カスニ艦空シク去ル後幕議漸ク變
 シ打拂ヒノ禁ヲ弛フルニ當リ嘉永六年六月三日(西曆一千八百五十二年七月八日)北米合衆國水師提督「ベルリ」四隻ノ軍
 艦ヲ率ヒ彼我修交ノ全權使節トシテ相摸國浦賀沖ニ來航セリ是ヨリ先キ幕府ハ外船ノ我カ沿岸ニ到
 來スルモノアレハ長崎ニ回航セシメ同所ニ於テ應接セシムヘキ命ヲ下セルニヨリ時ノ浦賀奉行戸田
 伊豆守ハ右ノ米艦ニ對シテモ同シク長崎回航ヲ要求シタルニ彼レ是ニ應セス進ンテ本牧沖ニ至リ投

錨ス終ニ幕府ニ經伺ノ上同六月九日久里濱ニ上陸ヲ許スコトナリ同所ニ假小屋ヲ建設シ浦賀奉行以下ノ諸役人ハ「ペルリ」ノ一行ニ面接シ彼ヨリ提出シタル國書ヲ受理シ之ヲ幕府ニ進達セリ(同國書ルリ上書ノ和譯全文ハ)而シテ「ペルリ」ハ其提出シタル國書ニ對シ我カ政府カ回答ヲ爲スニ多少ノ猶豫ヲ要スヘキヲ諒シ同六月十二日米艦ハ一旦悉ク浦賀ヲ引上ケタリ

翌嘉永七年一月「ペルリ」ハ國書ノ返答ヲ得ンカ爲メ更ニ軍艦八艘ヲ率ヒ東京灣内金澤附近ニ來リタルヲ以テ時ノ浦賀奉行ハ通譯ヲ役シテ浦賀ニ引還サシメント欲シタルモ彼レ之ヲ諾セス尙ホ進ンテ本牧ノ陰乃チ現時ノ横濱港ニ投錨セリ是レ畢竟彼レノ率ユル所概子巨艦ニシテ浦賀港ニ碇泊スルコト極メテ難キノ致ス所ナルカ故神奈川ニ於テ應接スル事トナセシモ同所ハ東海道ノ街路ニ當リ往來頻繁ニシテ應接所ヲ開クニ適セス遂ニ浦賀奉行ハ諸役人ヲ引率シテ横濱村ニ出張シ同所ノ海濱ニ於テ假小屋ヲ建設シ彼我全權互ニ應接スルコトトナリタリ(假小屋ノ位地現横濱稅關所在地近傍ニシテ當時ノ模樣ヲ描出セル繪圖アリ下ニ挿入スル所ノ如シ)右應接ノ結果トシテ日米和親條約(俗ニ「ペルリ條約」ト稱ス)締結セラレ同條約ノ規定ニ依リ薪水食料ノ缺乏ヲ供給スルカ爲メ下田及函館ノ二港ヲ開クコトトナリ下田ハ同條約調印ノ即日乃チ嘉永七年(安政元年)七月三日開始シタリ

下田ニハ稻生川口ニ御用所一ヶ所ヲ建設セラレ浦賀奉行ノ配下ニ屬スル同心二名常ニ同所ニ詰メ居リ米國ノ船艦ニシテ薪水食料ノ缺乏ヲ補ハシカ爲メ同港ニ來泊スルコトアレハ之ヲ供給スルノ勞ヲ執リタリ而シテ是等ノ授受ハ凡テ船艦内ニ於テ行フヲ例トセリ又條約ノ規定ニ下田港ヨリ七里以内ノ地ハ外人ノ遊歩ヲ許セルニ依リ艦船員等碇泊中ノ徒然ヲ慰ムル爲メ往々下田附近ノ地ヲ逍遙シ其際民家ニ就キ漆器類ヲ購求シタルコトアリ然レトモ當時ノ布達ニ依リ人民ハ直接ニ外人ト取引スルコト能ハサリシカ故ニ此場合ハ人民ヨリ右ノ御用所ニ届出テ同所諸役人ヨリ該艦船ニ要求シテ代金ヲ下附スルノ制ナリキ而シテ爾來外人カ自用品トシテ漆器類ヲ購入スルモノ續々増加スルニ當リ伊

豆邊ノ商人相結ンテ御用所近傍ニ詰所壹ヶ所ヲ建設スルニ至レリ尙ホ下田開港後米國以外ノ外國艦船ニシテ同港ニ來航シタルモノ追次増加スルニ至ル是等ハ何レモ條約未濟國ニ屬スルモノナリシモ當時ノ幕議既ニ開國ニ傾ケルヲ以テ何レモ米國船同様ノ待遇ヲ爲シタリ後安政五年ニ至リ米國ヲ初メトシ佛、英、露、蘭、諸國トノ通商條約締結セラレ其結果トシテ翌年六月二日ヲ以テ貿易ノ爲メ神奈川ヲ開キ下田ハ神奈川開港後六ヶ月ニシテ閉鎖スルコトトナリタルニ由リ下田ニ於テ外人取扱事務ニ從事シタル諸役人等モ從テ神奈川ニ引移リタリ

前記ノ各國條約ニ先チ開港ノ地ヲ定メントスルニ當リ米國使節「ハルリス」ハ江戸ヲ開港ト爲サンコトヲ主張セシモ我應接ノ有司ハ當時江戸ハ武士輻湊ノ地ニシテ猶ホ攘夷熱盛ナルヲ以テ外人ニ對シ不測ノ變アラシコトヲ慮リ横濱ヲ開港ト定ムヘシト説示ス彼レハ横濱ハ江戸ヲ距ルコト遠シトテ容易ニ之ヲ肯セス依テ百方應接ノ末遂ニ神奈川ヲ以テ開港地トナスニ決シ條約ヲ締結シタリ

安政六年六月二日條約ニ基ケル神奈川開港ノ日ハ來レリ然ルニ神奈川ハ東海道ノ街路ニ當リ關西諸侯ノ通行地ニシテ諸藩士ノ往復頻繁ナルカ故ニ開港地トシテ茲ニ外人ノ居留ヲ許サハ後難又隨テ生センコトヲ虞レ依テ又彼レニ説クニ神奈川ハ前海ニ面シ後ハ山ヲ負ヒ驛内頗ル狹隘ニシテ居留地トナスニ適セス横濱ハ土地廣濶屋舎等ヲ建造スルニ便利ナルノミナラス前海ノ水深クシテ大船巨舶ヲ入ル、ニ足リ殊ニ「彼理」上陸ノ場所ナリ神奈川横濱名稱ハ異ナレトモ共ニ同一ノ地ニシテ横濱ハ神奈川ノ一部ニ過キス依テ茲ニ居留ノ館舎ヲ建設スルノ宜シキニ如カサルヲ以テス彼又肯セス條約ニ神奈川トアルカ故ニ必ス同地ニ非スンハ不可ナリト主張シ反覆辯説スレトモ聽カス談判ノ有司等大ニ究困シタリ時ノ外國奉行水野筑後守忠徳英斷ヲ以テ横濱ニ土木ヲ起コシ官衙等ヲ建設シ我商民ヲ誘導移往セシム其勢ニ依リ各國人ヲモ承伏セシメ遂ニ横濱ヲ外人ノ居留地トシ開港場トナスニ至レリ然ルニ當時「ハルリス」ハ前約ヲ堅ク執ツテ動カス爲メニ各國領事ハ神奈川驛内ノ寺院ヲ借

リテ之ニ寓居シタリシカ横濱ノ一日ト繁盛ニ赴クニ從ヒ不便ニ堪ヘスシテ漸々同地ニ移リ來タレ
リト云フ

合衆國伯理璽天德書翰和解

北亞墨利加合衆國の伯理璽天德ミルラルド、ヒルモオレ名人書を日本國帝殿下に呈す
予今水師提督マッテウ。セ。ペルリを以て書を殿下に呈す此者は即ち合衆國の海軍第一等の將
にして今次殿下の領地に航到せる一隊軍艦の總督なり予已に水師提督。ペルリに命じて予が殿
下に對し且つ貴國の政廷に對し極めて懇切の請を含むことを告明せしめ又且つ今次ペルリを日
本に遣せしは他の旨趣あるにあらす唯我か合衆國と日本とは宜く互に親睦し且つ交易すべき所
なるを告げ知らしめむと欲するにあるのみ
合衆國の基律及び諸律は固より其各個民人に禁戒を下し他邦の民の教法政治を妨ぐることを得さ
らしむ予特に水師提督ペルリに命じて是等の事を嚴禁せしむ是貴國の安穩を妨げさらむとを欲
してなり北亞墨利加合衆國は太西洋より太東洋に達するの國にして就中其オレゴン及び角里伏
爾尼亞を發すれば十八日を経て貴國に達することを得るなり我か角里伏爾尼亞の大州は毎歲凡
り金六千萬ドル按ニ一ドルは和蘭の二ギ今ギユルデンを銀四匁五分に當るとし銀六十匁を金
ニ換スルニ當ルニハ當るニ當るとし銀六十匁を金
壹兩と定め算すれば六千萬ドルは本邦の一千一百五十二萬四千五百匁に當る銀若干水銀若
干寶石若干種及び其他諸種貴重の物件を産す日本も亦豊富肥沃の國にして幾多貴重の物品を産
す貴國の民亦諸般の技藝に長せり予か志二國の民をして交易を行はしめんと欲す是以日本の利
益となし亦かねて合衆國の利益とならんと欲してなり

貴國從來の制度支那人及び和蘭人を除くの外は外邦と交易することを禁ずるは固より予か知る所
なり然れども世界中時務の變換に隨ひ改革の新政行はるゝの時に當ては其時に隨ひて新律を定
むるを智と稱すへし蓋し舊制の法律初めて世上に聞へし時は今より之を見れば既に甚た古り
たり此時代に當りて亞墨利加洲始めて見出され或はこれを新世界と名つけ歐羅巴人これに住棲
せり此頃在つては亞墨利加は人民稀少にして其民皆貧陋なりしか當今は民口大に蕃殖し交易
亦甚以弘博となれり故に殿下若し舊律を改革し兩國の交易を允准あるに於ては兩國の利益極め
て大なる事疑なし然れども殿下若し外邦の交易を禁停せる古來の定律を全く廢棄するを欲せさ
る時は五年或は拾年を限りて允准し以て其利害を察して若果して貴國に利なきに於ては再び
舊律を回復して可なり凡て合衆國他邦と盟約を行ふには常に數年を限りて約定す而して其事便
宜なるを知る時は再盟約を續くこととす予更に水師提督に命じて一件の事を殿下に告明せしむ
合衆國の船每歲角里伏爾尼亞より支那に航するもの甚た多し又鯨獵の爲め合衆國人日本海岸に
近づくもの少からず而して若し颶風ある時は貴國の近海にて往々破船に遇ふ事あり若し是等の
難にあふに當ては貴國におゐて其難民を撫卹し其財物を保護し以て本國より一船を送り難民を
救ひ取るを待ん事是予か切に請ふ所なり
予又水師提督ペルリに命じて次件を殿下に告げしむ蓋し日本に石炭甚多く又食料多きことは予
か曾て聞知せる所なり我か國用ふる所の蒸氣船は大洋を航するに方つて石炭を費すこと甚た多
く而して其石炭を亞墨利加より運搬せんとせば其不便知るへし
是を以て予願はくは我國の蒸氣船及び其他の諸船石炭食料及び水を得んか爲に日本に入ること
を許されんことを請ふ蓋し其償には價銀を以てするも可なり請ふ殿下貴國の南地に於て一地を
擇ひ以て我か船の入港を許されんことをこれ予か深く願ふ所なり右の故を以て予今水師提督へ

ルリに命じて一隊の軍艦を以て貴國有名の大府江戸に到らしむ和親交易石炭食料及合衆國難民の撫卹は即ち其件々なり予更に水師提督ペルリに命じて非微の土物を獻せしむ願はくはこれを容れんことを其物固より甚た貴からすといへども亦以て合衆國中諸物製造局の概を見るに足るべく且つ予が正實敬愛の微衷を表するに足らむか

然して祈る皇天殿下の爲に祥を垂れんとを爾書し畢て爰に合衆國の大印章を印し且つ自ら姓名を署す時に千八百五十二年十一月十三日我嘉永五年壬子十月二日予が政務の本所亞米利加ワシントン府に於てす

ミルラルドヒルモオレ

親筆

伯理璽天德の命を受けて

外國事務宰相エドワルドエヘレット 親筆

合衆國伯理璽天德副翰和解

北亞墨利加合衆國の伯理璽天德「ミルラルド・ヒルモオレ」書を

日本國帝殿下に呈す

合衆國水師提督「マツテウ・ペルリ」は其人となり誠實周密才能あるを鑒識し拔擢して全權の任に膺らしめ合衆國の使節として貴國の同等權要の位にある官人一員若くは數員に逢ひ語言を交へ且つ一次若くは數次の會同を爲して兩國の親睦交易航海及び其他兩國の民人に切要なる諸件の和約を締ひて是を書記し更に伯理璽天德の允准を經し所なり爰に云へる所の事件を證する爲め合衆國の印位を印してこゝに附す

千八百五十二年即ち北亞墨利加合衆國獨立建國以來七十七年十一月十三日嘉永五年壬子十月二日「ワシントン」府にねめて ミルラルド・ヒルモオレ 親筆

伯理璽天德の命を奉して

外國事務宰相エドワルドエヘレット

親筆

合衆國水師提督上書和解

日本國皇帝に上つる書

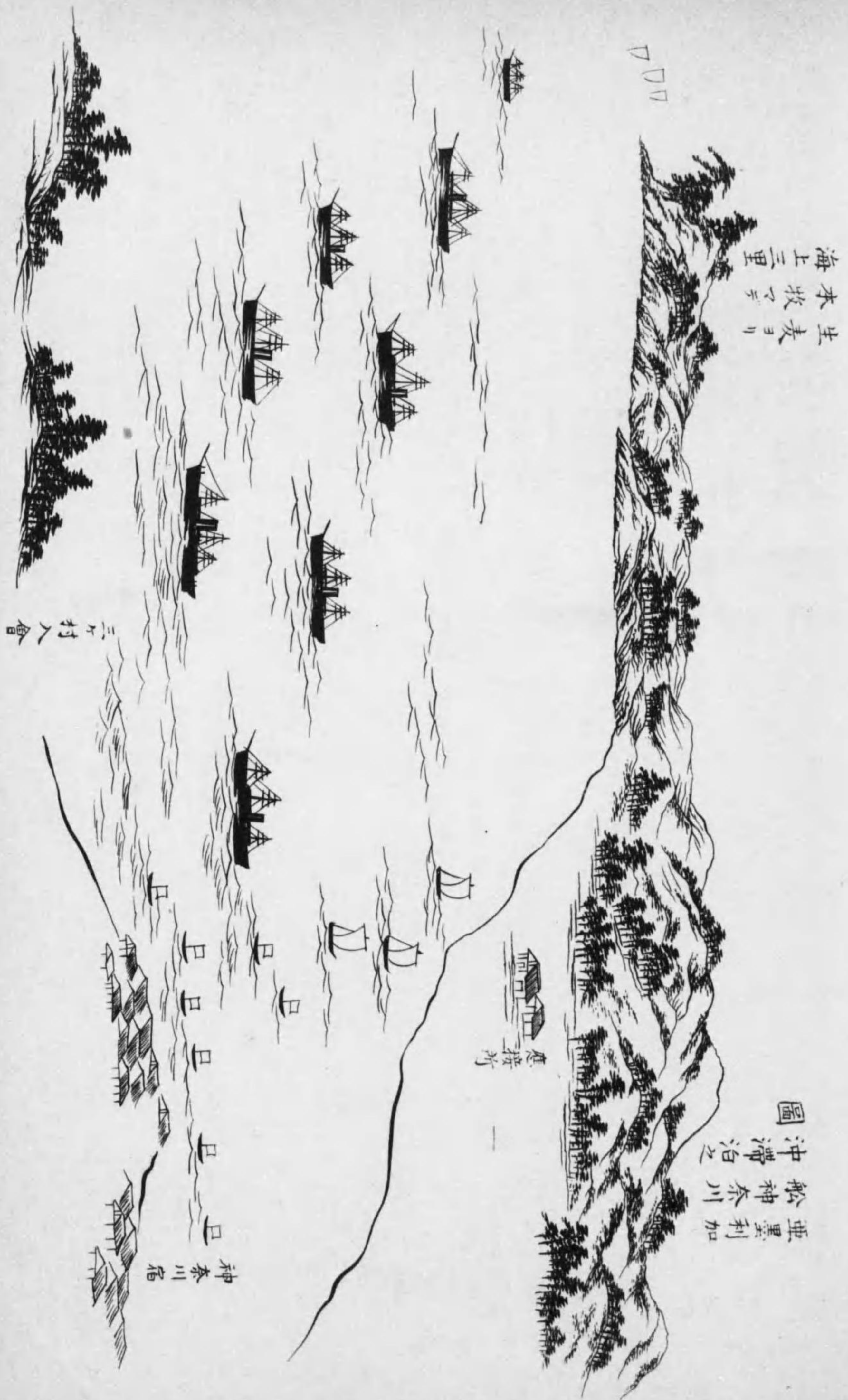
外臣ペルリ(名)は東印度支那日本海に備へたる北亞墨利加合衆國の兵勢を統帥せる者なるか今度本國より命せられて好意を以て此國に差撥し便宜に應じて事を行へべき大權を役にして日本の政廷と事を謀らしむ其事體は我か合衆國伯理璽天德の書牘の中に詳に記載す右書牘及び外臣ペルリ(名)に欽差全權の任を寄托せる書は共に英吉利和蘭支那の文に翻譯し併せて之を呈す伯理璽天德より上せる本書及び欽差の本書と共に日本國帝殿下に高貴なる爵位に應じて調度せり外臣當に親目繳納すへし願はくは殿下豫め交收の日期をトして告示せんことを某更に殿下に上告すへき命を受けて伯理璽天德は日本に對し友愛の意志を抱けるに合衆國の士人彼是の緣故ありて貴國の地方に來り或は船難にあふて此地方に漂到せるときは貴國是に待遇すること仇敵の如くなるは實に驚駭痛心する所なり是蓋し往年貴國にて亞墨利加船「モリソン」「ラゴダ」「ラウレセン」(共に船名)に遇するの所置に就て云ふなり

亞墨利加人は猶基利督宗諸國西洋諸國の習俗のごとく其國の海岸に漂到せる者は何れの地の人たるを論せず愛し容れ且拯救撫卹を以て仁慈の所爲とせり是を以て貴國の民人合衆國の領地に漂

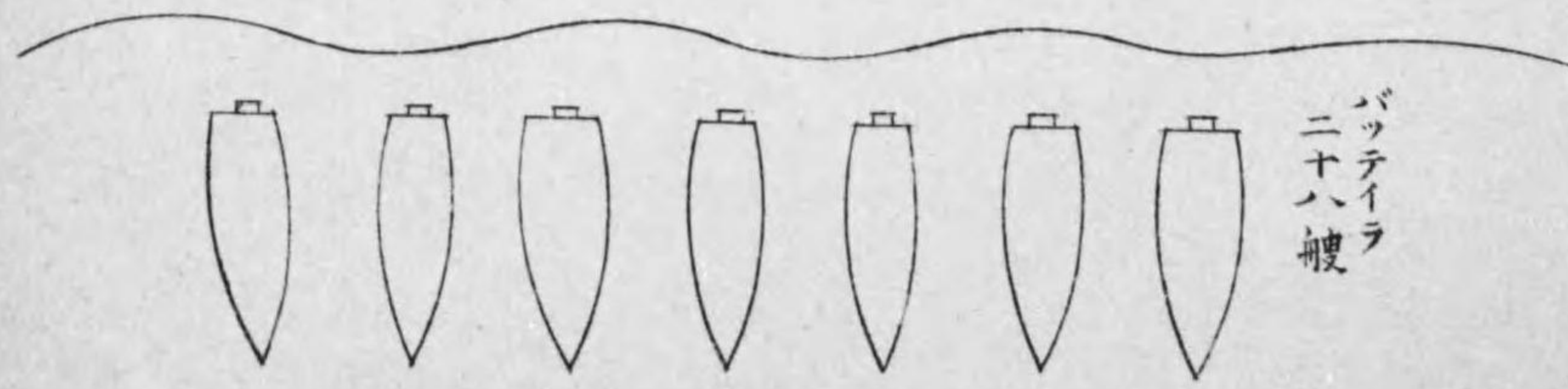
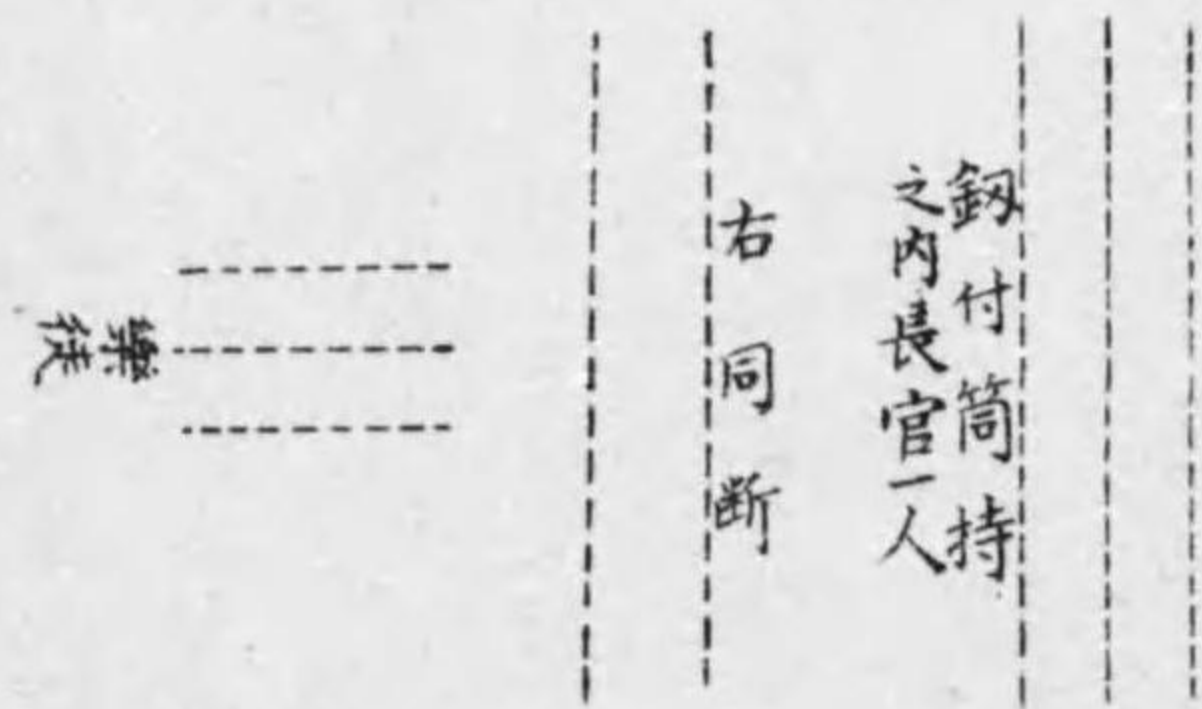
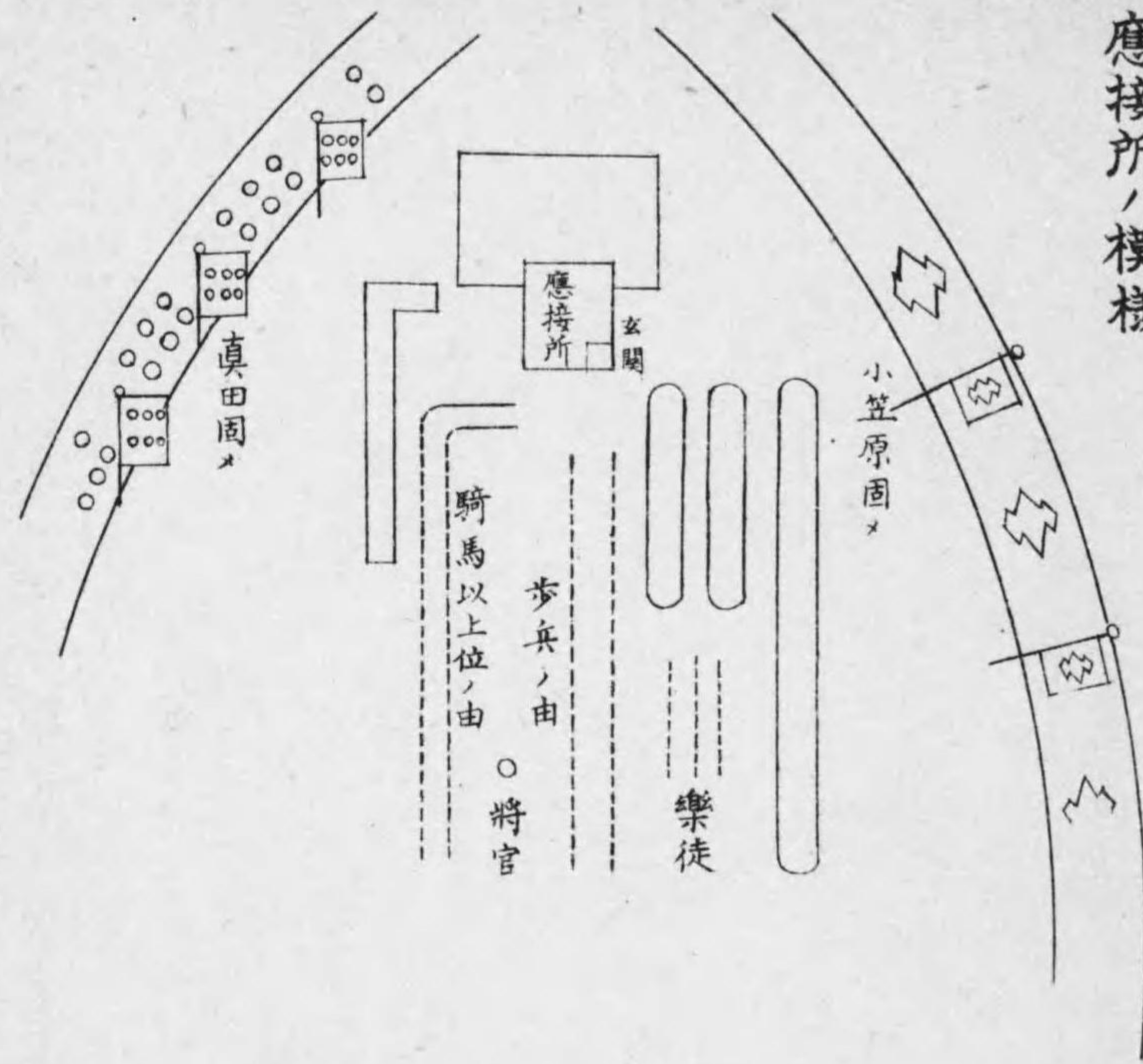
到するもの皆これを撫卹せり凡る貴國の海岸にて難船せるもの又は逆風狂浪に遭て貴國の港内に入る者は貴國の政廷仁慈を以てこれを處措せんとの明證を得んことは合衆國政府の切に貴國に望む所なり又某に命じて貴國に告げしむ合衆國は歐羅巴諸國の中何れの國とも合従する事なし其政律にては國內各人隨意の教法を奉する事を許す况んや他國人の宗旨教法に至りては固よりこれを是非する事なし

亞墨利加人は日本と歐羅巴の間に在る大國に住す此大國は歐羅巴人初めて日本を見出し頃發覺せし國にして其初は此大國の内最歐羅巴に近き地方に歐羅巴より家を徙して來れる者のみ居住せしに人民遂に蕃庶して全國に及び竟に南太平洋の海岸に達し今は國內に幾多の大都府ありて其府より蒸氣船に乗して發船するときは十八日若くは二十日にして日本に到るへし然れば我が國の交易速に貴國に繁盛し我國の船舶日本海中に漂散するに至ること遠きにあらざるへし合衆國と日本とは追日次第に相近き相交るに至るを免かれざるか故に伯理璽天德殊に日本帝殿下と好意を結び交りを脩めんことを欲す然れども貴國にて亞墨利加人に對遇すること寇讐を視るか如くするの風習を禁止するに非されは其交信豈能久しからむや外國と交を絶てこれを仇視する貴國の法制は其始法度を立つる時に在ては智慮ある處置といふへしといへども自今は兩國の相交ること昔日に比すれば到て易く且つ速に到りたれば此舊制を固守せんと欲するも是無智の謀にして自今決して行ふへからざる所なり

外臣某以上の説を陳し専ら願くは日本の朝廷にて兩國の民争鬪を致すを防ぐの策を以て要とし正實友愛の誠情に答ふるに好意を以てせんことを日本へ尋問せんか爲めの大軍艦數隻はまた此海に到着せず某等徒に是を待のみ
某今聊か其友愛の情を表せんか爲に四小船を以て貴國に到れり明春當に事體に應して尙數船を



應接所、模様



増加し再び航し來るへし然りといへども日本國帝殿下の政廷願はくは某か再び來るを待たず伯
理璽天徳か書中に載たる公平好和の策を採用ひならんことを但其書中の本旨は近日便宜を得る
を待つて某當に自ら詳悉すへし日本國帝殿下に對して深く崇敬したてまつり誠心に殿下の康寧
福全萬壽無疆を祈る

東印度支那日本海に在る合衆國海軍の統帥

マツテウ・ペルリ

親筆

千八百五十三年七月七日 我か六
月二日 日本の海にて合衆國の蒸氣船フレガット船シユスケハン (名船) 中
におゐて書す

横濱税關起源 (附波止場改所)

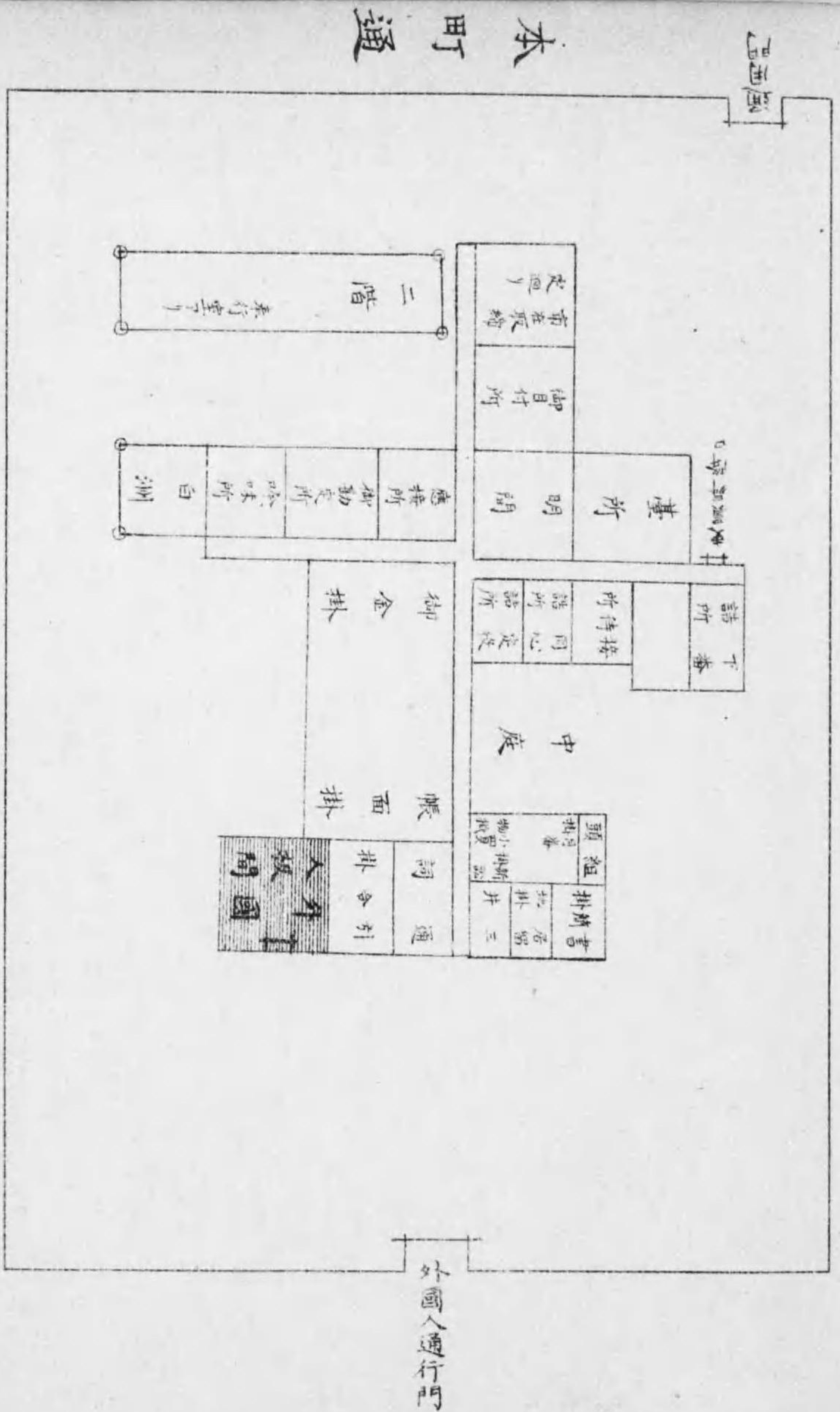
安政六年六月二日米英佛魯蘭ノ五ヶ國ト締結セル條約ニ基キ武藏國神奈川ヲ以テ貿易港ト定メシモ神奈川ハ地理ノ不便等ニ依リ遂ニ横濱村ヲ開クニ當リ時ノ政府ハ開港地ノ外交并ニ海關事務ヲ執行スル爲メ其地ニ運上所ナル官衙ヲ設置ス是實ニ現横濱税關ノ起源トナルモノニシテ當時ハ之ヲ神奈川運上所ト稱セリ同年又隣村戸部村(宇宮ヶ崎ト云フ現今伊勢町官舎ノ在所ナリ)ヘ一官衙ヲ建設ス之ヲ戸部役所ト稱シ行政及刑事等内政ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨シ運上所ト共ニ神奈川奉行ノ統轄スル所タリキ

運上所ハ初メ横濱村ノ中央海岸則現神奈川縣廳所在地ニ建築シ別ニ改所一ヶ所ヲ現英一番館西端ノ地ニ建設シ以テ輸出入貨物ノ検査場ニ供セリ又東北海岸ニ二個ノ突出部ヲ埋築シ之ヲ波止場ト云ヒ其東ニアルモノヲ東波止場ト唱ヘ外國貨物ノ揚卸場トシ其西ニ在ルモノヲ西波止場ト稱シ内國貨物ノ揚場トス而シテ波止場ニハ別ニ上屋倉庫等ノ設備アルナク貨物ハ悉ク露天ニ陸揚シタルモノナリ

西波止場ハ又御國產波止場ノ稱アリ茲ニ亦改所(御國產改所ト云フ)ヲ設置ス(慶應二年以後ニ於テ御國產波止場ヲ其西海岸ニ移シ現今日本波止場ト稱スルモノナリ)舊幕府ノ時ニ於テハ生絲ノ如キハ濫リニ外國人ニ賣渡スヲ得スシテ内地需用ノ剩餘ニ非レハ輸出ヲ禁制セラレタルモノナリ故ニ當時ハ江戸ニ於テ其剩餘ノ見積ヲ豫定シ取扱人ヲ定メテ常港ヘ回漕セシメ之ヲ外人ニ賣渡セリ又全ク外人ヘ賣渡(輸出)ヲ禁シタル物品モアリテ(次ニ記載ス)同改所ハ之等ノ貨物ニ對スル取締ニ充テタル所ナリ而シテ外ニ亦同改所ヲ置キ(當時入舟町現吉田橋ノ傍)陸地ヨリ來ル貨物ノ取締ニ供セリ今舊記ニ依レハ同時代ニ於ケル外人ヘ賣渡ヲ禁セラレタル物左ノ如シ

- 一 官服ノ類
- 一 御法度ノ儀認候書籍雲上明鑑武鑑其外官位高等記御書類
- 一 兵學書并ニ板本ニ無之寫本ノ類
- 一 城郭陣列之圖

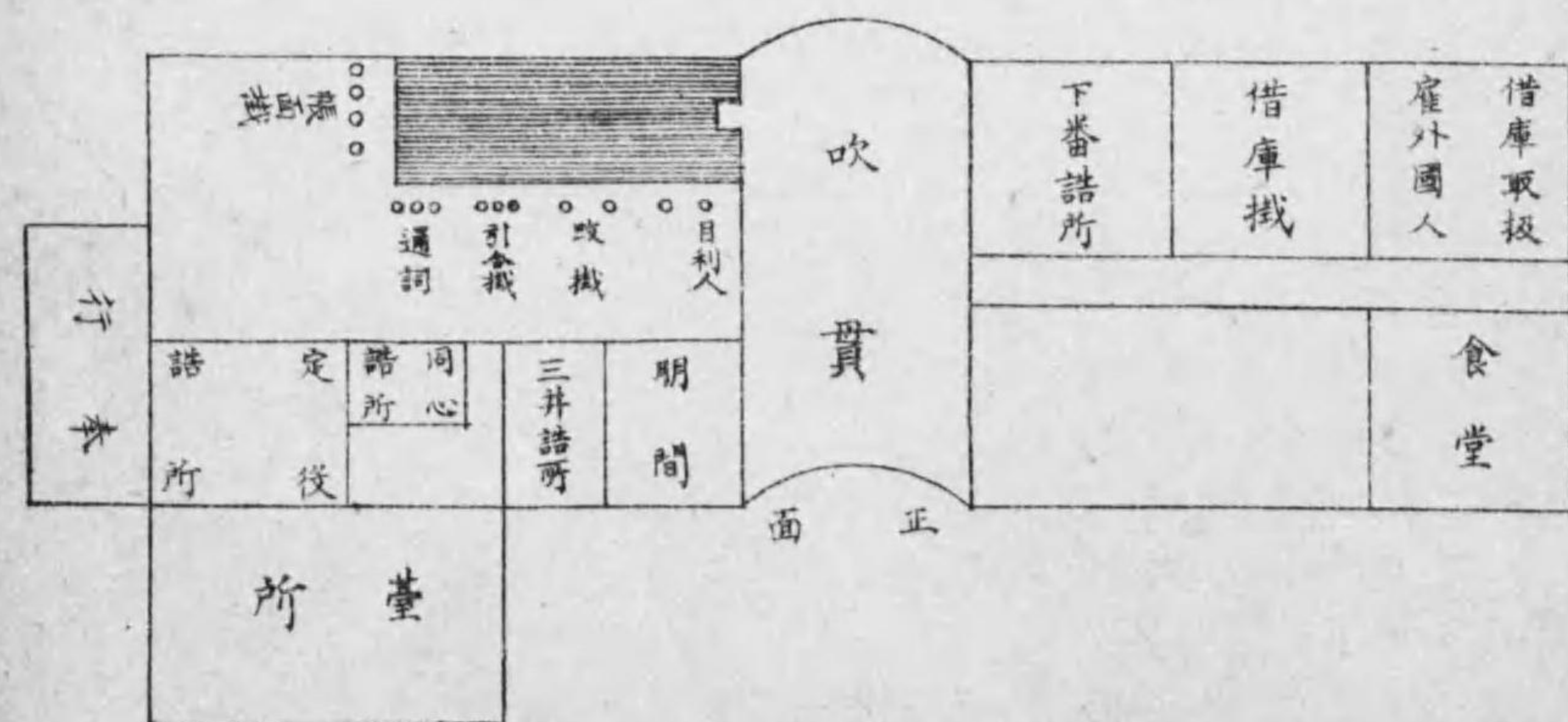
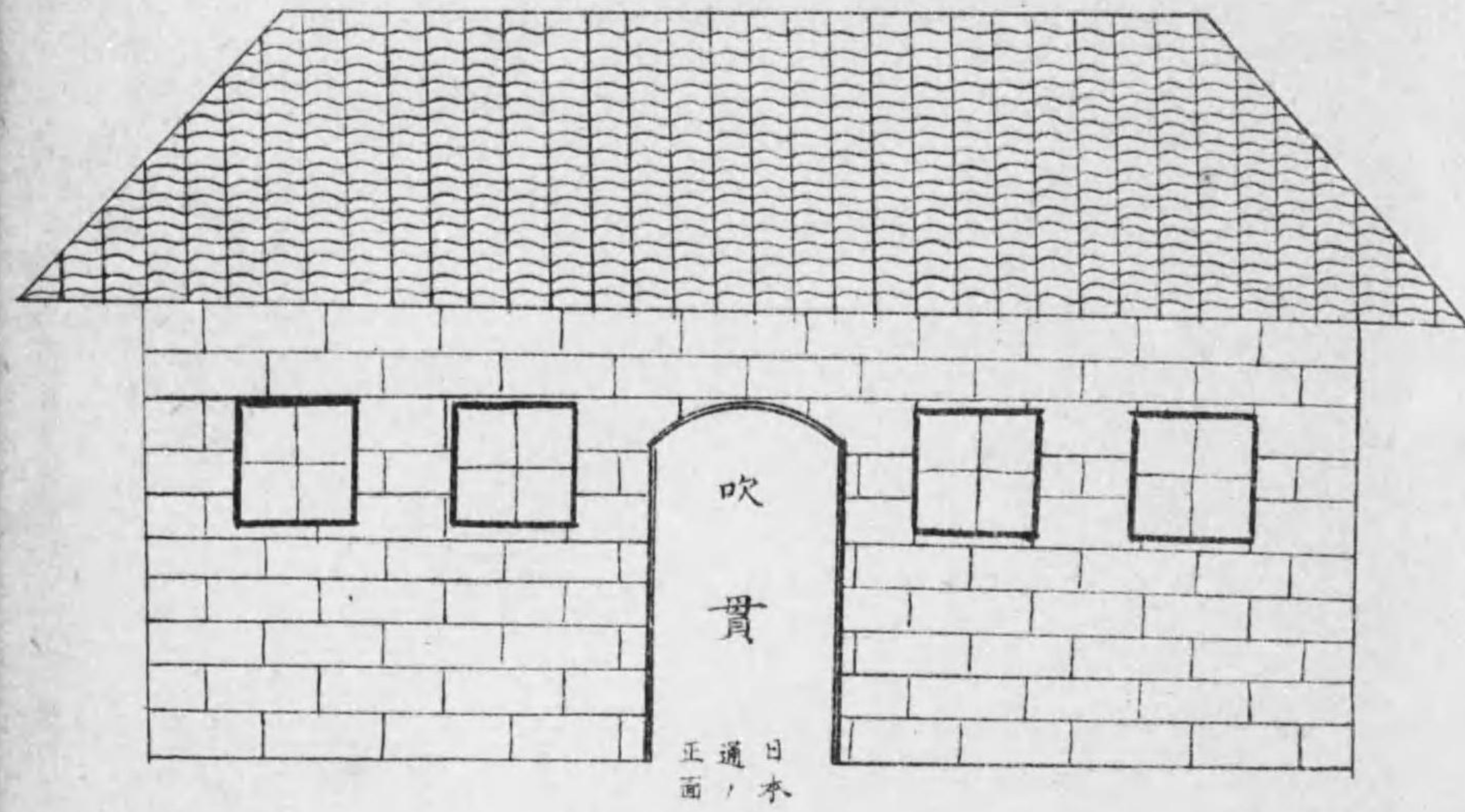
圖 壹 第



日本通



第貳圖



一 甲冑劔并都テ附屬ノ小道具

一 銅

後元治元年ニ至リ現東波止場ノ位置ニ又二個ノ突出部ヲ埋築シテ之ヲ新波止場ト稱シ(現今通俗佛蘭西波止場ト云ヘリ)外國貨物ノ揚卸場ニ充ツ而シテ同處ニモ亦改所一ヶ所ヲ設置シ運上所吏員ヲ派出シ事務ヲ執ラシム之ヲ東運上所ト稱シタリ

開港當時ノ運上所ハ木造ニシテ其外廓并ニ屋内ノ區劃ハ概子別紙第一圖ニ示ス所ナリシカ慶應二年十月二十日横濱大火ノ際類焼烏有ニ歸シタルヲ以テ其後同所所在地ノ對側現貿易倉庫ノ位置ニ應舍(横濱役所ト稱ス)ヲ新築シ是ト同時ニ東西兩波止場間ノ海面ヲ埋立テ其上ニ二棟ノ上屋及ヒ平屋石造ノ運上所ヲ新營シ慶應三年三月ニ至リ落成ヲ告ク其外形内部區劃概子別紙第二圖ニ示スカ如シ之ヲ西運上所ト稱セリ而シテ其開應ト共ニ舊改所(英一番館ノ西端ニ在ル)ヲ閉鎖シ茲ニ東西運上所兩立シ主トシテ海關事務ヲ管掌シタルモノナリ

開港當時事務振

曩ニ述ヘタルカ如ク運上所ハ初メ外交并ニ海關事務ヲ掌理シタル所ニシテ當時ハ寧ロ外交多端ニシテ關稅ノ如キハ頗ル微々タルモノナリシモ茲ニハ外交事務ヲ記述スルノ要ナキヲ以テ單ニ海關事務ニ對スル取扱振ノ一斑ヲ示スニ止メン

一、船舶ニ關スルコト

(イ) 入港ノトキ 外國船舶入港スレハ來意尋問掛ノ定役主任官トシテ同心并ニ乘監ノ下番二名ヲ率ヒ立會ノ御目付方及ヒ通詞同道ニテ傳馬船ニ乘シ船舶ニ臨檢ス先ツ船長ニ面會ヲ求メ左ノ如キ挨拶ヲナス

此度は遠路の渡海を恙なく御來着にて恐悅至極に存す

右ノ挨拶了リテ尋問ニ着手ス當時ハ固ヨリ今日ノ如ク尋問簿ヲ携帶セサルニ由リ其尋問ノ要領ヲ筆記スルノ例ナリ而シテ尋問ノ條項ハ先ツ該船來航ノ目的ヨリ國籍船名等概テ現行ノ方式ニ同シ

右ノ尋問ヲ終ヘ歸陸スレハ直チニ尋問ノ要領ヲ記述シタル回議ヲ起シテ奉行ニ提出シ且進口目錄ニ記入シテ各掛ノ回覽ニ附ス

又尋問掛ハ船舶ノ入港ト同時ニ船番號ヲ定メ番號札ハ尋問ノ際之ヲ携帶シ行キ船ノ艙部見易キ所ニ吊掲セシムルヲ例トセリ而シテ其船番號ハ國別入港順ヲ以テ之ヲ定メ毎年之ヲ改メタリ例ヘハ西年ノ最初ニ入港シタル英國船ニハ「英國西ノ一番」ト附スルカ如シ

尋問掛ヨリ前記ノ進口目錄ヲ帳面掛ニ廻附スレハ同掛ニ於テ直ニ右ノ船番號、船名、船長ノ名入港月日等必要ナル事項ヲ「西ノ内」ニ大書シ吏員詰所内見易キ所ニ貼付ス

(ロ) 入港手數 外國船舶カ入港届ヲナスニハ船名國籍其他ノ要項ヲ認メタル差出書(其記載事項ハ現今ノ入港届ト大

差ノキモ當時ハ一定ノ書式ヲ用ヒズ唯普通ノ書面ヲ以テ届出タルモノト知ルヘキナリ)ニ領事ヨリ發スル船舶書類ノ預證及ヒ積荷目錄ヲ添ヘ之ヲ引合掛ニ差出スヘキ制規ナリ然レトモ實際引合掛ハ横文ヲ解セサルニ由リ是等ノ書類ハ通詞之ヲ受取り和文ニ翻譯シタル後引合掛ニ提出シ同掛ハ該譯文ニ依リ條約ノ規定ニ抵觸セルモノナキヤ否ヲ審査シタル後之ヲ受理シ帳面掛ニ通知ス

帳面掛右ノ通知ヲ受タルトキハ出入港手數料取立帳ニ登錄シ且入港銀受取證ヲ作製シテ之ヲ引合掛ニ廻附シ同掛ハ入出港銀受取帳ニ記入シテ之ヲ三井ノ派出員ニ送付シテ入港銀徵收方ヲ命ス而シテ現金領收濟ノ上ハ三井派出員ニ於テ右ノ帳簿ニ押印ノ上引合掛ニ返付ス此ニ於テ同掛ハ前ニ調製シ置キタル入港銀受領證ヲ船長ニ交付ス同受取證ノ書式左ノ如シ

出入港手數料割取立帳ニ割印ス印

洋銀十五弗

右入港手數料定之通

受取候也

年 月 日 神奈川

運上所

英國西一番船

最初運上所ニ於テ諸免狀又ハ受取證ニ用ヒタル印形ハ左ノ如クナリ

神奈川 運上所

後文久元年頃ニ至リ運上所ノ下ニ押捺スルニハ黑色ニテ「神港稅館」割印ニハ「清理是寔」ナル角判ヲ用ヒ無稅品ノ免狀ニハ「神港官署」ナ

船司……へ
ル朱印ヲ用ヒタリ

横 文

……
……
……
……
……
……
……
……
……
……

本書式以下總テ書式ハ皆肉筆ヲ以
テ認メタルモノナリ

(ハ) 出港手數 外國船舶出港セントスルトキハ其旨口頭ヲ以テ申出テ出港銀七弗ヲ納付スレハ可
ナリ右ノ申出テアリタルトキハ曩ニ吏員詰所内ニ貼付シタル帳紙ニ凡テ丸ヲ掛ケ出港手數濟
ノ上ハ何月何日出港手數濟ト記載シタル通知ヲ關係各掛ニ廻附ス而シテ該船出港後ハ右ノ帳
紙ヲ剝取シ進口目錄ニ出港ノ日時ヲ記入ス

出港手數料徴收ノ手續并ニ其領收證ノ書式ハ入港ノ場合ニ同シ而シテ今日ノ如ク出港免狀ヲ
附與スルコトナシ

(ニ) 積荷目錄ニ關スルコト 積荷目錄ニ脱漏若クハ誤謬アリタルトキハ敢テ輸入申告者ノ意向ヲ
糺サス直ニ二重稅ヲ賦課スルノ手數ヲ爲ス故ニ若シ多額ノ稅金ヲ納入スヘキ貨物ニ關シ目錄
ト符合セサル場合ニ於テ其二重稅ヲ賦課セラルトセハ荷主ノ蒙ルヘキ損害モ亦從テ多額ニ上
ルヲ以テ荷主ハ倉皇狼狽直ニ運上所ニ來リ哀願スルヲ常トセリ之ヲ以テ係員ハ荷主ニ對シニ
重稅ヲ納付スルコトヲ欲セサレハ船長ニ交渉シテ積荷目錄ヲ訂正セシムヘシト談シ荷主ハ己

ノ利害上自ラ奔走シテ目錄ノ訂正ヲ出願セシムルニ至ルヲ例トセリ

(ホ) 船口封鎖ノコト 開港ノ初年ニ在リテハ郵船ト商船トヲ別タス外國船舶ニハ悉ク毎日没ニハ
船口ノ封鎖ヲ施スノ例規ナリシカ後郵船ニハ夜仕役ヲ行フモノ多キニ依リ遂ニ封鎖ヲ施サ、
ルニ至レリ

封鎖ノ方法ハ官印ヲ押捺シタル紙ヲ各船口ノ要部ニ貼付スルニ在リ故ニ雨露ノ爲ニ濕潤脱却
スルノ煩累絶ユルコトナク極メテ不完全ナリシハ言ヲ俟タス

二、輸入

(イ) 陸揚 貨物ヲ陸揚スルニハ荷受人ヨリ運上所司官宛ニテ陸揚願ヲ差出ス同願書ハ當時差出書
ト通稱シ現今ノ輸入申告ヲモ兼子タルモノニシテ一定ノ書式ナク下件ノ貨物何國何船ヨリ陸
揚御許可相成度ト云フカ如キ意味ノ普通書簡體横文ノ下ニ貨物ノ品名、記號、番號、個數、數量
元價及稅額等ヲ記載セルモノナリ

荷受人ヨリ右ノ差出書ヲ提出スレハ通詞之ヲ受取り和文ニ翻譯ノ後引合掛ニ回付スルコト入
港手數ノ場合ニ同シ而シテ同掛ハ檢閱ノ後之ヲ帳面掛ニ送付シ同掛ニ於テ積荷目錄ト照合シ
相違ナキニ於テハ同日目錄ニ陸揚ノ月日并ニ個數ヲ記入シ差出書ニハ船番號ヲ附記シ陸揚免狀
ヲ交付ス同免狀ノ書式左ノ如シ

此割印ハ
輸入稅銀
取立帳ニ
ナス

割
印

生 金 巾

百 俵 但何反

右陸揚差許もの也

年月日

神奈川

運上所



英國西壹番
荷主

備文

.....

(ロ) 検査鑑定 前述ノ通陸揚免狀ヲ交付シタル後帳面掛ハ課税額ヲ算定シ且差出書中必要ナル事項ヲ摘寫シ之ヲ改所出務ノ改品掛ヘ回附ス而シテ貨物ヲ陸揚シ來リタルトキハ同掛ノ定役ハ同心ニ貨物ノ検査目利ニ價格ノ鑑定ヲナサシム
右ノ鑑定價格ニシテ申告價格ヨリ低廉ナラハ定役ハ荷主ヨリ差出シタル陸揚免狀ニ相當ト手

記シ荷主ヲシテ帳面掛ニ提出セシム然レトモ若シ鑑定價格ニシテ申告價格ヨリ高價ナルトキハ目利ヨリ是ニ對スル具申書ヲ徴シ之ヲ陸揚免狀ニ添付シテ引合掛ニ廻付ス是ニ於テ引合掛ハ右ノ鑑定價格ヨリ多少ノ見込額ヲ差引キ帳面掛ニ合議シテ買上價格ヲ定メ其價格ヲ以テ現品買上ノコトヲ貨主ニ交渉シ承諾セサルトキハ其割合ニ依リ増税ヲ拂ハシム
因ニ曰買上クル貨物ノ賣捌方ハ目利自カラ斡旋スルノ例ニシテ其賣捌價格ハ率子鑑定價格通リ買受クルモノアラハ其價格ハ課税價格ニ比シテ多少ノ差額ヲ利スヘキニ由リ其利金ハ別ニ之ヲ積立置キ他日買上品ニ由リ損失ヲ生スルコトアレハ該積立金中ヨリ支辨スルノ定メナリシト
(ハ) 納税免許 税金ヲ納入スルニハ荷主ハ改品掛ニ於テ記入認印シタル陸揚免狀ヲ帳面掛ニ差出シ同掛ニ於テハ税金受取證ヲ調製シ之ヲ添ヘテ引合掛ニ廻付ス是ニ於テ引合掛ハ直ニ輸入税銀假預帳ニ記入シテ之ヲ三井派出員ニ交付シ免狀料壹圓五拾錢ヲ加ヘ徴收セシム(陸揚免狀ニ限ラズ諸免狀ニ限シテ受取證ヲ發セズ唯免狀ニ免狀料受取濟ナル印ヲ捺捺シ以テ領收ノ證トセリ)税金領收濟ノ上ハ左記ノ如キ受取證ヲ荷主ニ發給シ輸入免狀ハ別ニ交付セス陸揚免狀ヲ以テ兼用セシムルノ例ナリ

輸入税銀
受取帳ニ
割印ス

生金巾	何俵	但何反
割	元代何銀	
印	此税何銀	
右	輸入税銀	定之通受

取もの也

年月日

神奈川

運上所



英國西壹番

荷主

...

横文

Vertical text columns for cargo details

若シ品名夥多ナルトキハ逐一品名ヲ掲ケス「外幾口」ト記載セリ

(ニ) 通關 輸入貨物ヲ引取ラントスルニハ陸揚免狀ニ稅銀受取證ヲ添ヘテ改所ノ掛官ニ提出シ同官ハ全部引取ニハ陸揚免狀ニ皆許ト記シ内許ニハ許放ノ個數ヲ記入シ下番ヲシテ左ノ如キ朱色毛判ヲ貨物ニ押捺セシム



因ニ日輸出貨物積出ノ場合ニ於テモ墨色ニテ右ト同形ノ檢印ヲ押捺セリ而シテ今日ノ檢印ト朱墨全ク顛倒セリ其所以ハ當時貨物ハ「陸アケ」ナレハ赤ヲ用ヒ輸出ハ「船ツミ」ナレハ墨色ヲ用フルヲ可トスト云フニアリキ

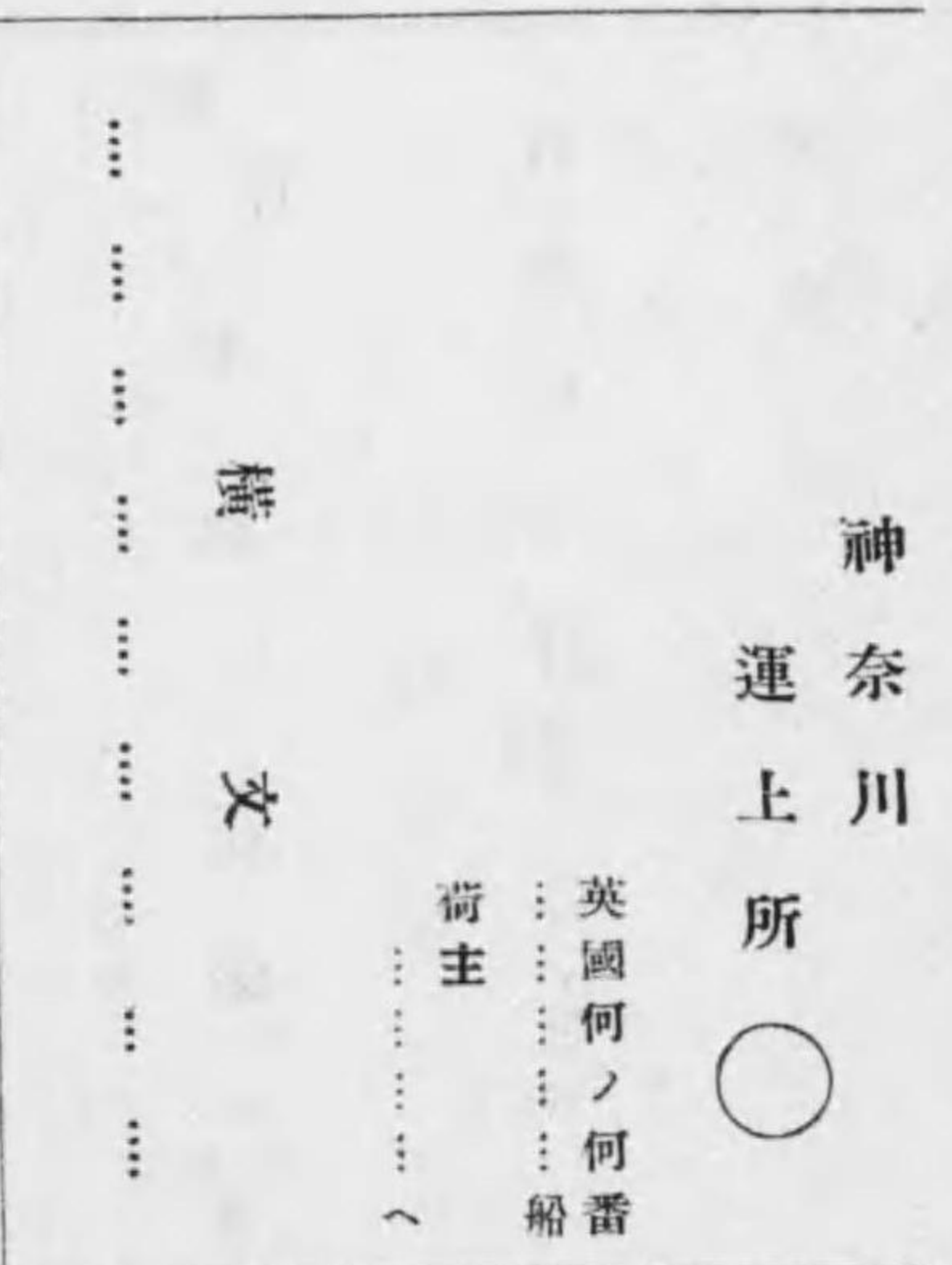
(三) 輸出

貨物ヲ輸出スルニハ輸出差出書ヲ引合掛ニ提出シ貨物ハ之ヲ改所ニ送致シテ檢査ヲ受ケ有稅品ニハ輸入ノ場合ト同様ノ手續ヲ經テ稅金ヲ納入シ船積免狀ヲ受ク其書式左ノ如シ

割印 木綿 何俵 何反

右船積差許もの也

年月日



而シテ船積ノ際ニハ前述ノ如キ檢印ヲ押捺セラル、ノ外尙ホ改品掛ヨリ乘監ノ下番ニ宛テタル送狀ヲ發給スルニ由リ荷主ハ之ヲ携帶シテ本船ニ赴キ船積結了ノ後ハ再ヒ之ヲ改所ニ還付スルノ例ニシテ其他詳細ノ手續ハ輸入ノ場合ニ述ヘタル所ニ同シキヲ以テ之ヲ畧ス

第一編 職制并分課

第一章 本關

本關初メ神奈川運上所ト稱ス安政六年六月二日横濱開港ノ時新タニ設置セラレタル官衙ニシテ專ラ本港ニ於ケル外交并ニ關稅事務ヲ掌理シ又海岸ノ要地ニ波止場改所等ヲ設ケ輸出入貨物ニ對スル取締ニ供セリ而シテ同時ニ戶部役所ナルモノヲ建設シ地方内政ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨シ共ニ神奈川奉行ノ統轄ニ屬セリ(安政五年七月舊幕府初メテ外國奉行ヲ置キ同六年六月神奈川奉行)慶應三年三月運上所ヲ横濱役所ト改稱ス是ヨリ先波止場改所ヲ運上所ト云ヒ一ヲ東運上所一ヲ西運上所ト稱ス其他御國產改所等アリテ吏員茲ニ派出シ執務シタリ今夫レ運上所開始ノ當時ニ遡リ其職制及事務分課ノ跡ヲ釋スルニ概子左ノ如クナリトス

舊幕府時代ニ於ケル神奈川役名

- 一 神奈川奉行
- 一 神奈川奉行支配組頭
- 一 同 勤方
- 一 同 調役
- 一 同 調役並
- 一 同 調役並出役
- 一 同 定役元締
- 一 同 同助
- 一 同 定役
- 一 同 同見習

第一編 職制并分課

- 一同 同並
- 一同 同並出役
- 一同 手附出役
- 一同 同心肝煎
- 一同 同心
- 一同 同心假抱
- 一同 同心雇
- 一同 同心出役
- 一同 上番
- 一同 上番出役

外ニ

通詞兼翻譯方

神奈川役所附醫師

同 下番世話役

同 下番

以上ノ吏員ヲ以テ戸部運上兩役所ヲ組織シ奉行ハ二人ヲ置キ一人横濱ニ在勤シ一人江戸ニ在リ又外ニ立合方ナル職務アツテ内外諸務ニ關涉セリ其金錢出納用度等ニ關スル者ヲ御勘定方ト云ヒ他ノ一般事務ニ關ハル者ヲ御目付方ト云ヘリ何レモ執行事務ニ立會シ旁ラ吏員内裏ノ事ニ及ヒ探知監察ノ任ヲ負フ江戸ヨリ交代派遣セラレシカ後チ御目付方廢セラレ維新ノ際ニ至ル迄御勘定方ノミ存置セリ(當時神奈川奉行配下ノ吏員ヲ神奈川方ト稱シタリ)

同運上所事務分課

同運上所ノ開始ト共ニ吏員執務上ノ便ヲ計リ各其擔當ヲ區別シタルモノ左ノ如シ

- 一 御書簡掛 各國領事往復ノ文書及應接筆記等ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 御金掛 諸收入金ノ出納經費ノ支出及洋銀引換等ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 居留地掛 外國人居住ノ地所貸與及借地料徵收等ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 訴掛 内外交涉民事訴訟ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 普請掛 定設并臨時ノ別アリ各土木營繕ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 御入用掛 備品及消耗品ノ購買交付等ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 月番掛 公文ノ受授及他掛ニ屬セサル一切ノ事務ヲ執ル
- 一 帳面掛 輸出入税金ノ調査記簿及輸出入品統計ニ關スル事務ヲ執ル
- 一 引合掛 輸出入税金ノ收入及諸般外國人ニ接待スル事務ヲ執ル

第一編 職制并分課

- 一 改掛 輸出入貨物ノ検査及鑑定ニ關スル事務ヲ執ル
 - 一 來意尋問掛 入港船舶ニ臨檢要件尋問ニ關スル事務ヲ執ル
 - 一 御船掛 船舶ノ製造修繕使用及之レカ監督ニ係ル事務ヲ執ル
 - 一 御武器掛 運上所竝各番所備用ノ武器ニ關スル事務ヲ執ル
 - 一 御馬掛 運上所飼養ノ馬匹ニ關スル事務ヲ執ル
 - 一 翻譯方 洋文翻譯ニ關スル事務ヲ執ル
 - 一 通調 洋文翻譯及通譯ニ關スル事務ヲ執ル
- 而シテ何レモ事務執行ニ當ツテハ前記立合方ノ立會ヲ受ケ又文書ニ就テハ立合方ノ合議ヲ經タリ之ヲ維新前ニ於ケル分課事務ノ大要トス
- 慶應三年十二月九日徳川内府大政返上幕府廢セラレ新政府ニ於テ假リニ總裁、議定、參與ノ三職ヲ置ク
- 明治元年正月十七日三職ヲ八課ニ分チ外國事務掛ヲ置カル
- 同年二月五日三職八局ヲ制定サレ外國事務局ヲ置キ外務及海關稅務ヲ同局ノ管轄トセリ

同年四月二十一日諸奉行總テ免セラレ同時ニ裁判所ヲ置ク依テ横濱役所ヲ横濱裁判所、戶部役所ヲ戶部裁判所ト改稱シ其總稱ヲ神奈川裁判所ト云ヘリ而シテ運上所ノ稱號故ノ如シ(運上所ハ則チ横濱裁判所トス)同裁判所ニ總督副總督ヲ置キ内外ノ事務ヲ掌理ス自餘ノ諸官吏一ニ舊ニ仍リ事務ヲ分掌ス當時ノ職名左ノ如シ

維新當初神奈川裁判所職名

- 一 組頭
- 一 組頭勤方
- 一 組頭格
- 一 調役
- 一 調役並
- 一 調役並格
- 一 翻譯方
- 一 一定役元締
- 一 書物方
- 一 書物方見習
- 一 一定役
- 一 一定役並
- 一 一定役並見習
- 一 外國醫師手傳雇
- 一 通詞

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

- 一 同心肝煎
- 一 同心肝煎介
- 一 同心
- 一 同心格
- 一 通詞補
- 一 翻譯方手傳通詞見習
- 一 御用出役
- 一 御用掛
- 一 御用掛助勤
- 一 御用掛助勤心得
- 一 御用掛附屬
- 一 足輕

當時該役所ノ總統ハ橫濱裁判所ニアリシト雖モ執務上ノ便ヲ計リ内外ノ區別ヲ存セリ乃チ外國ニ關スル事項ハ專ラ橫濱裁判所ニ於テ地方内務ニ係ル事項ハ戶部裁判所ニ於テ處辨シタリ
同日新ニ官制ヲ定メラレ太政官ヲ分ツテ七官トナシ外國官ヲ置カル依テ外務及海關稅務ノ管理同官ニ屬ス又地方三官(府藩縣)ヲ設ケ縣ニ知縣事判縣事ナル官職ヲ置ケリ
同五月二十三日神奈川裁判所ヲ神奈川府裁判所ト改稱ス
同六月戶部裁判所ヲ橫濱裁判所ニ合併シ而シテ事務ノ混淆ヲ慮リ之ヲ外政内政ノ二局ニ區別ス
同九月二十一日神奈川府ヲ神奈川縣ニ改ム
同十一月二十一日本縣組頭以下ノ官名ヲ廢シ更ニ辨務以下ヲ置ク

- 一 辨務 元組頭
- 一 巡察 元御用掛
- 一 辨務補 元組頭勤方
- 一 巡察補 元御用掛助勤
- 一 辨務試補 元組頭格
- 一 一等譯官 新設
- 一 庶務 元調役
- 一 庶務補 元調役並
- 一 庶務補譯官 元翻譯方
- 一 庶務試補 元調役並格
- 一 庶務試補譯官 元翻譯方
- 一 巡察試補 元御用掛助勤心得
- 一 屬司 元定役元締
- 一 屬司席掌書 元書物方
- 一 屬司席掌書補 元書物方見習
- 一 屬司補 元定役
- 一 屬司試補 元定役並
- 一 屬司試補席醫官 元外國醫師手傳雇
- 一 屬司試補通辯官 元通詞
- 一 屬司試補席 元定役並見習

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

一 巡察趨事

元御用掛附屬

以上判任相當

一 從事

元同心肝煎并肝煎助

一 從事席通辯官

元通詞補

一 從事補

元同心

一 從事試補

元同心格

一 從事試補席通辯官

元翻譯方手傳通詞見習

一 使丁

元足輕

舊幕ノ時神奈川御用出役アリ維新引繼ノ間之ヲシテ諸關門ヲ守ラシム之ヲ警衛隊ト稱シ頭取ヲ置ク明治元年八月警衛隊ヲ罷メ更ニ縣兵一大隊ヲ募リ左ノ職員ヲ置ケリ

一 軍監

一 大隊長

一 小隊長

(後小隊中ヨリ教頭教佐各一人ヲ選ミ又小監察數名ヲ置キ隊中ノ諸務ヲ掌ラシム)

一 半隊長

一 嚮導

一 縣兵

一 土工兵

神奈川縣職制

判官事

知縣事 兼務

外國條約ヲ施行シ萬國交際ノ意ヲ厚クシ部内人民ノ訴訟ヲ裁斷シ租稅ヲ收メ賦役ヲ督シ當刑ヲ知リ縣兵ヲ監スル等ヲ總裁スルヲ掌ル

權判官事

判縣事 兼務

辨務

同補

同補

同試補

橫濱裁判所外政局ニ在勤スル者ハ權判官事ノ職務ヲ繼テ外國事務ヲ勤メ又內政局ニ在勤スル者ハ判縣事ノ職務ヲ繼テ其支配スル市中郡村ノ諸事ヲ施行ス尤各重大ノ事件ハ判官事知縣事ニ決ヲ取ルヘシ

但以上事ヲ總括スルノ任ナリ

巡察

同補

同試補

同趨事

外政內政ノ諸局律法ヲ檢考シ或ハ有司ノ勤惰ヲ監察シ或ハ營繕精麤ヲ檢査スル等總テ部内關係スル所ノ諸般ヲ巡行監察シ曲直邪正ヲ看テ其總括スル判事ニ報告シ太政官本官等ニ建言スヘシ

庶務

同補

第一編 職制并分課

同試補

外政内政ノ市政、農政、收税、會計、聽訟、倉庫、開墾、堺界、文學、翻譯、通辯、營繕、製鐵、燈明臺、掌船、消防、捕込、病院、厩司、浦賀、書翰、筆記等ノ數課ヲ分配シテ諸般ヲ施行スヘシ

屬司

同補

同試補

同課ヲ分配シ内政外政ノ庶務ヲ補助シ諸事施行スヘシ

從事

同補

同試補

同課ヲ分配シ外政内政ノ屬司ノ職務ヲ繼テ使役ニ當リ守辰、訊問、守獄、使辨等ノ事ヲ兼務スヘシ

使丁

内外兩局ノ統膳、哨船、衛關、歩使、巡邏等總テ雜事ヲ務ム

軍監

縣兵ヲ監シ軍陣、練兵、巡邏、護送、衛關等大小事件咸ク之ヲ聞キ兵隊ノ邪正勤惰ヲ監察シ進退動靜ヲ裁決シ隊長嚮導伍長等ノ命令ヲ加フヘシ

大隊長

縣兵ヲ總括シ隊伍ヲ正整シ規律ヲ以テ練磨シ機ニ臨ミ變化自在ナラン事ヲ要シ小隊半隊ノ長ニ指揮ス其他諸般兵隊ニ關係スル處ノ事件毎ニ之ヲ聞キ小事ハ自分裁判シ大事ハ軍監ニ諮決シ施

行スヘシ

小隊長

半隊長

大隊長ノ職務ヲ繼テ伍列位置ヲ正整シ其指揮ヲ待テ進退動作ヲ自在ナラシメン事ヲ要ス

嚮導

伍長

兵隊ノ規律ヲ固守シ生兵伍々ノ法ヲ正シ靜止運動ヲ練リ軍監隊長ノ命ヲ待テ諸般施行スヘシ

縣兵

衛關(宮ノ河原、櫻岸、丁貝、八王子、吉田橋、石崎、酒匂、川、川崎、青野、原、鼠坂、駒木野、鞍止、伊崎山)東波止場、西波止場、本牧、西ノ橋、前田橋、谷戶

橋、芝生口、金澤、横濱、神奈川、程ヶ谷、浦賀、横須賀、平塚、鎌倉、羽田、藤澤、馬入川、護送、臺場、

厚木、其他遠近晝夜ヲ分タス拾里部内ヲ巡邏非常賊難等ヲ警メ平素練兵筋骨ヲ鍛ヒ勇氣ヲ培養シ軍監隊長ノ命ヲ待テ事アラハ進退變化ヲ迅速ニスルヲ要ス

土工兵

陣營布置切守切要ナル事件ニ注意練磨ヲ加ヘ平素骨ヲ鍛フノ業ヲ爲シテ其業ヲ試驗スヘシ

同二年四月神奈川縣裁判所外政局取扱ノ尋問海外行願其他外國船ニ關スル諸願ハ爾來西運上所ニ於テ取扱フコニ定ム

同七月八日新タニ官制ヲ發布サレ外務省ヲ置カル而シテ元外國官ニ屬セシ外務并ニ海關稅務ノ管理

同省ニ移ル又縣ニ左ノ職員ヲ置ク

一知事

一權知事

第一編 職制并分課

- 一大參事
- 一小參事
- 一大屬
- 一權大屬
- 一少屬
- 一權少屬
- 一史生

同月二十七日日本縣職員ヲ定メ正權知事大少參事正權大少屬史生捕亡縣掌使部ヲ置ク
同十一月本縣分課ヲ左ノ通り定ム

- 一居留地
- 一出納
- 一公事
- 一聽訟
- 一營繕
- 一諸務
- 一書翰
- 一地方
- 一收稅
- 一東西運上所
- 一御國產改所

- 一尋問
- 一御船

同月十四日ニ至リ本縣辨務以下ヲ罷メ更ニ少參事以下正權大少屬史生使部ヲ置ク
同月運上所事務分課左ノ如シ(原文ノ儘抄録
ス但氏名略ス)

東運上所詰

- 括
- 收稅
- 同改方
- 書記

少屬 一人
權少屬 二人
史生 二人
使部 五人

右小屬以下日々三人宛泊番相心得開閉封印西運上所へ申合可相勤且使部ニ而壹人宛御國產改所
へ月々交代之事
兩運上所并ニ
尋問取扱兼勤

權少屬 二人

- 括
- 收稅
- 同改方
- 書記

少屬 二人
史生 一人
使部 六人

右少屬以下使部迄三人ツ、泊番相心得開閉封印東運上所へ申合相勤尋問掛出勤前後ハ右ヲモ相
心得可申且使部二人ニ而一人ツ、御國產改所へ月々交代之事
御國產改所

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

三十四

右權少屬以下兩運上所へ月々貳人ツ、交代イタシ可申改所泊番之儀ハ是迄之通心得可申事
船尋問外國船雇入他港行 使部 六人

史生 三人

右之通相心得取扱所別局相成候迄兩運上所泊番相心得可申事尤尋問之儀ハ出勤前後ハ西運上所
泊番心得之事 但月々壹人ツ、御國產改所へ交代可致事

兩運上所納屋番

東部 二人

西部 同部

二人

右四人ニテ兩運上所へ貳人ツ、隔月ニ相勤可申泊番之儀ハ當今同所詰へ打込相勤可申事
收稅掛分課

總括

准大屬 一人

補翼

少屬 一人

同監察兼

同 一人

西運上所詰

收稅

少屬 二人

借庫

稅銀鋪料取立高取纏方

第一編 職制并分課

三十四

右權少屬以下兩運上所へ月々貳人ツ、交代イタシ可申改所泊番之儀ハ是迄之通心得可申事
船尋問外國船雇入他港行 使部 六人

史生 三人

右之通相心得取扱所別局相成候迄兩運上所泊番相心得可申事尤尋問之儀ハ出勤前後ハ西運上所
泊番心得之事 但月々壹人ツ、御國產改所へ交代可致事

兩運上所納屋番

東部 二人

西部 同部

二人

右四人ニテ兩運上所へ貳人ツ、隔月ニ相勤可申泊番之儀ハ當今同所詰へ打込相勤可申事
收稅掛分課

總括

准大屬 一人

補翼

少屬 一人

同監察兼

同 一人

西運上所詰

收稅

少屬 二人

借庫

稅銀鋪料取立高取纏方

諸御入用筋其外諸般心得
收稅出入港手數料取立方心得

權少屬 一人

同借庫取扱兼

同 一人

同

史生 一人

同通辯

同 一人

同改方

使部 一人

同借庫取扱通辯兼

同 二人

同借庫取扱兼

同 三人

書記

同 一人

船

尋問

史生 二人

外國船雇入取扱

同心得 一人

他港行同斷

海外行同斷

東運上所詰

收稅并稅銀取立高

少屬 一人

御入用筋其外諸般心得

收稅取扱并年分輸出入品取調

權少屬 二人

同改方

史生 二人

同改方

使部 五人

第一編 職制并分課

三十五

第一編 職制并分課

書記

兩運上所納屋番

隔月交代

御國產改所詰

同 同

三十六
一人
四人

右毎月二人ツ、兩運上所へ交代爲致候事

同三年二月裁判所ノ稱ヲ廢シ更ニ號シテ縣廳ト云フ而シテ内政外政ノ兩局ヲ内廳外廳ト改稱ス
同月足輕ヲ駈使ト改ム(外國船へ上監セシモ舊幕ノトキ下番)
同年七月運上所事務分課左ノ如シ

西稅關詰(運上所又稅關ト云セ當時稱呼一定セズ)

御買上品并御益金請拂諸收納纏方

借庫出入荷物非常請負取扱

諸御入用筋其外諸般心得

附印箱受持

少 屬

内一人監察兼務

二人

外國人輸出入品免狀取扱

外國船便内國商人荷物出入并内國商船取扱

借庫出入荷物非常請負納屋敷料取扱

各國商船出入港手數并碇泊船増減調方

東京往復荷物取扱

權少屬
史生

三人
一人

右四人日々順番ヲ以テ壹人ツ、荷物改方心得可申事

積荷目錄突合方取扱

通辯翻譯物取扱并借庫出入荷物取扱

輸出入荷物改方并借庫出入荷物取扱

外國船便内國商人荷物出入并内國船取扱

輸出入品免狀取扱

當分ノ内

輸出入荷物改方

納屋番

少 屬
使 部

一人
一人
一人
一人

使 部

五人
二人

東稅關詰

諸御收納物纏方輸出入品調并ニ

諸御入用筋取扱其外諸般心得

附印箱受持

外國人輸出入品免狀取扱

東京往復荷物取扱納屋敷料取扱

但日々壹人ツ、荷物改方心得可申事

積荷目錄突合方取扱

外國人輸出入品免狀取扱

輸出入品調方并免狀取扱

輸出入荷物改方

少 屬

内一人監察兼務

二人

權少屬
史生

一人
二人

使 部

一人

使 部

一人

權少屬

三人

第一編 職制并分課

三十七

第一編 職制并分課

納屋番

同

三十八

免狀役所并東西船番所詰

入港船來意尋問

御船掛

船々取締懸

他港行免狀取扱

東京往復蒸氣船便船人取扱

水先案内雇入方取扱

入港船來意尋問

船々取締懸

史生

一人

東稅關荷物改方并納屋番兼

使部

二人

同四年正月二十二日縣官中ニ權大參事ヲ置カル

同三月六月本縣知事參事分課ヲ定ム稅關ニ關スル事項ハ大參事ノ主掌トス

同六月十四日又大少參事分課ヲ定メ大屬課長以下諸課取扱事項ヲ少參事等ニテ事理ヲ明ニシ可否ヲ

討議シ大參事ヲ經テ決ヲ知事ニ取リ諸般ヲ施行ス

同八月十日官制改定セラレ判任官ノ中ニ中屬權中屬ヲ置ク而シテ本縣縣官暫ラク舊ニ仍ル

同八月二十日又大少參事分課ヲ改定ス稅關ニ關スル事項ハ大參事ノ主掌タリ

同月兵部省ヨリ廢藩ニ付從前所管ノ常備兵總テ解隊ノ上全國一途ノ兵制改正ノ達アリ

同月二十八日各開港場ノ海關稅務ヲ大藏省ノ管轄トシ同省租稅寮ノ主管トス

同九月同省ヨリ運上所官員取扱事務ハ從前ノ通り心得ヘキ旨本縣ヘ達セラレ又東西運上所借庫密商

本船番尋問等一切十月朔日ヨリ大藏省ヘ引渡ニ付右掛ノ官員并使部駈使等同省官員ト心得出張租稅
權頭ノ差圖ヲ受クヘキ旨本縣ヨリ掛員ヘ達アリ

同十月一日本縣所管ノ東西運上所ノ事務ヲ大藏省ニ引渡ス依テ同二日東西運上所借庫密商取締本船
番尋問ノ事務ヲ本縣ヨリ分割シテ租稅寮ノ主掌トス

同月二十日運上所長官并ニ次官ヲ置ク長官ハ租稅權頭ヲ次官ニ同權助ヲ充ツ

同十一月十日新タニ各運上所職制ヲ定メ運上所ニ檢査、稅額、收稅、翻譯、庶務ノ五課ヲ置キ試ニ之ヲ
本關ニ施行ス其職制左ノ如シ

各港運上所職制

長官 其港事務ノ煩隙ニ應シ權頭、助、權助等ノ内ヨリ派出ス

運上所中諸官員ノ首長ニシテ其港海外輸出入ノ租稅ヲ管理スルヲ掌ル

毎朝十時ヨリ四時ニ至ル迄運上所ニ在リテ輸出入品陸揚船場ヘ貨物檢査稅金計算等一切ノ處
務ヲ指定シ各分課ノ事務ヲ幹理ス

但各課事務ノ輕重ニヨリ自ラ外國領事及ヒ商人ヘ談判シ其事ヲ處分スヘシ

凡收稅上ヨリ起リシ彼此論議ハ長官都テ其當否ヲ裁判スヘシト雖凡事刑律ニ關涉セルハ都テ
縣廳ニ於テ裁判ス可シ

但收稅上ノ論議ヨリ紛爭ノ事ニ及ハ、其顛末ヲ具狀シテ長官ヨリ縣廳ニ控告シ其裁判ヲ待
ツヘシ

彼ヨリ運上所ノ非理ヲ縣廳ヘ訴訟セハ其事ノ顛末及我所有ノ正理ヲ叮嚀ニ書記シ縣廳ノ裁判
ヲ受ケ其始末ヲ本寮ヘ達スヘシ

凡收稅上ヨリ起リシ難決ハ其事ヲ本寮ヘ達シ本寮ヨリ卿輔ニ具狀シテ之ヲ外務省ニ附ス

第一編 職制并分課

三十九

各分課ヲ廢立更正或ハ其官員ノ勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟或ハ増減スル等ノ事ハ審案具狀シテ卿輔ノ決判ヲ乞フ

外國人ヨリ所納ノ諸税金手數料等納濟ノ上ハ長官ノ實印ヲ以テ受取證書ヲ渡スヘシ

運上所中諸般ノ事務成規ヲ踐行修整セサルニ於テハ長官其責ヲ受クヘシ

諸般ノ事務中成規例格ナキカ或ハ舊制ニ弊害アリテ改革セント欲セハ其處務ノ法案ヲ作り本寮へ達シ本寮ニテ回議ニ附シ卿輔ノ決判ニ從テ處分ス

前章ノ主務ヲ踐行シテ脱税ノ奸僞ヲ豫防シ且輸出入品ノ多寡及其得失ヲ審量シ時ニ從テ之ヲ收放厚薄シ相當ノ稅則ヲ設クル事ニ注意ス

職掌長官ニ亞ク尤長官欲名ノ時ハ職掌長官ニ同

次官

檢查課 (尋問) 驅使 改方 鑑定

長 大屬或ハ權大屬之ニ充

凡輸出入貨物ヲ點檢計量シ及ヒ其物品ト元價トヲ照考鑑定シテ當不當ヲ定ムル等一切輸出入物品ヲ檢查スルノ要務ニシテ其所屬ノ小分科中ノ事務ヲ幹理スヘシ

尋問驅使改方鑑定上屋ノ五小科ヲ總理シ其科中ノ事務ニ於テハ專ラ責任ヲ受クヘシ輕事タリトモ毎年長官ノ指令ヲ得ルニアラサレハ其事ヲ處分シ及其各科へ指令スルヲ得ス

凡長官ヨリ指令アラハ速ニ其科ニ達シ遲滯スヘカラス且各小科ヨリ出セル申立書ニ異存ナケレハ捺印ノ上速ニ長官ニ差出スヘシ

小科ニ担当スル人員ノ中不正ノ事及其事ヲ怠ルヲ見聞セハ速ニ具狀シテ長官へ出ス可シ

驅使長 小屬或權小屬之ニ充

驅使ノ長ニシテ檢查長ノ指令ニ隨ヒ驅使ヲ本船番ニ配出シ及ヒ其他ノ事ニ役スル等一切驅使

處務ヲ管理ス

但シ驅使其指令ニ不從歟或ハ事ヲ怠リ制ヲ犯スニ於テハ具狀シテ檢查長ニ出ス可シ

鑑定長 少屬或ハ權少屬之ニ充

鑑定人ノ長ニシテ常ニ内外諸物價等ヲ諳記シ專ラ外商ノ奸詐ヲ鑑檢スルヲ要ス

檢查長ノ命ニ從ヒ輸出入ノ物品ヲ精閱シ其物品ト其出船港ノ價及其港ノ現價等ヲ照算シテ當不當ヲ鑑定シ其趣ヲ書面ニ認メ檢查長ニ差出ス等ノ事務ヲ掌ル

但鑑定人ノ取締ヲ爲シ萬一不正ノ事ヲ見聞セハ速ニ檢查長ニ申立ヘシ

品改科 少屬或ハ權少屬之ニ充 檢查長ノ指令ニ隨ヒ輸出入ノ貨物ヲ點檢或ハ押判シ其科目及員數等詳悉ニ檢閲シ其過不足等表面ニ記載シ檢查長へ差出スヘシ

尋問科 權少屬或ハ十四、十五等ノ官員ヲ以テ之ニ充 各國船入港ノ節ハ檢查長ノ指定ニ從ヒ船番ト共ニ本船ニ至リ尋問シ定則ヲ踐ミ歸後詳悉檢查長へ申立ヘシ

上屋科 少屬或權少屬或其上下出仕ノ者之ニ充 外國人ニ屬スル荷物ヲ改メノ爲メ運輸セハ檢查長ノ指令ヲ受上屋へ預リ嚴密ニ取締リヲ爲シ紛雜錯亂スヘカラス荷物檢查濟ノ上荷主へ渡方等精密ニ取調粗漏アルヘカラス

稅額課 從價

長大屬或ハ權大屬之ニ充

凡輸出入稅額此課ニ於テ定則ニ照準シ其當否ヲ精算考案シテ聊差謬粗漏ナク一々修整幹理スルヲ要ス

各船出入港手數及陸揚船積免狀願其他一切外人ヨリ申牒ハ此課ニ於テ請取之ヲ翻譯課へ致シ譯セシメ長官ニ差出スヘシ

長官ノ指令ニ從ヒ諸免狀ヲ附與スル事ヲ掌ル若シ荷主ヨリ差出セル荷物目錄ニ載スル所ノ原價ハ鑑定人ヨリ申立ノ價ト相違アリ其旨検査長ヨリ長官ヘ申立長官ノ指令アラハ外國人ニ對シ増稅ノ議論判スル等ノ事ヲ掌ル

但荷主御買上ヲ要セハ長官ヘ申立長官ノ指令狀ヲ以テ庶務課ヨリ代金ヲ受納品買上濟ノ上同課ヘ渡スヘシ

收稅課 權大屬以下之ニ充

長官ノ指令ニ隨ヒ輸出入稅ノ現金ヲ點檢收入シ之ヲ簿冊ニ記載シ其現金ヲ出納寮（出納寮出張ナメ預ケ置キ一月分ヲ纏）ヘ納ムル事ヲ所務トス

但本寮ヘ納ル等ノ事務ハ庶務ノ分科トス

凡稅金收入ノ指令ヲ長官ヨリ受ケ其稅金ヲ收入セハ速ニ請取證書ヲ以テ長官ニ報スヘシ

翻譯課 通辯

譯司ハ外國人ヨリ差出タル橫文ヲ無遲滯翻譯シ且上海香港其他諸港ノ新聞紙ニ載スル所ノ諸物價ヲ掛記シ検査長及稅額課ヘ呈出スルヲ所掌トス

通辯ハ常ニ各課ノ用務ヲ通辯スルヲ務トス且其所務ノ際一言ノ差語ヨリ百般ノ損害ヲ醸スヘケレハ最謹慎處事スルヲ要ス譯司通辯其職ヲ分ツト雖モ事務ノ繁劇ナルニ當リテハ互ニ協力シテ澁滯ナキヲ要ス

庶務課

運上所中一切ノ雜務ヲ幹理ス長官ノ指令ニ從ヒ運上所中ノ日用物品ヲ定額ニ照シテ買入ルノ事及運上所又ハ借庫等ノ營繕務メテ冗費ヲ省クヲ要ス且月々其精算帳ヲ製シ長官ノ捺印ヲ請本寮ヘ差出ス可シ

收稅金送納方及ヒ其精算編成ハ都合長官ノ捺印ヲ請ケ申牒スヘシ

但本寮事務ノ章程ニ從ヒ申牒スヘキ事

輸出入品計較表ヲ月々編集シテ本寮ニ達ス可シ

但其翌月初十日迄ニ差出シ且長官ノ指定アノハ其所ノ新報雜誌ニ出版スヘシ

御買上品ノ元價備金若干兩ヲ出納編集スヘキニ付御買上ノ時ニ臨ミ長官ノ指令狀ヲ以テ稅額課ヨリ達アラハ元價ヲ徵シ其品物ヲ請取其損益ヲ考案シテ御拂下ノ儀ヲ長官ヘ申立許可ヲ經テ拂下ヘシ

但元價損益ノ仕上ケヲ作り長官ヘ出シ長官捺印ノ上本寮ヘ差出スヘシ

右ニ掲クル職制ハ都テ此書ニ添タル手續書ニ照參シテ遵奉固守スヘシ（手續書ハ當時稅關事務幼稚ノ點少ナカラサリシ爲メ之レニ則トリ事ノ點少ナカラサリシト云フ依テ之ヲ略ス）

同四年十二月二十四日神奈川運上所ヲ橫濱運上所ト改稱ス

同五年正月十二日運上所選卒本船番ノ稱ヲ廢シ選卒視船ノ二課ヲ置ク

同二月七日選卒課ヲ巡警課ニ視船課ヲ監船課ト改稱ス

同七月十七日巡警監船ノ二課ヲ合シテ巡警吏ト改ム

同九月四日巡警吏ヲ監吏ト改稱シ海陸二課ニ分置シ及職制等級ヲ定メ假ニ之ヲ橫濱運上所ニ執行ス

同十月二十二日橫濱稅關職制并分掌ヲ定ム左ノ如シ

橫濱稅關職制

長官一員長官ハ租稅權頭ノ所任ニシテ特ニ橫濱港ニ置キ他港ハ都テ次官以下ヲ置ク

各港稅關中諸官員ノ首長ニシテ各港内外出入ノ租稅ヲ管理スルヲ掌ル關中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ幹理ス

第一編 職制并分課

四十四

關中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テ寮頭ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス
掌管ノ事務ニ於テ寮頭ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得ル諸課ヲ廢立シ規則ヲ更革スルハ寮頭ノ
決判ヲ乞テ之ヲ處置シ關中定額官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟スルハ寮頭ノ決判ヲ
乞フヲ要セス然レモ委任官及ヒ外國人ヲ進退シ及ヒ定額外ノ官員ヲ増加スルニ至テハ審案具
狀シテ寮頭ニ呈シ其決判ヲ請フ
次官 租稅助權助ヲ派出ス若シ助權助在勤セ
サレハ七等出仕ヲ以テ代理スルヲ得

職任長官ニ亞ク
長官缺員或ハ公務ニ依リ他港稅關へ出張シ及ヒ其他ノ事故ニヨリ缺席スルコトアレハ一切長
官ノ職掌ヲ代理スルヲ得然レモ官員ノ進退黜陟ニ至テハ必ス寮頭ノ決判ヲ乞テ之ヲ處理ス以
上之ヲ奏任官トス

- 大屬 三員
- 權大屬 三員
- 中屬 六員
- 權中屬 六員
- 少屬 十二員
- 十四等 十員
- 十五等 十員
- 譯官 一等譯官ヨリ七等
譯官迄便宜置之 一員
- 監吏總長 一員
- 監吏副總長 一員

海監吏長 一員

海監吏副長 一員

大海監吏

三十五員

中海監吏

大中少監吏ノ位階ハ
長官ノ處分ニ任ス

少海監吏

一員

陸監吏長

一員

陸監吏副長

一員

大陸監吏

四十五員

中陸監吏

四十五員

少陸監吏

四十五員

長官次官ノ指令ニ從テ各分課ニ就キ從事スヘシ
以上之ヲ判任官トス判任官ハ右定員ヲ目的トシ人員ヲ増スルヲ得即チ大屬一員ヲ廢シ少
屬兩員ヲ置ク等ハ長官ノ權ニ附ス

檢査課

貨物ノ眞偽ヲ精閲シ度量ノ虛實ヲ詳檢シ差出書積荷目錄ヲ對較シ現價原直ヲ會照シ姦詐ヲ觀
破發摘スルノ事務ヲ總管ス

收稅課

出入及其他ノ願書ヲ受ケ免狀ヲ付シ船舶ノ手數料物品ノ連上金并ニ各項ノ收納金ヲ收領シ且
物品買上代ヲ賣主ニ附與スル等ノ事務ヲ總管ス

倉庫課

第一編 職制并分課

四十五

第一編 職制并分課

四十六

火災請合貨物ノ出入借庫ノ開閉上屋ノ進退上陸場ノ検査等ノ事務ヲ總管ス
文書課

内外往復ノ申牒關中例規ノ編纂及簿記書籍新聞紙等出入ノ事務ヲ總管ス
諸務課

關中一切ノ雜務ヲ幹理シ及ヒ檢印ヲ免狀ニ捺押シ税金ヲ本寮ニ廻送シ其他金銀ノ出納用度ノ
付給館柵ノ營繕官員ノ月給等ノ事務ヲ總管ス

右橫濱稅關職制確定候條履行踐守ス可キ事

明治五年壬申十月

大藏大輔 井 上 馨

同年十一月二日巡警吏ヲ監吏ト改メ海陸監吏課ヲ設置ス

一 海陸監吏課

海陸ヲ巡警シ密商脫稅ヲ謀ル徒ヲ監察發摘スル等ノ事ヲ總管ス

右一課其港稅關中へ新設可致旨井上大藏大輔ノ命ニ寄リ御達申進候也

明治五年壬申十一月二日

陸 奧 租 稅 頭

中島租稅權頭殿

同日橫濱運上所ヲ本局トシ各港運上所ヲ統轄セシム

今般橫濱稅關ヲ各港稅關ノ本局ト被相定候ニ付テハ橫濱在勤ノ長官ハ各港稅關ノ長官タルハ

キ條以後各港在勤ノ租稅助權助ハ都テ次官ト可相心得尤七等出仕ニテ在勤ノ場所ハ次官ノ代

理ト可相心得事

但橫濱ヲ除ク外各港稅關職制并章程ハ追テ相達候迄從前ノ通

右之通相定候條中島租稅權頭始其他各港在勤官員へ可相達事

壬申十一月

大藏大輔 井 上 馨

租稅頭陸奧宗光殿

同月二十八日運上所或ハ稅關ト云ヒ稱呼一定セサリシヲ爾後一ニ稅關ト稱ス

同六年一月十六日監吏ノ職制章程左ノ達ヲ以テ改正シ從來ノ海陸監吏課ヲ廢シ更ニ監吏課ヲ置ク

第三號

監吏課章程御取調之上昨冬中御申出ニ付尙當方ニオイテ聊參酌ヲ加ヘ別紙寫ノ通正院へ相伺

候處許可相成候條履行踐守候様大阪神戸長崎稅關へモ御達可有之候此段御達申入候也

明治六年一月十日

陸 奧 租 稅 頭 印

中島租稅權頭殿

追テ賞罰禮節表ハ別紙正院へ不相伺候へ共御申出ノ通ニテ可然ト存候也

(別紙寫) 監吏課章程

第一章

一 監吏ノ主務タルヤ密商脫稅ヲ監視防遏スル爲ニ設ケシ者ナレハ居常總長ハ章程ト成規トニ照準

シテ吏長監吏ヲ率督シ吏長ハ總長ノ示令ニ從順シテ監吏ヲ率ヒ監吏ハ總長及吏長ノ示令ニ從順

シテ僚中懇和シ各自其職ヲ盡シ揚陸積船及移荷ノ際ニ至テハ殊ニ注意ヲ加ヘ其點詐ヲ看破發摘

スルヲ要ス總長以下其職務ノ標的タルヤ左條ノ如シ

監吏總長 八等

同副總長 九等 一員

第一條

課中ノ首長ニシテ内外人民ノ密商脫稅ヲ發摘スルノ事務ヲ管ス

第一編 職制并分課

四十七

第一編 職制并分課

四十八

第二條

章程ト成規ニ從テ吏長及監吏ノ處務ヲ便宜指令ス

第三條

課中ニ生シタル過失ト事務ノ舉ラサレハ自ラ長官ニ向テ其責ニ任ス故ニ居常課中ノ當否ヲ察視シ之ヲ長官ニ對シ陳說スルヲ得ル

第四條

吏長以下監吏ノ能否勤惰ハ平常之ヲ監視シ賞罰ノ法案ヲ具狀シテ長官ニ呈シ處分ヲ請フヘシ

第五條

監吏勤務日課ノ興廢心得書ノ更正及辭賞徹勤等吏長ノ申達ヲ參取シ之ヲ長官ニ具狀シ處分ヲ請フ可シ

監吏長

十一等

一員

同副長

十二等

一員

第一條

總長ノ指令ニ從テ其事務ヲ担当調理シ亦其緩急ヲ察シ總長ニ告白ス

第二條

監吏ニ發ル過失ト事務ノ舉ラサルハ總長ニ對シ其責ニ任ス故ニ大監吏以下ノ勤怠ヲ監視シ其當否ヲ總長ニ向ヒ陳說スルヲ得ル

第三條

監吏ヲ率督シ監船巡回見張立番ノ人員ヲ配布スルヲ掌ル

以上判任官トス

監吏 月給二十三圓

第一條

吏長ノ令ニ從テ中少監吏ノ勤惰ヲ監察スルノ職ニシテ居常監船巡回見張立番等吏長ノ配布シタル其處ニ到リテ日夜之ヲ監視シ其景况ヲ吏長ニ報ス

第二條

吏長若シ不適當ノ令ヲ傳フルカ或ハ勤務ヲ怠ルノ事アラハ之ヲ審案シ總長ニ直報スルヲ得ル

第三條

監吏ニ屬スル事務ハ吏長ニ對シ討論スルノ權ナシト雖モ若シ吏長ノ商議ヲ得ルニ於テハ所見ヲ陳說スルヲ得ル

第四條

入港スル船舶ノ來由ヲ尋問シ之ヲ吏長ニ報ス

中監吏 月給十六圓

吏長ノ配布シタル船ニ到リ且巡回シ海上ニ於テ密商脫稅ノ點詐ヲ看破防遏ス

少監吏 月給十三圓

吏長ノ配布シタル張番所及立番ノ位地ニ到リ陸上ニ於テ密商脫稅ノ點詐ヲ看破防遏ス

右雇勤士官トス

第二章

一 監吏ハ一々ノ士官タルヲ以テ外人ニ接ス故ニ禮節ヲ守リ服飾ヲ潔シ言語動作ヲ正フスヘシ最モ内外人民賤卑ノ者ト猥リニ交語ス可カラス然リト雖モ必蔑視スルコト勿レ船中ハ殊更ニ注意シ辱シメヲ受サル可シ

第一編 職制并分課

四十九

第三章

一 當港不案内ナル内外國ノ旅客ハ假令下賤ノ者タリト雖モ稅關ノ規則ヲ懇切ニ口授シ決テ暴慢ノ所爲アル可カラズ

第四章

一 監吏若シ點詐ヲ發覺スルキハ必暴慢ノ所業ヲ慎ミ唯確據トナス可キ證左ヲ取り直ニ之ヲ吏長ニ報スヘシ吏長ハ其緩急ヲ計リ總長ニ報スヘシ
縦令彼暴言ヲ吐ト雖モ必一己ノ怒リニ迷ヒ粗暴ノ言語動作ヲ爲シテ彼ノ口實ヲ生スルコトナク注意忍耐シテ全ク前途ノ勝算ヲ圖ルヘシ

第五章

一 中少監吏ハ居常舌齒ノ交リヲ結ヒ緩急相助ケ若シ陸上ニ百事ノ起リタルヲ海吏ノ耳目ニ見聞セハ直ニ上陸シテ助力スヘシ其功ニヨツテ相當ノ賞ヲ與フヘシ若シ傍觀スルモノアラハ必其事故ヲ嚴糾シ以テ相當ノ罰ヲ加フ可シ海上ノ陸吏ニ於テモ亦同シ

第六章

一 勤務ノ時間ハ人毎ニ晝夜中六時間ヲ課スルヲ法トナス然レモ其海陸ヲ派監シ晝夜ヲ分務スルカ如キハ總長ニ任ス

第七章

一 監吏心得書及瑣末ノ規則ニ至テハ總長ニ示令シテ之ヲ布カシム其規則ニ從順シテ必違背スルコト勿レ

第八章

一 監吏課ノ服制ハ總テ服制圖表ノ如シ其規範及製造ノ如キハ都テ總長ニ委ス

第九章

一 非常ノ賞罰ハ非常ノ處置アルヘシト雖モ尋常ノ賞罰ハ賞罰表ニ照準シ之ヲ處置ス

第十章

一 稅關長官諸奏任官及監吏總長吏長ヘノ禮節ハ總テ禮節表ノ如ク爲スヘシ若シ傲慢無狀太甚シキ者ハ相當ニ罰ヲ加フヘシ

第十一章

一 稅關中ニ托法ノ者及竊盜爭鬪等アリテ之ヲ捕虜鎮靜スルハ邏卒ノ職掌タリト雖モ監吏ノ耳目ニ觸レタレタルトキハ速ニ之ヲ應援助力スヘシ邏卒ノ監吏職務上ニ發ル事ニ於ケルモ亦同シ

第十二章

一 稅關免許ナキ貨物ハ一切陸揚及船積トモ許ス可カラズ雖然商物ノ外食用等左件ノ品類ニ至リテハ其實ヲ監視シ許ス可シ最モ堅牢ノ筐櫃ニ入ルモノカ或ハ最大ナルモノ亦多數ナル者ニ至テハ左件ノ品ト雖モ之ヲ吏長ニ報シ吏長審案シテ總長ニ告白シ檢査課ニ報スヘシ

船へ往ク者

寡少ノ食物類 當用ノ船具類

着替ノ衣服類

船ヨリ來ル者

着替ノ衣服類 當用ノ船具類

第十三章

一 無稅品及許了ノ品タリトモ其連搬ニ怪ムヘキ景况ヲ察スルキハ之ヲ糺シ事實明了ナレハ之ヲ免シ明了ナラサレハ吏長ニ報スヘシ言語ニ疑シキアルモ亦第十二章ノ如クスヘシ若シ閉關ノ後ニ在ラハ稅關ノ宿直ニ報シ其顛末ヲ翌日總長ニ報スヘシ大事件ニ於テハ此限ニ非ス

第一編 職制并分課

第十四章

一 監吏ハ罪人ヲ捕縛スルト筐中ノ品ヲ發閱スルノ權ナシ捕縛ハ選卒ニ傳ヘ品ノ検査ハ検査課ヘ讓ル可シ

第十五章

一 監吏以下公事ニテ旅行スルキ大監吏ハ九等旅費中少監吏ハ十等旅費ヲ賜ル然リトイヘ凡招募退役着後ノ日當等ハ賜ハラサル可シ

第十六章

一 監吏ノ月給ハ命スル其日ヨリ免スル前日迄日割ヲ以テ之ヲ與フ亦轉職スルキハ半月ヲ境ヒ重複セサル日迄ヲ渡ス可シ

右監吏課章程ヲ確定ス各員能ク之ヲ遵守シ其程限ヲ愆ル勿レ

賞	罰	表	賞	罰
一	等	壹圓五拾錢	壹圓五拾錢	
二	等	壹圓	壹圓	
三	等	五拾錢	五拾錢	
四	等	一	等	辭
五	等	二	等	辭
		賞	辭	徹勤二日

同年六月二日左ノ往復ヲ以テ監吏章程中數章ヲ改正ス

當稅關監吏課章程中第一章總長ノ部第四條及第五章九章十章十六章賞罰表トモ別紙ノ通改正致シ度存候間御評議ノ上早々御取扱有之度存候也

明治六年四月二日

租稅權頭 中島信行 印

租稅頭陸奥宗光殿

(別紙畧ス)

書面章程中改正ノ儀正院ヘ相伺候處朱字削正ノ通相改伺ノ通許可相成候條可被得其意候尤各稅關ヘハ其港ヨリ可被致通達候此段相達候事

明治六年六月二日

租稅頭陸奥宗光代理

監吏章程中改正

第一章中總長ノ部第四條

一 吏長以下監吏ノ能否勤惰ハ平常之ヲ監視シ其事由ヲ具狀シ長官ニ呈シ處分ヲ請フ可シ

第五章

一 中少監吏ハ常ニ交誼ヲ厚フシ緩急相助ケ若シ陸上ニ事ノ發リタルヲ海吏見聞セハ直ニ上陸シテ助力スヘシ其功ニ依リテハ相當ノ賞ヲ與フヘシ必ス傍觀スル事勿レ陸吏ノ海上ニ於ケルモ亦同シ

第九章

一 非常ノ賞罰ハ非常ノ所置アルヘシト雖凡尋常ノ賞與及内則ヲ背ク者等ハ勸懲表ニ照準シテ之ヲ處分ス

第十章

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

一 稅關長官諸奏任官及監吏總長吏長へノ禮節ハ都テ禮節表ノ如ク爲ル可シ必ス傲慢無狀アル可カラス

第五章

一 監吏ノ月給ハ命スル其日ヨリ轉免スル前日迄日割ヲ以テ之ヲ與フ可シ但シ日割ノ法各三十分ノ一ヲ以テスヘシ

勸懲表	賞	譽	謝	怠
一等	壹圓五拾錢	壹圓五拾錢	壹圓五拾錢	
二等	壹圓	壹圓	壹圓	
三等	五拾錢	五拾錢	五拾錢	
四等	一等賞	辭	徹勤三日	
五等	二等賞	辭	徹勤三日	

同七年一月二十日稅關ノ職制章程ヲ更革シ橫濱稅關本局ノ稱ヲ廢ス

其港稅關ヲ以テ各港場稅關ノ本局トナシ在勤ノ長官ハ各港稅關ノ長官タルヘキ旨去ル壬申十一月月中相達置候處今般御詮議ノ次第有之其關本局ノ名稱ヲ廢止別冊之通章程職制被相改條爾後稅關ノ事務細大トモ右ニ照準取計候様可相達旨大藏卿大隈重信ヨリ被相達候條可被得其意候旨相達候也

明治七年一月二十日

稅關頭 松方正義

租稅權助 星亨殿 各港稅關職制

一 稅關司長一員

司長ハ其稅關事務ノ繁簡ニ寄租稅權助七等出仕所任トス尤事務ノ繁簡ニヨリ橫濱稅關ノ如キハ更ニ副官ヲ增置ス

本港稅關中諸官員ノ首長ニシテ本港内外出入ノ租稅ヲ管理スルヲ掌リ關中諸官員ノ處務ヲ指令シ各課ノ事ヲ幹理ス

關中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テ寮頭ニ對シ担保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テ寮頭ニ對シ其當否ヲ論辯スルヲ得ル

諸課ヲ廢立シ規則ヲ更革スルハ寮頭ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置スヘシ

關中定額官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟スルハ寮頭ノ決判ヲ乞フヲ要セス然レモ奏任官及ヒ外國人ヲ進退シ及ヒ定額外ノ員ヲ增加スルニ至テハ審案具狀シテ寮頭ニ呈シ其決判ヲ請フヘシ

一 副司長 職任長ニ亞ク

司長缺員或ハ公務ニ依リ他港稅關へ出張シ及ヒ其他ノ事故ニヨリ缺席スルコトアレハ一切長ノ職掌ヲ代理スルヲ得ル然レトモ官員ノ進退黜陟ニ至テハ必ス寮頭ノ判ヲ乞フ乎或ハ長ノ決ヲ受テ之ヲ處置スヘシ

大屬 權大屬

第一編 職制并分課

中屬
 權中屬
 少屬
 權少屬
 十四等
 十五等
 譯官
 監吏總長
 監吏副總長
 監吏長
 監吏副長
 一等譯官ヨリ七等譯官マテ便宜置之

司長副司長ノ指令ニ從テ各分課ニ就キ從事スヘシ
 以上之ヲ判任官トス判任官ハ右定員ヲ目的トシ大屬一員ヲ廢シ少屬兩員ヲ置等ハ長ノ權ニ屬ス

大監吏
 中監吏
 少監吏
 司長副司長并監吏總長及監吏長ノ指令ニ從事スヘシ

檢査課
 貨物ノ眞偽ヲ精閲シ度量ノ虛實ヲ詳檢シ差出書積荷目錄ヲ對較シ現價原直ヲ會照シ姦詐ヲ觀破
 發摘スル事務ヲ總管ス

收稅課
 出入及其他ノ願書ヲ受ク免狀ヲ付シ船舶ノ手數料物品ノ運上金并ニ各項ノ收納金ヲ收領シ且物
 品買上代ノ賣主ニ付與スル等ノ事務ヲ總管ス

倉庫課
 火災請合貨物ノ出入借庫ノ開閉上屋ノ進退上陸場ノ檢査等ノ事務ヲ總管ス

文書課
 内外往復ノ申牒關中例則ノ編纂及簿記書籍新聞紙等出入ノ事務ヲ總管ス

諸務課
 關中一切ノ雜務ヲ幹理シ及ヒ檢印ヲ免狀ニ捺押シ税金ヲ本寮ニ回送シ其他金銀ノ出納用度ノ付
 給館柵ノ營繕官員ノ月給等ノ事務ヲ總管ス

監吏課
 本課ノ監吏章程及心得書ニ照ラシ從事スヘシ
 右橫濱神戸大阪長崎稅關職制確定候條履行踐守スヘキ事
 明治七年一月十九日
 各港稅關在勤ノ司長ニ附與スル章程

第一章
 一 各港稅關ハ恒ニ本寮ト氣脈ヲ通シ凡百ノ事務難決事件ハ本寮ヘ申出寮頭ノ示達ヲ請施行スヘシ

第二章
 一 各港稅關ニ在勤スル司長ハ定規制則ニ照準シ決行ノ權ヲ有ス

第一編 職制并公課

但シ本文定規成則トハ従前慣行ノ方法ニシテ本省ノ許可ヲ得シモノナリ

第三章

一 各港税關諸則中其港ニ定規ナキカ或ハ定規アリト雖モ之ヲ實際ニ施行シ難キカノトキハ之ヲ本寮頭ニ申出ツヘシ

第四章

一 各月領收ノ諸税金手数料等者翌月三日限り取纏メ證券ヲ以テ本寮ヘ送納スヘシ

第五章

一 各港税關輸出入物品其他出入港碇船船長等従前ノ通詳細取調直ニ本寮ニ差出ヘシ

第六章

一 稅務之義ニ就キ外國人ニ關シ起レル議論ハ其事ノ結局ヲ埃タス其輩ヘ一往復毎ニ本寮ヘ可申出尤其結局ニ至リ議論ノ調否ヲ不論其顛末ノ書類悉皆相添詳細具狀寮頭ヘ申出ヘシ

第七章

一 税關中諸般ノ事務成規定例アルハ在勤ノ司長決判シテ行フヘシト雖モ定額金ノ外金銀出納ニ關係セルハ小事タリト雖モ本寮頭ヘ申達シ候上其筋之許可ヲ經サレハ施行スルヲ得ス

第八章

一 税關ノ事務上ニ就キ本省ハ勿論其他官省ヘノ申達ハ一切本寮頭ヘ申出ヘシ
但シ外國人ニ關シ至急事件ニテ外務省ヘノ申達ハ本文ノ例ニ非スト雖モ直ニ外務省ヘ申達セシト同時ニ本寮頭ヘ届出スヘシ

第九章

一 各税關在勤官員判任以下ノ勤惰ヲ監視シ黜陟ノ時々其者履歷書ヲ添ヘ顛末ヲ具狀シ寮頭ヘ届

出ヘシ

右之通章程確定候條履行遵守其程限ヲ愆ル勿レ

明治七年一月十九日

大藏卿 大隈重信

同年五月十八日税關司長副司長ヲ税關長副長ト改ム

同九年七月二十四日税關ニ鑑定課ヲ新設シ其職掌定限ヲ定ム

横濱税關

今般其税關ヘ鑑定課ヲ置キ検査課ノ次ニ列シ職掌權限之廉等別紙ノ通相定候條従前各課職制中右事務ニ抵觸矛盾スル廉ハ相廢止候條此旨相達候事

明治九年七月廿四日

租稅權頭 吉原重俊

(別紙)

検査課

貨物度量ノ虛實ヲ詳檢シ差出書積荷目錄ヲ效較シ姦詐ヲ觀破發摘スルノ事務ヲ總管ス

鑑定課

貨物ノ眞偽價值ノ當否ヲ精檢シ定額從價ノ區別及有稅無稅ノ區畫ヲ定メ原價不當ノ貨物ハ之ニ増價スル等ノ事務ヲ總管ス

同十年一月十一日諸省奏任官等外官等ヲ改定セラレ奏任ニ在ツテハ正權大書記官正權少書記官判任ニアツテハ一等屬以下十等屬ヲ置キ又一等ヨリ四等ニ至ル等外吏ヲ置カル

同日大藏省中租稅寮ヲ廢シテ租稅關稅二局ヲ置キ各港税關ハ關稅局ノ主管トナル
同年五月二十六日税關ニ一等ヨリ九等ニ至ル監吏一等ヨリ四等ニ至ル監吏補ヲ置キ其職制章程ヲ定

第四十三號

大藏省中監吏監吏補ヲ置キ官等月俸并服制左ノ通被定候條此旨相達候事(服制ハ雜ノ部ニアリ)
明治十年五月二十六日

右大臣 岩 倉 具 視

- 一等監吏 八等
- 二等監吏 九等
- 三等監吏 十等
- 四等監吏 十一等
- 五等監吏 十二等
- 六等監吏 十三等
- 七等監吏 十四等
- 八等監吏 十五等
- 九等監吏 十六等
- 以上判任官 月俸十三圓
- 一等監吏補 同 十二圓
- 二等監吏補 同 十一圓
- 三等監吏補 同 十圓
- 四等監吏補 同 十圓
- 以上等外吏ニ準ス

税關監視課職制

(後十五年二月二十六日職制中改
正今其改正ニ係ルモノヲ掲ク)

- 一等監吏
- 二等監吏
- 三等監吏

事務ノ繁閑ニ因リ一等ヨリ三等迄ノ内一員ヲ置ク

本課ノ長ニシテ章程心得書及ヒ慣例ニ遵依シ税關長ノ指令ヲ承テ課中ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

故ニ課中ニ生シタル過失及事務ノ舉ヲサル等ニ於テ税關長ニ對シ其担保ノ責任ヲ有ス

密商脱税其他之ニ關スル規則ニ違犯スル者ヲ監視スルヲ首トシ其違犯ノ件ハ之ヲ税關長ニ稟告

ス可シ且姦詐ヲ看破スルニハ適宜處分スルヲ得可シ

密商脱税違犯ノ者猥ニ強暴ヲ行ヒ若クハ固ク非理ヲ執ル時ハ臨機ノ處分ヲ施シ得可シ然レ其身

體ニ係リ其名譽ニ關スル等ノ事ハ直ニ之ヲ行フヲ得ス必ス税關長ノ指令ヲ請フ可シ

章程心得書及懲罰則ノ條件並ニ慣例ノ事務等實際施行ノ上ニ就キ税關長ニ對シ其當否ヲ論シ及

ヒ所見ヲ陳說スルヲ得可シ

三等監吏以下ヲ督率指令シ又其陳述スル所ヲ取捨シ若クハ之ヲ關長ニ開申スルヲ得可シ

監吏補ノ能否勤惰及缺員ノ補充等ヲ勘査視察シテ其所見ヲ付シ之ヲ税關長ニ具申スルヲ得可シ

四等監吏

五等監吏

六等監吏

七等監吏

九等監吏

事務ノ繁閑ニ因リ之ヲ増減ス

章程心得書及慣例ニ遵依シ課長ノ指令ヲ承ケ事務ヲ執行シ監吏補ヲ監所ニ分配シ又諸船舶入著

セハ之ヲ尋問報告シ其他雜事ヲ掌ル

若シ事監所ニ起ル時ハ自ラ其地ニ至リ成規慣例上既ニ準許セル事件カ或準許ナキモ規則ニ抵觸

セサル瑣末ノ事ハ便宜處分スルヲ得可シ若シ成規慣例ニ準許ナク且規則ニ關セサルモノハ必ス

課長ニ報告シ其決ヲ請フ可シ

實察施行スル處ノ本課ノ事務ニ就キ現ニ弊害ヲ著ハシ若クハ處置方法宜キヲ得スト察スル時ハ

之ヲ課長ニ陳述スルヲ得又課長ノ商議ニ參シ兼テ所見ヲ開説スルヲ得可シ

常ニ監吏補ノ能否ヲ視察シ勉怠ヲ勸戒シ功勞過失アラハ詳查シテ之ヲ課長ニ具狀スヘシ

監吏補ノ質問ニ應答辯解シ及其陳述スル所ハ之ヲ取捨ス可シ然リト雖モ其陳述スル所ハ是非ヲ

問ハス必ス課長ニ申告ス可シ

一等監吏二等監吏三等監吏ヲ置カス若クハ公事又ハ歸省等ニ依テ其人不在ノ時ハ四等以下ノ監

吏之ヲ代理スルヲ得可シ

以上之ヲ判任官トス

一等監吏補

二等監吏補

三等監吏補

四等監吏補

配布セラレタル船舶若クハ監所ニ至リ及海上陸上ヲ巡回シ密商脫稅其他姦詐違犯ヲ監視禁遏シ

又艙口ヲ封鎖開披スルノ事ヲ掌ル等都テ監吏ノ指令ニ從フ可シ
本務上ニ就キ所見アラハ之ヲ四等以下ノ監吏ニ陳述スルヲ得可シ
以上之ヲ等外吏ニ準ス

稅關監視課章程

第一條

密商脫稅ヲ謀ル者或ハ謀ラントスル者或ハ之ニ關スル條約ノ明條ヲ違犯スルモノ并ニ稅關ノ成
規及慣法ニ抵觸スル者ヲ監視禁遏スル

第二條

監視課ノ權限及職務ハ各港一定ヲ要シ此章程ヲ設クト雖モ慣行自ラ異アルヲ以テ監吏以下實際
ノ勤方及心得ニ至テハ各港稅關長ニ之カ心得書ノ制定ヲ委ス故ニ右心得書ハ此章程ト同一ニ遵
守ス可キ

第三條

監吏ハ筐中ノ品ヲ檢閱スルノ權ヲ有セス然モ姦詐ヲ發覺スルニ當リ若シ其品性ヲ知ラスシテ不
都合ノ件アルハ其時機ニ應ジテ之ヲ檢閱スルヲ得可キ

第四條

監吏補ハ日課本務ノ定員ハ缺ク可カラサルヲ以テ若シ疾病或ハ事故アリテ出勤ヲ缺クモノアラ
ハ休憩ノ同僚ヲシテ代務セシメ其缺ヲ補ハシム故ニ缺勤者ヨリ別表ノ金額ヲ徵シ以テ代務者ノ
謝トシ之ヲ給セシムヘキ
但事故アリテ俸給全額ヲ給セサル場合ニ於テハ此限リニアラス

缺勤償金表

一三 日 以 下	二一 等 監 吏 補	拾 錢	四三 等 監 吏 補
一四 日 以 上	拾 五 錢	拾 錢	拾 六 錢
一十 日 以 上	拾 錢	八 錢	拾 貳 錢

同十五年一月十七日關稅局職制并ニ事務章程ヲ定メ各港稅關ヲ統轄シ海關稅一切ノ事務ヲ管理ス
同年三月二十日稅關職制并ニ事務章程ヲ改定シ檢査鑑定、收稅、倉庫、諸務、監視ノ六課ヲ置カル

第三百二十四號

橫濱稅關

稅關職制章程別冊ノ通改定相成候旨大藏卿ヨリ被達候條此旨相達候事

明治十五年四月五日

關稅局長 蜂須賀茂韶
關稅局

第三百二十四號

稅關職制章程別冊ノ通改定候條稅關へ達方可取計此旨相達候事

但橫濱稅關副長ノ義并新潟稅關長代理職權ノ義ハ總テ從來之通可据置候事

大藏卿 松方正義

稅關職制并事務章程

稅關ハ關稅局ニ屬シ海外輸出入貨物ノ稅務ヲ管理スル所ニシテ左ノ諸課各其事務ヲ分掌ス

檢査課 鑑定課 收稅課 倉庫課 諸務課 監視課

但鑑定課監視課ヲ設置セサル稅關ニ於テハ其事務ハ檢査課之ヲ兼任ス

職制

長 一人

- 一 部下ノ官吏ヲ統率シテ主管ノ事務ヲ總理ス
- 一 判任官ノ進退黜陟ハ之ヲ卿ニ具シ等外以下ハ之ヲ專行ス
- 一 主管ノ事務ニ付要スル所ノ法律規則ヲ起草シ關稅局長ニ具スルヲ得

屬 各諸務ニ從事ス

監吏

監吏補

密商脫稅ノ監視ニ從事ス

鑑定役

鑑定役見習

輸出入貨物ノ鑑定ニ從事ス

檢査課

船長又ハ貨主ノ願書ヲ受ケ之ヲ翻譯シテ其願書ト積荷目錄ヲ對照シ其貨物ノ尺度斤量ヲ調査シ
テ姦詐ヲ摘發スル等ノ事ヲ掌ル

鑑定課

第一編 職制并分課

六十六

貨物ノ性質價值ヲ査定シ及ヒ有税無税ノ區畫ヲ鑑別シ且損傷ノ有無ヲ調査シテ課税ノ正鵠ヲ得ル等ノ事ヲ掌ル

收税課

貨物船舶倉庫等ニ係ル諸税金ヲ收領シ及ヒ各種ノ免狀證書類ヲ授與シ又ハ増價買上品ノ代金ヲ賣主ニ附與スル等ノ事ヲ掌ル

倉庫課

倉庫上屋ヲ開閉シ及ヒ貨物ヲ出納シ又ハ入庫貨物ノ火災損傷ヲ請負ヒ其他手數既済ノ貨物ニ檢印スル等ノ事ヲ掌ル

諸務課

公文ヲ受授シ書類ヲ編纂シ諸表ヲ調製シ及ヒ各種ノ免狀證書ニ捺印シ其他關中一切ノ雜務ヲ掌ル

監視課

本課ハ監視課章程ニ照シ從事ス

事務章程

主管ノ事務左ニ列記スルモノハ關長其意見ヲ付シ關稅局長ヘ伺ヲ經テ施行ス其他ハ關長之ヲ專行スルヲ得

但主管ノ事務ヲ施行スルニ付テハ長皆其責ニ任ス

第一條

條約上ニ關シ疑義ニ涉ル事件ヲ處分スル事

第二條

成規慣例ナキ事件ヲ處スル事

第三條

出張所并各課ヲ廢置シ及ヒ其事務條款ヲ設定又ハ變更スル事

第四條

外國領事ノ裁判不服ノ節控訴或ハ上告スル事

第五條

掌管ノ帳簿及表式ヲ定メ又ハ更正スル事

第六條

新タニ書類ヲ刊行スル事

第七條

關長自ラ各地方(東京ヲ除ク)ヘ出向スル事

第八條

部下官吏ノ勤勞ヲ按シテ手當金又ハ褒賞ヲ給與スル事

第九條

雇外國人ニ歸省又ハ休暇ヲ許與シ或ハ他所ヘ派出ヲ命スル事

同十七年五月二十日組稅關稅ノ二局廢止サレ更ニ主稅局ヲ置ク依テ各稅關ハ同局ノ主管ニ屬ス稅關

ニ一等ヨリ十等ニ至ル主稅屬一等ヨリ九等ニ至ル主稅監吏及ヒ一等ヨリ四等ニ至ル監吏補ヲ置カル

同年六月十三日鑑定役ヲ主稅鑑定役、鑑定役見習ヲ主稅鑑定役見習ト改稱ス

同七月四日本關事務章程并分掌規定ヲ定ム

甲第三十六號

第一編 職制并分課

六十七

第一編 職制并分課

六十八

橫濱税關

郷純造

其税關事務章程并分掌規程別紙ノ通相定候條此旨相達候事
明治十七年七月四日

(別紙)

事務章程

主管ノ事務左ニ列記スルモノハ税關長其意見ヲ付シ主税官長ヘ伺テ經テ施行ス其他ハ税關長之ヲ
專行スルコトヲ得

但主管ノ事務ヲ施行スルニ付テハ税關長皆其責ニ任ス

第一條

條約上ニ關シ疑義ニ涉ル事件ヲ處分スル事

第二條

成規慣例ナキ事件ヲ處分スル事

第三條

出張所并各科ヲ廢置シ及ヒ其事務條款ヲ設定又ハ變更スル

第四條

外國領事ノ裁判不服ノ節控訴或ハ上告スル事

第五條

掌管ノ帳簿及ヒ表式ヲ定メ又ハ更正スル事

第六條

税關長自カラ各地方(東京ヲ除ク)ヘ出向スル事

第七條

雇外國人ニ歸省又ハ休暇ヲ許與シ或ハ他所ヘ派出ヲ命スル事

第八條

判任官以下ノ勤勞ヲ按シテ手當金又ハ褒賞ヲ給與スル事

第九條

新ニ書類ヲ刊行スル事

第十條

例規ナキ官金出納ノ事

第十一條

一 廉百圓以上ノ費額ヲ以テ諸書式帳簿ヲ印刷シ及ヒ消耗品并備品ヲ購買スル事

第十二條

船舶ヲ製造シ又ハ購買シ及ヒ拂下ケ又ハ貸渡ス事

第十三條

一 廉百圓以上ノ費額ヲ以テ各所ヲ新營シ及ヒ修繕シ又ハ變更スル事

第十四條

一 廉百圓以上ノ費額ヲ以テ船舶ヲ修繕スル事

第十五條

地所家屋ヲ買上ケ又ハ拂下ケ及ヒ借入又ハ貸渡ス事

税關分掌規程

税關ハ主税局ニ屬シ海關稅務ヲ管理スル所ニシテ左ノ諸科各其事務ヲ分掌ス

第一編 職制并分課

六十九

第一編 職制并分課

七十

検査科 鑑定科 收税科 倉庫科 文書科 製表科 監視科 會計科
但鑑定科監視科ヲ設置セサル税關ニ於テハ其事務ハ検査科之ヲ兼掌ス
税關長 壹員

部下ノ官吏ヲ統率シテ主管ノ事務ヲ總理ス

判任官ノ進退黜陟ハ之ヲ主税官長ニ具狀シ等外以下ハ之ヲ專行ス

主管ノ事務ニ要スル所ノ法律規則ヲ起草シ主税官長ニ具申スルヲ得

税關副長 壹員 横濱税關ニ限り之ヲ置ク

税關長ノ職務ヲ補ケテ庶務ヲ幹理ス長事故アリテ缺席スルトキハ之カ代理タルヲ得

科長 壹員

税關長ノ指揮ヲ受ケテ主務ヲ幹理ス

主税屬

税關長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ニ従事ス

主税監吏

主税監吏補

税關長ノ指揮ヲ受ケテ輸出入品ノ監視ニ従事ス

主税鑑定役

主税鑑定役見習

税關長ノ指揮ヲ受ケテ輸出入貨物ノ鑑定ニ従事ス

検査科

船長又ハ貨主ノ願書ヲ受ケ之ヲ翻譯シテ其願書ト積荷目錄ヲ對照シ且貨物ノ尺度斤量ヲ調査シ

テ姦詐ヲ發摘スル等ノ事ヲ掌ル

鑑定科

貨物ノ性質價值ヲ査定シ及ヒ有税無税ノ區畫ヲ鑑別シ且損傷ノ有無ヲ調査シテ課税ノ正鵠ヲ得

ル等ノ事ヲ掌ル

收税科

貨物船舶倉庫等ニ係ル諸税金ヲ收領シ及ヒ各種ノ免狀證書類ヲ授與シ又ハ増價買上品ノ代金ヲ

賣主ニ附與スル等ノ事ヲ掌ル

倉庫科

倉庫上屋ヲ開閉シ及ヒ貨物ヲ出納シ又ハ入庫貨物ノ火災損傷ヲ請負其他手數既済ノ貨物ニ檢印

スル等ノ事ヲ掌ル

文書科

内外文書ニ屬スル事項及免狀證書ノ捺印等ノ事ヲ掌ル

製表科

貿易ニ關スル諸表ヲ編製スル事ヲ掌ル

監視科

海陸ヲ巡回シテ密商脱税ヲ監視禁遏スル等ノ事ヲ掌ル

會計科

經費及ヒ財産ニ屬スル事項給仕水火夫下使小使ノ進退等ノ事ヲ掌ル

同年七月十八日主税局分掌規程ヲ更改シ部長税關長等ノ職權及税關事務章程ヲ改正ス

各

部

第一編 職制并分課

七十一

第一編 職制并分課

七十二

當局分掌規程其他別紙ノ通更定候條此旨相達候事
明治十七年七月十八日

各 稅 關
主稅官長 鄉 純 造

(別紙)

主稅局分掌規程

本部

書記 庶務課 編輯課

地租改正殘務掛 租稅誌編纂掛

第一部

整理課 審査課 製表課 收納課

通商史編纂掛

第二部

地租課 船車稅課 水產稅課 雜收稅課 計算課 收納課

第三部

酒稅課 印紙稅課 地方稅課 會社稅課

第四部

統計課 徵稅費課 會計課 雜收入掛

稅關

檢査科 鑑定科 收稅科 倉庫科 文書科 製表科 監視科 會計科

但鑑定科監視科ヲ設置セサル稅關ニ於テハ其事務ハ檢査科之ヲ兼掌ス

部長 每部壹員

主稅官ヲ以テ之ニ充ツ 但本部ニハ長ヲ置カス

部中ノ官屬ヲ統率シテ主官ノ事務ヲ担任シ主稅官長ニ對シ其責ニ任ス

課長 每課壹員

掛長 每掛壹員

主稅官ヲ以テ之ニ充ツ

課掛中ノ官屬ヲ統率シテ主掌ノ事務ヲ整理シ本部課掛長ハ主稅官長ニ各部下掛長ハ主務部長ニ對シテ其責ニ任ス

主稅官

部長課長掛長ヲ補ケテ各部課掛ノ事務ヲ提掌ス

主稅屬

部長課長掛長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ニ從事ス

稅關長 每關壹員

主稅官ヲ以テ之ニ充ツ

稅關中ノ官屬ヲ統率シテ主管ノ事務ヲ担任シ主務官長ニ對シテ其責ニ任ス

稅關副長 壹員

主稅官ヲ以テ之ニ充ツ 但橫濱稅關ニ限リ之ヲ置ク

稅關長ノ職務ヲ補ケ庶務ヲ幹理ス長事故アリテ缺席スルトキハ之カ代理タルコトヲ得

科長 每科壹員

主稅屬主稅監吏主稅鑑定役ヲ以テ之ニ充ツ

第一編 職制并分課

七十三

第一編 職制并分課

- 税關長ノ指揮ヲ受ケテ主務ヲ幹理ス
- 主税屬
 - 税關長及科長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ニ従事ス
 - 主税監吏
 - 主税監吏補
 - 税關長及科長ノ指揮ヲ受ケテ輸出入品ノ監視ニ従事ス
 - 主税鑑定役
 - 主税鑑定役見習
 - 税關長及科長ノ指揮ヲ受ケテ輸出入貨物ノ鑑定ニ従事ス
 - 部長職權 (署ス)
 - 本部課長職權 (署ス)
 - 各都課掛長職權 (署ス)
 - 税關長職權
 - 一 税關事務章程及ヒ分掌規程ニ照ラシテ主管ノ事務ヲ執行スル事
 - 一 主管ノ事務ニ要スル所ノ法律規則ヲ起草シテ具申スル事
 - 一 判任以下ノ能否勤惰ヲ監視シ之カ進退褒貶ヲ具狀スル事
 - 但長代理ノ委囑及科長ノ命免ハ專行シテ後具申スヘシ
 - 但等外以下ハ之ヲ專行シテ後具申スルモノトス
 - 一 成規定例アル事件ヲ處分スル事
 - 一 成規定例アル事件ニ付税關長ノ名ヲ署シ各廳ニ照會應答スル事

税關

一 判任官以下ノ勤務表ヲ毎半年ニ調製シテ差出ス事(但本件ハ同年八月十六日甲第六二號ヲ以テ更正セルモノナリ以テ省ク)

海關稅務ヲ管理スル所ナリ稅關中分テ八科ト爲ス其分掌事務左ノ如シ

検査科

船長又ハ貨主ノ願書ヲ受ケ之ヲ翻譯シテ其願書ト積荷目録ヲ對照シ且貨物ノ尺度斤量ヲ調査シテ姦詐ヲ發摘スル等ノ事ヲ掌ル

鑑定科

貨物ノ性質價值ヲ査定シ及ヒ有稅無稅ノ區畫ヲ鑑別シ且損傷ノ有無ヲ調査シテ課稅ノ正鵠ヲ得ル等ノ事ヲ掌ル

收稅科

貨物船舶倉庫等ニ係ル諸稅金ヲ收領シ及ヒ各種ノ免狀證書類ヲ授與シ又ハ增價買上品ノ代金ヲ賣主ニ附與スル等ノ事ヲ掌ル

倉庫科

倉庫上屋ヲ開閉シ及ヒ貨物ヲ出納シ又ハ入庫貨物ノ火災損傷ヲ請負其他手數既濟ノ貨物ニ檢印スル等ノ事ヲ掌ル

文書科

内外文書ニ屬スル事項及ヒ免狀證書ノ捺印等ノ事ヲ掌ル

製表科

貿易ニ關スル諸表ヲ編製スル事ヲ掌ル

第一編 職制并分課



第一編 職制并分課

監視科
海陸ヲ巡回シテ密商脱税ヲ監視禁遏スル等ノ事ヲ掌ル
會計科
經費及ヒ財産ニ屬スル事項給仕水火夫下使小使ノ進退等ノ事ヲ掌ル

税關事務章程
曩ニ七月四日規定セラレタルモノト同一ナルヲ以テ畧ス同時ニ新潟税關長代理權限ヲ定メラ

ル本文亦要ナキヲ以テ畧ス
同月二十二日左ノ達アリ

甲第四十八號
横濱税關

長崎新潟兩税關へ別紙ノ通相達候條爲心得此旨相達候事

明治十七年七月二十二日
主税官長 郷 純 造

(別紙)
甲第四十七號
各通 新長 新潟 税 關

税關事務章程中第六條記載ノ趣モ有之候處税關長部内出張所へ出向スルハ從前ノ通不要經伺出張
不苦儀ト可相心得此旨相達候事
但出張ノ節ハ其段届出ツヘシ

明治十七年七月二十二日
主税官長 郷 純 造
同十九年一月十三日税關監視課職制章程ヲ廢止ス因テ左ノ通心得ヘキ旨郷主税官長ヨリ達セラレ

一 舊監視課職制章程中掲載セル緊要ナル條項ハ之ヲ心得書中ニ編入シ税關長限リ制定ノ上届出ツ
ヘシ

一 監吏補ニ給スル月俸旅費ノ給與法ハ總テ一般ノ規則ニ據ルヘシ
一 監吏補召募規則ハ主税局官吏採用規程ニ準シ制定ノ上届出ツヘシ

同年三月一日官制ノ改正ニ依リ主税局ヲ分テ更ニ關稅局ヲ設置ス
同月二十五日新ニ税關官制(勅令第七號)制定サレ爾來税關ハ大藏大臣ノ直轄トナル又同官制ニ依リ税關鑑
定ヲ置カル官制左ノ如シ

税關官制
第一條 各税關ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

税關長
税關副長

屬
監吏
鑑定吏

第二條 税關長ハ奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ海關稅及諸收入ノ事ヲ掌理ス
税關長ハ其主務ニ就キ關稅局長ト協辦スルコトアルヘシ

第三條 税關副長ハ奏任トス横濱神戸ノ兩税關ニ限リ之ヲ置ク
税關副長ハ税關長ノ事務ヲ佐ク税關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第四條 屬ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ
第五條 監吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ密商脱税監視ノ事ニ從フ

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

監吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 鑑定吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物鑑定ノ事ニ從フ

鑑定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條 各税關ニ検査課鑑定課收稅課倉庫課監視課文書課製表課及會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條 検査課ハ輸出入貨物ノ検査ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第九條 鑑定課ハ輸出入貨物ノ性質價值其他鑑定ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十條 收稅課ハ輸出入貨物ノ税金及船舶倉庫等ノ諸收入金收納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十一條 倉庫課ハ倉庫上屋ヲ管守シ其開閉及ヒ貨物ノ出納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十二條 監視課ハ密商脫稅監視ノ事ヲ掌ル

第十三條 文書課ハ内外諸文書及職員ノ取扱免狀證書等捺印ノ事ヲ掌ル

第十四條 製表課ハ貨易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

第十五條 會計課ハ關稅諸收入及經費ノ豫算決算并經費ノ出納買上品官設品ノ取扱財産ノ管守其他諸雇員ノ身分ニ關スル事ヲ掌ル

同二十年十二月二十五日勅令第六十九號ヲ以テ税關官制中改正セラレ鑑定官ヲ追加ス左ノ如シ

第一條 中税關副長ノ次ニ「鑑定官」ノ三字ヲ加フ

第三條 左ノ一項ヲ追加ス

鑑定官ハ奏任二等以下トス税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物鑑定ノ事ヲ掌ル

同月二十七日勅令第七十號ニ依リ鑑定官鑑定吏官等俸級ヲ定メラル左ノ如シ

税關鑑定官鑑定吏ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依ル

同二十三年七月二十四日税關官制(敕令第百四十二號)ヲ改正ス如左

税關官制

第一條 税關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ海關稅務ヲ掌ル

第二條 税關ニ左ノ職員ヲ置ク(人員ハ爾後異動アルナリ以テ省ク以下皆然リ)

税關長 奏任

税關副長 奏任

鑑定官 奏任

鑑定官試補

屬 判任

鑑定吏 判任

監吏 判任

監吏補 判任六等

第三條 税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 税關副長ハ現任ノ税關長ノ次等以下トス

横濱神戸兩税關ニ限リ之ヲ置キ税關長ノ事務ヲ助ク税關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第五條 鑑定官ハ税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ヲ掌理ス

鑑定官ハ課長ヲ兼ヌルコトヲ得

第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ

第七條 鑑定吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ニ從フ

第八條 監吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅監視ノ事ニ從フ

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

第九條 監吏補ハ監吏ノ事務ヲ助ク
同月三十一日 稅關分課規程ヲ定ム左ノ如シ

稅關分課規程

第一條 各稅關ニ檢査課鑑定課調定課收入課倉庫課監視課製表課文書課會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條 檢査課ハ檢査スヘキ輸出入貨物ノ指定輸出入ニ關スル諸文書類ノ取扱及稅務ノ監査ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 鑑定課ハ輸出入貨物ノ性質價值ノ鑑定仕入書ノ審查及數量尺度ノ査定ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 調定課ハ關稅及稅關諸收入ノ豫算決算收納ノ調定ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 收入課ハ關稅及稅關諸收入ノ收納ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 倉庫課ハ倉庫ノ管守開閉及貨物ノ出納ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 監視課ハ船舶ノ取締海陸ノ巡察旅人旅具ノ檢査門戶上屋ノ管守及密商脫稅ノ監視ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 製表課ハ貿易ノ統計及諸表ノ編製ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 文書課ハ内外諸文書ノ取扱記録ノ保管翻譯及職員ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 會計課ハ經費ノ豫算決算及其出納諸拂戻金及雜收入ノ取扱物品ノ購買拂下保管出納所屬建物ノ營繕諸備人ノ取扱ニ關スル事務ヲ掌ル

同年八月十八日稅關監吏補進退黜陟ヲ稅關長ニ委任セラル

房官 第三〇〇號
稅關監吏補ノ進退黜陟ハ委任候條假辭令ヲ以テ施行ノ上届出ツヘシ
明治二十三年八月十八日 大藏大臣伯爵 松方正義

同年九月六日勅令第二百四號ヲ以テ稅關管轄區域ヲ定ム
本關所管ニ係ルモノ左ノ如シ

陸前 磐城 常陸 下總 上總 安房 武藏 相模 伊豆 駿河 遠江

十一個國及小笠原島ノ沿岸(沿岸ノ二字ハ後三十二年勅令第百六十八號ヲ以テ削除セラレ)
同二十四年七月二十四日稅關官制(勅令第百二十三號)中改正セララル左ノ如シ

稅關官制中左ノ通改ム
第二條 稅關ニ左ノ職員ヲ置ク

稅關長 奏任

稅關副長 奏任

鑑定官 奏任

鑑定官試補 奏任

屬 判任

鑑定吏 判任

監吏 判任

監吏補 判任

大阪稅關長ハ神戸稅關長若クハ副長之ヲ兼子新潟稅關長ハ新潟縣收稅長之ヲ兼ヌ

附則

第一編 職制并分課

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
同二十六年十月三十日大藏省官制改正サレ主税關稅ノ二局ヲ合シテ主稅局トシ内國及海關稅務ヲ主
管ス

同日稅關官制(勅令第百三十五號)ヲ改正ス左ノ如シ

稅關官制

第一條 稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入ニ關スル事項
- 二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項
- 三 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項
- 四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項
- 五 海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
- 六 稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項

第二條 左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

- 武藏國 橫濱
- 攝津國 神戸
- 攝津國 大阪
- 肥前國 長崎
- 渡島國 函館
- 越後國 新潟

第三條 前條稅關ノ外稅關ノ事務ヲ行フヘキ場所ニ稅關出張所ヲ配置ス其ノ配置ハ別ニ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

第四條 各稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

大阪稅關長ハ神戸稅關長新潟稅關長ハ新潟收稅長ヲシテ之ヲ兼子シム

第五條 各稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 鑑定官 奏任
- 屬 判任
- 鑑定吏 判任
- 監吏 判任
- 監吏補 判任
- 第六條 稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
- 第七條 鑑定官ハ稅關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ヲ掌理ス
- 第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第九條 鑑定吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス
- 第十條 監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅ノ監視ニ從事ス
- 第十一條 監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク

附則

第十二條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

同日稅關出張所及派出所名稱位置ヲ定ム橫濱稅關ニ屬スルモノ左ノ如シ但シ同年十一月十日ヨリ施行ス

築地橫濱稅關派出所

武藏國東京

第一編 職制并分課

同年十一月七日税關分課規程ヲ改定シ同月十日ヨリ施行ノ旨達セラルル同規程左ノ如シ

税關分課規程

- 第一條 税關ニ検査課鑑定課徵收課倉庫課庶務課監視部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 検査スヘキ輸出入貨物ノ指定ニ關スルコト
 - 二 船舶及輸出入貨物ニ係ル諸文書ノ調査ニ關スルコト
- 第三條 鑑定課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 輸出入貨物ノ性質及價值ノ鑑定ニ關スルコト
 - 二 輸入貨物仕入書ノ審査ニ關スルコト
 - 三 輸出入貨物ノ數量及尺度ノ査定ニ關スルコト
- 第四條 徵收課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 海關稅及稅關諸收入ノ豫算決算ニ關スルコト
 - 二 海關稅及稅關諸收入ノ測定ニ關スルコト
 - 三 海關稅及稅關諸收入ノ徵收ニ關スルコト
- 第五條 倉庫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 倉庫ノ管守開閉及貨物ノ出納ニ關スルコト
 - 二 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 第六條 内外諸文書ノ取扱記録ノ保管及翻譯ニ關スルコト
 - 一 職員ニ關スルコト
 - 二 貿易ニ係ル法令ノ違犯者處分ニ關スルコト

- 四 貿易ノ統計及諸表ノ編製ニ關スルコト
- 五 税關經費ノ豫算決算及其出納ニ關スルコト
- 六 諸拂戻金及雜收入ニ關スルコト
- 七 物品ノ購買拂下保管出納ニ關スルコト
- 八 所屬建物ノ營繕ニ關スルコト
- 九 諸傭人ノ取扱ニ關スルコト

第七條

監視部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 密商脫稅ノ監視ニ關スルコト
- 二 船舶ノ取締ニ關スルコト
- 三 船客及旅具ノ検査ニ關スルコト
- 四 税關ノ門戶及上屋ノ管守ニ關スルコト

同年十二月九日大藏省訓令第五十號ヲ以テ税關ニ主任收入官吏税關出張所ニ分任收入官吏各一名ヲ

置キ税關屬ヲシテ之レニ充テ關稅及稅關ニ係ル諸收入ヲ取扱ハシム

同二十七年五月二十八日税關出張所及派出所ノ名稱位置ヲ追加セラルル但本關ニ關係ナキヲ以テ畧ス

同二十九年六月九日税關分課規程中ヲ改正シ新ニ税關長官房ヲ置ク其分掌左ノ如シ

- 税關長官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 官印應印ヲ管守スルコト
 - 二 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
 - 三 内外諸文書ノ受授及記録ノ保管ニ關スルコト
 - 四 外國文書ノ翻譯ニ關スルコト

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

五 貿易ニ係ル法令ノ違犯者處分ニ關スルコト
 六 貿易ノ統計及諸表ノ調製ニ關スルコト
 同年十月二十日税關官制ヲ改正ス左ノ如シ
 第四條中「新潟縣收稅長」トアルヲ「新潟稅務管理局長」ト改ム但稅務管理局官制施行ノ日(則チ十一月一日)ヨ
 リ實施
 同年十月二十六日税關出張所及派出所ヲ追加ス
 但本關ニ關係ナキヲ以テ畧ス

同三十年四月二十一日大藏省官制改正主稅局ノ主管如故
 同年六月二十二日税關官制(勅令第二二號)ヲ改正シ必要ノ場所ニ税關支署及税關監視署ヲ設置ス其設置ハ
 別ニ定ムル所ニ依ル改正官制左ノ如シ

税關官制

- 第一條 税關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入及港内舢舨ノ取締ニ關スル事
 - 二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項
 - 三 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項
 - 四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項
 - 五 海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項
 - 六 税關管理ノ倉庫ニ關スル事項
 - 七 私設保稅倉庫監督ニ關スル事項

八 保稅倉庫藏置ノ貨物運搬取締ニ關スル事項
 第二條 左ノ六港ニ税關ヲ置ク

- 武藏國 橫濱
- 攝津國 神戸
- 攝津國 大阪
- 肥前國 長崎
- 渡島國 函館
- 越後國 新潟

第三條 前條税關ノ外必要ノ場所ニ税關支署又ハ税關監視署ヲ設置ス其設置ハ別ニ定ムル所ニ依

ル
 第四條 各税關ニ税關長一人ヲ置ク奏任トス

第五條 各税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 検査官 奏任
- 鑑定官 奏任
- 監視官 奏任
- 屬 判任
- 鑑定官補 判任
- 技手 判任
- 監吏 判任
- 監吏補 判任

第一編 職制并分課

- 第六條 税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
 - 第七條 検査官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入申告書其他諸文書ノ監査ニ關スル事務ヲ掌理ス
 - 第八條 鑑定官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス
 - 第九條 監視官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ監吏監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ關スル事務ヲ掌理ス
 - 第十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 - 第十一條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ検査鑑定ノ事務ニ從事ス
 - 第十二條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス
 - 第十三條 監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ從事ス
 - 第十四條 監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク
 - 第十五條 各税關支署ニ署長一人ヲ置キ税關屬ヲ以テ之ニ充ツ
 - 第十六條 各税關監視署ニ署長一人ヲ置キ税關監吏若クハ監吏補ヲ以テ之ニ充ツ
 - 第十七條 税關支署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ其署主管ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 - 第十八條 税關監視署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ水陸監視ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督ス
- 同日勅令第二百六號ヲ以テ税關出張所及派出所ノ稱號ヲ税關支署税關監視署ニ改ム
- 同日官制ノ改正ニ依リ税關ニ検査官及監視官并ニ鑑定官補ヲ置カル而シテ監視官特別任用ノ途ヲ開ク任用令左ノ如シ

勅令第二百五號

預備後備ノ海軍將校及滿五年以上税關ノ事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受ケ現職ニ在ル者ニ限り當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ税關監視官ニ任用スルコトヲ得

同年七月十六日税關支署及監視署ノ順次ヲ改正シ并ニ追加セラル横濱税關ニ屬スル分左ノ如シ

- 下ノ關神戸税關支署ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ
 - 清水横濱税關支署 駿河國清水
 - 築地横濱税關監視署ノ次ニ左ノ四項ヲ加フ
 - 本牧横濱税關監視署 武藏國本牧
 - 屏風浦横濱税關監視署 武藏國屏風浦
 - 館山横濱税關監視署 安房國館山
 - 父島横濱税關監視署 小笠原島父島
- 同三十一年十月二十二日大藏省官制改正ス主税局ノ主管如故
- 同日税關官制(勅令第二百七十一號)中ヲ改正ス左ノ如シ
- 第五條 各税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク
 - 事務官 專任 奏任
 - 鑑定官 專任 奏任
 - 事務官補 專任 判任
 - 鑑定官補 專任 判任
 - 技手 專任
 - 監吏 專任 判任
 - 監吏補 專任 判任

第七條 事務官ハ各税關ニ分屬シ税關長ノ事務ヲ助ク
税關長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第一編 職制并分課

第九條 削除
第十條 及第十五條中「屬」ヲ「事務官補」ニ改ム
附則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
右改正ニ依リ税關検査官同監視官ヲ廢シ事務官ヲ置カレ税關屬ヲ事務官補トス
同三十二年四月二十一日(勅令第百六十一號)税關官制ヲ改正シ又監視官ヲ再置ス如左

税關官制

第一條 税關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 關稅噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項
- 二 保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項
- 三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
- 四 關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項
- 五 酒類造石稅醬油稅下戻及製造煙草輸出交付金ニ關スル事項
- 六 關稅通路ノ取締ニ關スル事項

第二條 左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

- 武藏國 橫濱
- 攝津國 神戸
- 攝津國 大阪
- 肥前國 長崎
- 渡島國 函館

越後國 新潟

第三條 稅關長一人ヲ置ク奏任トス

滿三年以上高等官三等ニ在リテ功績顯著ナル者ハ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得

第四條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 事務官 專任 奏任
- 監視官 專任 奏任
- 鑑定官 專任 奏任
- 事務官補 專任 奏任
- 監視 專任 奏任
- 鑑定官補 專任 奏任
- 監吏 專任 奏任
- 技手 專任 奏任

第五條 稅關長ハ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條 事務官ハ稅關支署長タル者ノ外稅關ニ分屬シ稅關長ノ事務ヲ助ク

第七條 監視官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條 鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九條 事務官補ハ稅關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

第十二條 監吏ハ税關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十三條 税關ニ税關監視部ヲ置ク

税關監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ

税關監視部長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十四條 税關管轄區域内必要ナル場所ニ税關支署及税關監視署ヲ置クコトヲ得

税關監視署ノ位置ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十五條 税關支署ニ支署長一人ヲ置ク事務官若ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 税關監視署ニ署長一人ヲ置ク監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 税關支署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄内ノ税關事務ヲ掌理ス

第十八條 税關監視署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

同年四月二十五日税關分課規程ヲ改正ス左ノ如シ

税關分課規程

第一條 税關ニ監視部ノ外税關長官房監査課検査課鑑定課徵收課貨物課庶務課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條 税關長官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官印及應印ノ管守ニ關スルコト

二 官吏ノ進退身分ニ關スルコト

三 文書ノ接受發送及編纂保管ニ關スルコト

四 翻譯ニ關スルコト

五 外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スルコト

六 異議訴願及訴訟ニ關スルコト

七 統計及諸表ノ調製ニ關スルコト

八 機密ニ關スルコト

九 他ノ部課ニ屬セサルコト

第三條 監視部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 船舶貨物及關稅通路ノ取締ニ關スルコト

二 犯則事件ノ調査及處分ニ關スルコト

三 艙口申告書旅客氏名表及船内船用品ノ目錄ノ調査ニ關スルコト

四 船内船用品ノ検査ニ關スルコト

五 關中ノ取締ニ關スルコト

第四條 監査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 船舶貨物及船用品ニ關スル文書ノ調査ニ關スルコト

二 船舶及貨物ニ關スル免許特許及認許ニ關スルコト

三 検査スヘキ貨物ノ指定其他貨物検査ノ監督ニ關スルコト

四 關稅ノ擔保ニ關スルコト

第五條 検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

- 一 貨物及船用品ノ検査ニ關スルコト
- 第六條 鑑定課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 貨物ノ鑑定ニ關スルコト
 - 二 見本品ノ納付及保存ニ關スルコト
- 第七條 徵收課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 關稅噸稅及諸收入ノ豫算決算ニ關スルコト
 - 二 關稅噸稅及諸收入ノ徵收ニ關スルコト
- 第八條 貨物課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 倉庫及貨物ノ庫入庫出ニ關スルコト
 - 二 貨物ノ收容及收容貨物ノ處分ニ關スルコト
 - 三 貨物ノ整理ニ關スルコト
- 第九條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 經費ノ豫算決算及會計ニ關スルコト
 - 二 製造煙草輸出交付金及諸拂戻ニ關スルコト
 - 三 土地築造物船舶及物品ニ關スルコト
 - 四 營繕ニ關スルコト
- 第十條 稅關長ハ事務ノ都合ニヨリ必要ト認ムル時ハ庶務課ヲ置カス稅關長官房ヲシテ其事務ヲ掌ラシムルコトヲ得
 - 大阪函館及新潟稅關ニ於テハ事務ノ都合ニ依リ必要ト認ムルトキハ仍ホ監査課其他ノ課ヲ置カス他課ヲシテ其事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

- 第十一條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ部課ノ事務ニ關スル文書ノ接受及發送ヲ其部課ニ掌ラシムルコトヲ得
- 第十二條 前二條ノ場合ニ於テハ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 稅關長ハ稅關支署ノ分課規程ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
- 同日稅關監吏ヲ稅關監視ニ稅關監吏補ヲ稅關監吏ニ改ム但シ同日ヨリ施行ス
- 同日稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ヲ定ム本關支署ニ屬スル分左ノ如シ

名	稱	位	置	管轄區域
清	水	駿河國	清水	駿河國、遠江國

- 同四月二十四日稅關監視署ヲ更ニ設置ス本關所轄ニ係ルモノ左ノ如シ
 - 陸前國石卷 石卷稅關監視署
 - 下總國銚子 銚子同
 - 相模國浦賀 浦賀同
 - 同 上宮田 上宮田同
 - 伊豆國下田 下田同
- 同三十三年三月二十四日大藏省官制中改正主稅局ノ主管如故
- 同年四月四日大藏省訓令第十六號ヲ以テ稅關及稅務管理局收入官吏配置方ヲ定ム左ノ如シ
- 第一條 稅關支署長ハ稅關支署ノ收入官吏トス
- 稅關長ハ必要ニ應シ部下ノ官吏ニ收入官吏ヲ命スルコトヲ得

第一編 職制并分課

貨物ノ検査ニ從事シタル官吏關稅ヲ收入シタルトキハ其所屬收入官吏ノ分任官ト心得ヘシ
第二、三、條 (略ス)

第四條 稅關長又ハ稅務管理局長ハ第一條第二項又ハ第二條但書ニ依リ收入官吏ヲ命シタルトキ
若ハ收入官吏ニ異動ヲ生シタルトキハ左記書式ニ據リ報告スヘシ(書式)

同三十四年三月八日大藏省訓令第三號ヲ以テ前記收入官吏配置方ヲ又左ノ通り改正ス(但三十四年四月一日ヨリ施行)

- 一 稅關長ハ主任收入官吏トシ稅關支署長ハ所屬稅關主任收入官吏ノ分任收入官吏トス
- 一 稅關長ハ必要ニ應シ部下ノ官吏ニ分任收入官吏ヲ命スルコトヲ得
- 一 貨物ノ検査ニ從事シタル官吏關稅ヲ收入シタルトキハ其所屬稅關主任收入官吏ノ分任收入官吏ト心得ヘシ

以上ハ神奈川運上所開始以後明治三十四年ニ至ル本關ノ職制及分課ニ係ル沿革ノ概要ニ過キス其間本關長官ノ更迭スルモノ亦多シトス今左ニ其異動ヲ附記シテ參照ニ供ス

稅關長官ノ異動

安政六年開港ノ當時舊幕府ニ於テハ外國奉行ヲ以テ神奈川奉行ヲ兼職セシメ戶部役所ト共ニ同運上所ヲ統轄セシム後萬延元年ニ至リ神奈川奉行專務ヲ置ク松平石見守康直之レカ初任タリ明治元年ニ至ル迄其間奉行ノ更迭スルモノ多ク其最後ニアルモノヲ水野若狹守良之、依田伊勢守盛克トス大政維新ノ四月ニ至リ戶部橫濱兩役所ヲ各裁判所ト改稱シ其總稱ヲ神奈川裁判所ト云ヒシ時東久世中將通禧之レカ總督ニ肥前侍從鍋島直大副總督トシテ此地ニ駐劄シ(鍋島副總督ハ明治元年五月野州此地ヲ去ル)判事寺島陶藏宗則同井關齊右衛門盛良ヲシテ内外諸務ヲ處辨セシム之レヲ維新後當港ニ於ケル立應ノ初メトス

明治元年九月五日寺島井關兩判事神奈川縣知事ニ任セラレ其十一月ニ於テ東久世總督外國官副

知事ニ轉任ス

同二年四月十八日寺島知事亦外國官副知事ニ轉ス

同四年八月十二日陸奥陽之助宗光神奈川縣知事ニ任セラレ井關同知事本官ヲ免セララル

當時當港ニ於ケル海關事務ハ既ニ東西運上所ニ區分サレ日ニ月ニ増進セル外國貿易ニ隨伴シテ次第ニ其繁劇ヲ加ヘ來リタレトモ猶裁判所ノ一分課ニ過キサリシカ同年ノ八月ニ至ツテ各開港開市場ノ海關稅務ハ大藏省ノ管理ニ屬シ其十月ニ於テ運上所ヲ同省租稅寮ノ直管トシ地方廳ト分離シタルトキ大藏省ヨリ租稅權頭上野景範租稅權助本野盛亨ヲ當港ニ在勤セシメ上野租稅權頭ヲ運上所長官ニ本野租稅權助ヲ同次官トセリ

同五年二月十二日上野運上所長官大藏省三等出仕ニ轉補セララル

同年二月十九日大藏省四等出仕中山讓治運上所長官トシテ來任ス同年十月十二日更ニ總領事ニ轉ス

同日租稅權頭中島信行代ツテ稅關長ト爲リ(明治五年十一月運上所ノ稱呼ヲ稅關ト改ム)本野租稅權助外務一等書記官ニ轉ス

同七年一月十五日中島稅關長神奈川縣令ニ轉シ同十九日租稅權助星亨之レニ代ハル

同年七月十日租稅寮七等出仕柳谷謙太郎稅關副長ヲ命セララル

同月十四日星稅關長歸寮シ租稅助吉原重俊稅關長ヲ兼務ス

同年八月四日吉原稅關長全權辦理大臣大久保利通清國派遣(臺灣事件ニ關シ)ノ隨行ヲ命セララル依テ不在

中柳谷副長稅關長ヲ代理ス

同八年一月十二日吉原租稅權頭(七年十二月昇進ス)稅關長兼務ヲ罷メ同代理柳谷副長ニ當分稅關長心得ヲ以テ事務ヲ幹理セシム

同年七月二日税關長心得柳谷副長ヲ税關長トス
 同年八月三十日租稅寮七等出任坂井保祐ヲ税關副長トス後十年一月租稅寮ヲ廢セラレ隨ツテ本官ヲ罷メラル
 同九年十月五日外務一等書記官本野盛亨租稅助ニ任セラレ同九日税關長ヲ命セラル同七日ニ於テ柳谷前關長領事ニ轉ス
 同十一年十二月十日大藏權少書記官葦原清風税關副長ヲ命セラル
 同十五年六月十六日大藏權大書記官有島武ヲ税關長トス本野前關長檢事ニ轉ス
 同年十二月二十八日大藏權少書記官渡邊至ヲ税關副長トシ葦原前副長本省ニ歸ル
 同二十三年二月十二日有島税關長大藏省關稅局長兼稅關長ニ任セラル
 同二十四年七月二十四日大藏省參事官目賀田種太郎代ツテ税關長ニ任セラル
 同二十六年十月三十日税關官制改正ニ依リ爾來税關副長ヲ廢ス渡邊前副長長崎税關長ニ轉任ス
 同二十七年七月二十八日賀田税關長主稅局長ニ任ラセレ税關長ヲ兼任ス
 同年十二月二十八日總領事大越成德代ツテ税關長ニ任セラル
 同三十一年三月ニ至リ大越税關長遞信省監査局長ニ轉ス
 同年三月二日神戸税關長兼大阪税關長水上浩躬來任ス現任税關長之ナリ
 安政六年開港ノ當時神奈川奉行ニ於テ海關稅務ヲ掌理セシ以來本關ハ茲ニ年ヲ閱スルコト約四十二年又明治四年八月地方廳ト分離後當代ニ及フ迄税關長官ノ更迭スルモノ實ニ十一回現關長ノ時ニ於テ條約改正ノ實施アリ國定稅率ノ施行アリ其他關稅法ノ改正噸稅法假置場法等ノ制定之レ亦施行ノ時ニ當リ昔日ノ制度ヲ一變シ慣行ノ積弊ヲ廢除シ關稅茲ニ一大革新シテ往時ノ微微タル運上所モ今ヤ貿易ノ發達ニ伴ナヒ當港ニ於ケル一大ノ官衙トハナリタルナリ

第二章

本關支署ハ駿河國清水港ニ設置アルモノ單ニ一ヶ所ナリ明治三十年ノ創設ニ係リ日猶淺クシテ沿革ノ記スヘキモノ少ナシ唯其經過ノ大要ヲ述フレハ左ノ如シ

清水税關支署

駿河國清水港カ外國貿易ノ爲メ帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲スヘキ港ニ指定セラレタルハ明治三十年六月二十二日ニシテ同年七月二十日初メテ同港へ本關支署ヲ設置ス之ヲ清水橫濱税關支署ト稱ス同年八月一日ヨリ事務ヲ開始シ駿遠二國ニ於ケル海關稅務ヲ處理セシム

署長一名税關屬ヲ以テ之レニ充テ署員二名(稅關監査監吏一名)ヲ置キ事務ヲ分掌ス(後明治三十一年十月稅關關吏補ヲ監吏ニ改ム)

同三十一年七月十二日署長更迭署員ノ中ヲ以テ之レニ充ツ爾來署員一名ヲ減ス

同三十二年四月二十五日名稱ヲ清水税關支署ト改ム

同年七月十二日勅令第三百四十二號ニ依リ清水港ヲ開港ニ指定セラル(明治三十年ニ於ケル初メノ開港ハ外限リ出入セシメタレトモ茲ニ至ツテ其内外ヲ問ハス一般外國貿易ヲ行フ港トハナリタルナリ)因テ同八月四日ヨリ開港トシテ諸般事務實施現今ニ至ルモノナリ

初メ清水港ノ外國貿易港ニ指定セラル、ヤ靜岡縣ノ士民ハ一時熱心ニ同港外國貿易ノ發達ヲ企圖シ開港トシテ其實ノ擧ランコトニ留意シ縣下ノ特有物產タル製茶ヲシテ直接同港ヨリ輸出セントシ同縣茶業組合ノ如キハ該地ニ輸出茶ノ再製場ヲ設立スルノ計畫ヲ爲シ同地方廳ニ於テモ之ヲ贊助シテ遂ニ地方稅ヲ以テ若干ノ補助ヲ與ヘンコトヲ縣會ノ議ニ迄附シタルコトアリキ然ルニ當時未タ考慮ノ熟セサルモノアリシカ其儘ニ經過シテ依然同縣ノ輸出茶ハ概子橫濱港ニ送り賣込商ノ手ヲ經テ外商ニ賣渡スヲ以テ満足シ居ルモノノ如ク只二三ノ製茶場ヨリ少額ノ茶ヲ輸出スルモノアルモ之レ單

第一編 職制并分課

ニ同港ニ於テハ輸出ニ係ル税關ノ手數ヲ爲スニ止マリ何レモ横濱ニ回漕シテ同處ヨリ更ニ外航船ニ積移スニ過キス故ニ目下ニ至ル迄清水港ヨリ直輸出ヲ爲スモノ皆無ナリトス其輸入貨物トシテハ年清韓兩國ヨリ大豆肥料等ヲ搭載シ來タルコトアレトモ是亦僅少ノ數ニ屬シ開港以來貿易遲々トシテ進歩セス一年漸ク一兩回ノ輸出入ヲ見ルノミ其明治三十四年迄五箇年間ニ至ル本港ノ貿易額等ヲ舉クレハ實ニ左表ノ如クニシテ

年別	區分	輸 出	輸 入	收 税 額	雜 收 入
三十一年		—	—	—	—
三十二年		四一、八五〇〇	二〇、三七五九二	一、九五三四五七	六三五〇〇
三十三年		六〇、九四四四八	六、九七二八五	二、八三六五八	—
三十四年		六〇、六二二三	—	—	六〇〇〇
三十一年		—	—	—	—
三十二年		—	—	—	—
三十三年		—	—	—	—
三十四年		—	—	—	—

唯是レ開港地トシテ僅カニ維持シ來タル現狀ニ過キス特ニ支署ヲ設置シタル要ナキニ似タリ畢竟之レ開港後歲月ヲ經ルコト少ナク貿易ノ機關未タ茲ニ具備セサルニ依ルモノニシテ之レカ獎勵ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ又時期ノ熟スルヲ竣ツニ非レハ到底俄カニ本港ノ繁昌ヲ見ルコト蓋シ難カルヘキナリ
今支署ニ於ケル處務順序ヲ定メタル規程アリ左ニ掲ケテ説明ニ代フ(同規程ハ明治三十年八月之ヲ定メ同三十三年七月改正ス左ニ記載スルモノハ其後者ニ係レリ)

税關支署處務規程

第一 通則

- 第一條 税關支署長ハ税關法規及本關諸規程ニ依リ支署管轄内ノ税關事務ヲ掌理スヘシ但左ニ掲ケル事項ニ關シテハ特ニ税關長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 一 官吏雇員又ハ傭人ノ進退身分ニ關スル事
 - 二 外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スル事
 - 三 異議訴願及訴訟ニ關スル事
 - 四 買上用品及擔保品ノ賣却ニ關スル事
 - 五 犯則事件ノ處分ニ關スル事
 - 六 船車(船及荷)ノ出發差止又ハ進行停止ニ關スル事
 - 七 海軍ノ援助請求ニ關スル事
 - 八 支署員ノ出張ニ關スル事(但緊急ノ場合ハ臨機ノ措置ヲ爲シ事後承諾ヲ受クヘシ)
 - 九 諸拂戻及製造煙草輸交付金ニ關スル事
 - 十 土地、造營物、船車什器等ノ賣買貸借新繕及修繕ニ關スル事
- 第二條 支署長及ヒ其他ノ支署員ハ常ニ其管轄區域内ニ於ケル犯則事件ノ有無ニ注意シ之ヲ未發ニ防遏スルノ手段ヲ怠ル可カラス若シ犯則事件又ハ其嫌疑アルコトヲ認知シタルトキハ支署長ハ調査ノ上直ニ之ヲ税關長ニ具申スヘシ
- 第三條 支署長ハ其主管事務ト雖モ重大ナリト思料シタルモノ又ハ疑義ニ涉ルモノハ税關長ニ經伺ノ上決行スヘシ
- 第四條 支署長ハ支署員ノ事務分掌ヲ定ムヘシ

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

百二

第五條 支署長事故アルトキハ支署員ノ中上席者其事務ヲ代理スヘシ但照會應答ハ支署長ノ名ヲ以テスヘシ

第六條 大臣達ニ基キ税關ヨリ大藏省ニ提出スヘキ定期諸報告中支署ノ分ハ概子税關ニ於テ取纏メ報告スヘキモノナルニヨリ支署ヨリ發スル是等ノ諸報告ハ税關發送期日前ニ本關ニ提出スヘシ

第七條 支署長ハ常ニ左記ノ事項ニ注意シ毎月一回税關長ニ報告スヘシ

- 一 貿易ニ影響スヘキ農商工ノ盛衰及金融ノ景況
 - 二 貨物ノ輸出入ニ影響スヘキ港灣若クハ運輸機關ノ修築改良其他ノ異動
 - 三 重ナル輸出入貨物消長ノ原因
- 右ノ外諸官衙トノ交陟照會又ハ人民ノ出願ハ陳情評論等ニシテ重要ナルモノハ其事件發生ノ都度是カ報告ヲ爲スヘシ

第二 文書

第八條 文書ヲ收受シタル時ハ文書接受件名簿ニ之ヲ發遣スルトキハ文書發送件名簿ニ其件名ヲ登錄シ番號月日ヲ順次附記シ置クヘシ

第九條 收受ノ文書ハ支署長之ヲ査閲シ支署員ニ配付シテ速ニ處理セシムヘシ但時宜ニ依リ支署長自ラ之ヲ處理スルモノトス

第十條 支署員ニ於テ發議ヲナシ若クハ配付ノ文書ハ回議案ヲ起草シ支署長ノ決判ヲ受クヘシ

第十一條 處分ヲ要セサル文書ハ便宜編輯シ置クヘシ

第十二條 決判濟ニ係ル文書ハ淨書校合ノ上之ニ發遣番號ヲ付シ其件名ヲ文書發送件名簿ニ登錄ノ後發遣スヘシ

第十三條 完結ノ文書ハ編纂保存スヘシ

第十四條 接受及發遣ノ文書ノ員數ハ半年毎ニ(一月ヨリ六月七)製表シ翌月十日限リ申報スヘシ

第三 服務

第十五條 支署員出勤シタルトキハ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第十六條 支署長ハ毎日出勤簿ヲ調査シ缺勤ノ事故ヲ調査シ置クヘシ

第十七條 病氣又ハ其他ノ事故アリテ缺勤スル者ハ定時後三十分以内ニ支署長ニ届出ツヘシ

第十八條 支署長交替ノ際ハ引繼書及目錄ヲ作り未結了ノ事務ニ付テハ重ナル事項ヲ記載シ後任者ニ引繼ヲナスヘシ

第十九條 支署員ハ身上ニ關スル願届書ハ都テ支署長ノ認印ヲ受ケ提出スヘシ

第二十條 支署在勤吏員ノ勤惰表ハ一ヶ月毎ニ取纏メ翌月五日限リ申報スヘシ

第四 宿直

第二十一條 宿直ハ支署員一名ヲ以テ之ニ宛テ平日服務時間ハ退廳後休日ハ午前十時ヨリ各翌日出勤時刻迄トシ其間到達シタル文書ヲ接受シ之ヲ支署長ニ提出スヘシ

第二十二條 宿直員ハ署内ノ非常ヲ警戒スヘシ

第二十三條 近火若クハ非常ノ事アルトキハ速ニ點燈開扉シ一面ハ速ニ支署長ニ通報スヘシ

第二十四條 宿直ニ係ル他ノ要件ハ支署長ニ於テ便宜定ムヘシ

第三章 監視署

第一節 築地税關監視署

築地税關監視署ハ慶應三年十月二十一日ニ於ケル外國人江戸ニ居留スル取極ニ依リ東京築地鐵砲洲ニ設置セシモノヲ起源トス初メ之ヲ外國事務局ト稱ス蓋シ開港外ニ於ケル關稅警察機關トシテ設置

第一編 職制并分課

百三

シタルモノ、權輿ナリ

明治元年十二月東京運上所ト改稱東京府ノ管轄ニ屬シ專ラ同地方ニ關係スル外務ヲ取扱ヒ又京濱間ニ回漕スル輸入手數既濟貨物ノ陸揚并ニ輸出手數未濟貨物ノ積卸等ヲ監視スル所タリ後之ヲ築地開市場稅關ト云フ明治四年八月各港運上所カ地方廳ト分割シ租稅寮ノ主管ニ歸シタル時尙同開市場稅關ハ依然東京府ニ隸屬セリ同七年五月十五日同關ノ事務ヲ租稅寮ニ移シ爾來築地稅關ト通稱ス而シテ同開市場稅關ハ東京府支廳ト改稱ス

東京府屆 七年五月十五日

當府所轄築地稅關事務租稅寮ヘ引渡候様大藏省ヨリ此度指令有之候處同所ノ儀ハ同地方關係ノ外國事務調所ニテ開港場ニ無之候間東京ヨリ輸出ノ品ハ横濱ニテ稅銀取立候ニ付稅務ノ廉ハ無御座候得共外國人輸出入物品改方等ノ儀ハ稅關附荷物改所ニテ取扱居候ニ付右改所并同所波止場南品川ニ取設有之候出入船尋問所建物等一昨十三日租稅寮ヘ引渡申候就テハ稅關名義ハ相廢シ當府關係外國事務ハ從前ノ通り於同所取扱申候尤稅關名稱ノ儀ハ以後當府支廳ト改稱致シ候依テ此段及御届候也

同月三十日横濱稅關ヲシテ東京築地稅關并ニ品川尋問所ヲ兼管セシム

大藏省上申 七年五月三十日

築地開市場稅關事務是迄東京府ニ於テ取扱來候處本月十三日同所明石町改所并ニ南品川尋問所建物共租稅寮ヘ請取以來横濱稅關ヨリ兼轄事務爲取扱申候右ハ兼テ伺濟ノ事故此段御届申上置候也

同年七月五日東京築地稅關ヲ横濱稅關出張所ト改稱シ品川尋問所ヲ同監吏出張所ト改メ品川灣出入船舶ノ尋問監視ノ取締ヲ爲サシム當時同出張所監吏心得書ナルモノアリ左ノ如シ

品川出張所 在勤監吏心得書

第壹款

一 當所ヘ監吏ヲ在勤セシムルヤ凡稅關ノ法則ニ觸ル、モノヲ監視防遏セシメン爲設ケラレタルモノナレハ總テ横濱稅關監吏章程及心得書ヲ遵守スヘキハ勿論ナリ然レトモ今其地ヲ異ニシ其趣同シカラサルヲ以テ更ニ本書ノ意ヲ擴充シ左ニ數款ヲ掲ク各自照準シ之ニ違フ事勿レ

第貳款

一 在勤監吏ハ當分ノ内中監吏壹名少監吏二名ヲ置キ凡十有五日ヲ以テ交換セシム在勤中ハ特ニ交誼ヲ厚シ緩急相互ニ幫助シ苟モ不睦猜疑等ニ涉ルノ舉動アルヘカラス

第參款

一 在勤中監吏ハ首トシテ當所ノ事務ヲ擔任シ平素少監吏ノ勤惰ヲ觀察シ總長吏長大監吏等巡視ノ爲メ出張セシトキ之ヲ具狀スヘシ且當所定額ノ會計ヲ司リ出納違ヒ無之月末ニ到リ精算シテ横濱稅關監吏課ニ致スヘシ故ニ此等ノ權限内ニ生シタル過失ト事務ノ擧ラサルハ其責ニ任スヘシ

第四款

一 在勤少監吏ハ中監吏ニ從順スヘシト雖モ若シ不適當ノ事ヲ傳ル歟或ハ過失アリト認ル時ハ之ヲ陳說スルヲ得ヘシ且中監吏勤務ヲ怠リ出納ヲ私スル等ノ事アラハ總長吏長大監吏等巡視スルトキ之ヲ直報スルヲ得ヘシ

第五款

一 築地出張所亦官吏ヲ在勤セシメラル凡百ノ事故ヲ告知シ協議セヨ又在勤官吏ヨリ通告スル

第一編 職制并分課

事ハ領承シテ愆ルナカレ

第六款

一 在勤監吏ハ總員當直シ壹名宛不斷小艇ヲ以テ諸船舶ノ在位セル海上ヲ巡回スヘシ其時間ノ長短ハ時宜協議シテ伸縮スルモ妨ケナシト雖モ四時間ヨリモ伸ス可カラス二時間ヨリ縮ス可カラス然レトモ風波ノ爲ニ小艇ノ進退ヲ遲緩シ或ハ關係スル事故アル時等ハ限外ニ附ス但本文總員當直スヘシ云々ト雖モ事務ノ間隙ヲ以テ壹名宛休憩スルハ之ヲ聽ス

第七款

一 諸船舶入港スルトキハ横濱税關監吏課尋問掛ノ成規ニ從テ其船舶ヘ至リ船司ニ面接シ國名以下積載セル貨物等詳細尋問簿ヘ自記セシメ之ヲ出張所ニ備置セル簿冊ニ謄寫シ置クヘシ

第八款

一 海上巡回中怪ムヘシト認メタル事ハ遺漏無ク取調ヘ追テ事故畧記ニ書載シ置クヘシ

第九款

一 築地出張所在勤官吏巡視ノ爲メ當所ヘ出張セルトキハ尋問簿ノ披閱ヲ請ケ之ニ捺印ヲ取ルヘシ其他取扱シ事故ハ一切悉詳ニ申報スヘシ

第十款

一 税關ノ法則ニ觸ル、モノヲ看破發摘セルトキハ横濱税關監吏課ノ成規ト慣行ニ照合シ便宜ニ從テ處分シ其云々ヲ築地出張所ニ通告スヘシ然レトモ非常重大ノ事件或ハ臨時決斷シ能ハサル事等ハ經直ニ築地ヘ出張シ在勤官吏ニ協議スヘシ若シ尙ホ斷スル能ハサルモノ又ハ官吏ノ決議ニ服スル能ハサルモノハ速ニ之ヲ横濱税關監吏課ニ報致シ其處分ヲ請求スベシ

第十壹款

一 横濱其他各港税關ノ免許檢印無キ外國輸入ノ物品ヲ碇泊船ヨリ卸シ陸揚等ナサントスルヲ認ムル事アラハ之ヲ築地出張所ヘ致スヘク他ヘ運送スヘカラサルヲ教示シ該船主ニ其品名個數及ヒ築地ヘ致スヲ肯セシヲ證書セシメ以テ之ヲ同所在勤官吏ニ報告スヘシ

第十貳款

一 外國諸船舶ハ其定約濟否ノ國ニ論ナク總テ特別ノ免許ナシニ該港ヘ入港碇泊スル事嚴禁タルニヨリ若シ入港スルモノアラハ免許ノ有無ヲ糺シ其來意ヲ尋問シ其内國人ニ雇ハレテ航海スルノ特許ヲ有スルモノハ凡テ内國船舶ニ準シ取扱フヘシ其漂流困難セル等非常ノ事故アルニ非スシテ全ク制禁ヲ犯シテ入港スルモノハ移動スヘカラサルヲ示シ其云々ヲ築地出張所ヘ報知スヘシ

但シ漂流困難シテ入港セル船舶ハ事實詳細ニ尋問シテ亦其顛末ヲ築地出張所ヘ報知スヘシ

第十參款

一 内國船舶該港ニ進入シ入港檢印ヲ請ハ、其開帆シタル津港ノ檢印ヲ注視シ又出帆スルニ當リ出港檢印ヲ請ハ、其航行スル津港及積荷等取調テ後檢印ヲ捺シ與フヘシ若シ聊カニテモ相違ノ虞アル歟又ハ曖昧タルモノ或ハ其他不審ノ個條アルモノ等ハ斷然檢印ヲ與フヘカラス且其云々ヲ築地出張所ニ報知スヘシ

第十肆款

一 海上巡回及尋問ニ供スル小艇之ニ屬スル水夫若干ヲ置ク總テ横濱税關監吏課雇水夫ノ心得書ヲ遵守セシメ適宜之ヲ使役スヘシ

第一編 職制并分課

右心得書横濱税關長ノ許可ヲ經以テ示令スル處ナリ各自之ヲ遵守シ必ス違背スル事ナカレ
同八年八月二十四日横濱税關出張所ヲ租稅寮ノ直管トナシ租稅寮出張所ト改稱ス同時ニ品川監吏出
張所ヲ廢ス

同十年一月十一日租稅寮ヲ廢シ關稅局ヲ置カル依テ同月十三日築地租稅寮出張所ヲ關稅局出張所ト
改稱ス

同十七年五月二十日關稅局ヲ廢シ主稅局ヲ置カル依テ同年六月二日築地主稅局第一部出張所ト改稱
同十九年三月一日官制ノ改正ニ當リ主稅局ヲ分テ更ニ關稅局ヲ再置セラル依テ同月十二日築地關稅
局出張所ト改稱

同年五月十二日同出張所處務事例ヲ定ム後廿六年再ヒ横濱税關所轄ニ屬セシトキ之ヲ處務規程ト改
メ加除更正ス其改正規程左ノ如シ(後明治三十年監視署處務規程
ノ制定ト共ニ自然消滅トナル)

築地横濱税關出張所處務規定

第一條 築地横濱税關出張所ハ外國人江戸ニ居留スル取極第六條及ヒ第七條ニ據リ東京横濱
間ニ回漕スル外國人所屬ノ輸入手數既濟ノ貨物及ヒ輸出手數未濟ノ貨物ノ積卸ヲ監視検査
スヘシ

第二條 出張詰吏員ハ常ニ一名宛當直シ事務ヲ取扱フヘシ

第三條 出張所ニ於テ平常執務ノ時間ハ本關ノ執務時間ニ依ルヘシ

但シ開廳時間及ヒ休日ト雖モ日出ヨリ日没迄ハ貨主若クハ荷受人ノ出願ニ因リ執務スル
コトアルヘシ

第四條 出張詰吏員ニ於テ事務上決シ難キ事件アルトキハ關長ニ伺出ツヘシ

第五條 外國人所屬ノ貨物ヲ積卸スルハ出張所荷物揚場ニ限ルモノトス

第六條 外國人所屬ノ輸入貨物ヲ陸揚セントスルトキハ貨主若クハ荷受人ヨリ本關ニ於テ附
與シタル回漕免狀ヲ差出シタル後之ヲ許可シ且ツ其貨物ヲ検査スヘシ
第七條 本港ニ回漕スル外國人所屬ノ貨物ヲ船積セントスルトキハ貨主若クハ荷受人ヨリ願
書ヲ差出サシメ貨物ヲ検査シタル後之ヲ許可シ且ツ左ノ回漕免狀ヲ附與シ其旨ヲ本關ヘ通
知スヘシ

回漕免狀

貨主 某國人 氏 名
引受人 某國人 氏 名(貨主願人ナルト
キハ此項ヲ除ク)

一品名 數量

右横濱港ヘ回漕差許候也
年 月 日

築地横濱税關出張所

第八條 貨物ノ陸揚又ハ船積ヲ許シタルトキハ該貨物ニ「ツ」ノ字ノ檢印ヲ捺スヘシ

但陸揚ニ係ルモノハ黑色船積ニ係ルモノハ赤色ノ印肉ヲ用フルモノトス

第九條 本關ヨリ附與シタル回漕免狀ヲ添付セサル輸入貨物ヲ陸揚セントシタルトキハ之ヲ
取押ヘ置キ直ニ之ヲ關長ニ具申シ指揮ヲ受クヘシ

第十條 陸揚及船積ヲ許シタル貨物ノ品名及數量ハ一箇月毎ニ取纏メ關長ニ報告スヘシ

第十一條 消耗品及備品ヲ要スルトキハ之ヲ本關會計課ニ請求スヘシ

第十二條 出張所ノ營繕ニ關スル事項ハ關長ニ上申スヘシ

第十三條 出張所詰吏員勤務表ハ一箇月毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ之ヲ關長ニ提出スヘシ

同二十六年一月一日築地關稅局出張所ヲ再ヒ橫濱稅關ノ所屬ト爲シ築地橫濱稅關出張所ト稱ス
 同十月三十日官制改正主稅關稅ノ二局ヲ合併シ主稅局ヲ置ク同時ニ稅關出張所及派出所ヲ設置シ築
 地橫濱稅關出張所ヲ築地橫濱稅關派出所ト改ム
 同三十年六月十七日築地橫濱稅關監視署ト改メ監吏補一名ヲ置キ署長トシテ事務ヲ執行セシム
 同三十二年四月二十四日築地稅關監視署ト改稱現今ニ至ル

第二節 父島稅關監視署

小笠原島ニ於テハ從來外國船ノ寄航スルモノアルモ其數僅少ニシテ何レモ薪水食料補缺ニ外ナラサ
 ルヲ以テ之カ取締トシテ別ニ監吏派出所設置ノ要無カリシナリ然ルニ明治二十五年前後ノ交ニ至ッ
 テハ屢々外國船同港ニ寄航ノ聞エアリ隨テ密商稅ノ虞ナシトセサリシモ當時同港ニ於ケル定期航
 海ノ便ハ一ヶ年僅カニ三四回ニ過キスシテ臨時官吏ヲ派遣スルノ途ナカリキ依テ同年七月本關ハ同
 島管轄廳ナル東京府ト協議ヲ了シ主務大臣ノ認許ヲ得テ遂ニ同島廳吏員一名ニ監吏ヲ兼任シ以テ其
 取締ニ從事セシム其監視署ヲ同島ニ設置以後ニ於テモ依然同廳吏員ヲシテ監視事務ヲ執ラシメリ當
 時同監吏ニ對シ本關ヨリ其服務ニ關スル命令及心得書ヲ交付シタルモノアリ左ノ如シ

命令書

第一條 小笠原島在勤監吏ハ時宜ニ依リ稅關法及稅關規則ニ揭クル犯則處分ヲ稅關長ノ名ヲ以
 テ執行スル事

第二條 稅關法第十三條及第十六條ヲ執行スル場合ハ豫備ノ書式ヲ用フル事

第三條 前條ノ執行落著セハ便船ヲ以テ稅關長ヘ報告スヘシ物件アラハ併セテ之ヲ送致スヘキ
 事

第四條 稅關法第十七條第三項ニ依リ犯則者不服申立ノトキハ特ニ事實ヲ具シ物件アラハ之ヲ

併セテ便宜ニ稅關長ヘ送致スヘキ事

第五條 本島ニ入港スル船舶ハ規定ノ如ク尋問シテ諸般ノ事項ヲ記錄シ置キ便宜稅關長ヘ報告
 スヘキ事

第六條 前各條ノ外本島ニ出入スル船舶若クハ物品船客等ニ關シ異常ノ件ヲ見聞セシトキハ詳
 ニ之ヲ記錄シ便宜稅關長ヘ報告スヘキ事
 心得書

- 一 島民ニ接スルニハ監吏ノ資格ニ於テモ懇切鄭重ニシテ恩威兩行ヲ主タル目的トナスヘシ其
 歸化人ノ如キハ一層此意味ヲ以テ遇スヘシ
- 一 今回監吏ヲ置クハ別紙乙號書類(略ス)ノ如ク廿五年二月一日大藏大臣ノ沿海知事ノ内訓ニ
 モ依レリ宜シク別紙ニ存スル如キ意向ヲ體シテ事ニ臨ミ是カ適當ノ處置ヲナスヘシ
- 一 本項ノ如キ場合ニハ固ヨリ島司ノ指示援助ヲ受クルコトヲ主トスヘシ
- 一 密漁獵ハ稅關ノ職務ヨリハ關係セスト雖モ領海ニ密漁獵シ其獲物ヲ日本版圖ニ陸揚シ又ハ
 持去ルトキハ是密商ナリ密輸出入ナリ此點ヨリハ稅關ノ管理ニ屬ス即左ノ如シ

貿易章程第二則第五項

若シ澳地利味嗜利船日本ノ開カサル港ニ於テ諸品ヲ密商シ或ハ密商セント謀ル時ハ其諸品
 ヲ日本政府ニ取上ケ犯セシ毎ニ其船ヨリ墨哥銀壹千枚ノ罰金ヲ拂フヘシ

各國貿易章程ニ載スル所概子同文意

條約書第七條第一項
 此條約或ハ之ニ附屬スル貿易規律又ハ稅則ヲ犯セルニ付取立ツヘキ罰金或ハ其物ヲ取揚ル
 事ハ澳地利味嗜利コンシユラル官吏ノ裁斷ニ因ルヘシ其取立タル罰金或ハ取揚品ハ都テ

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

日本政府ニ屬スヘシ
英葡佛ノ條約書ニハ其國コンシユルノ裁斷ニ因ルヘシトノ文意ナシ他ノ各國ハ本文ノ
同文意

右ノ個條ニ依リ稅關法第二條ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノナリ

明治三十年七月十六日初メテ同父島ニ監視署ヲ設置シ之ヲ父島橫濱稅關監視署ト名稱ス同島廳吏員
一名ヲ以テ監吏(三十二年四月官制ノ改)ヲ兼任同事務ヲ扱ハシム

同三十二年四月二十四日父島稅關監視署ト改稱現今ニ至ル

第三節 本牧外八稅關監視署

明治三十年七月以降本關所轄ノ沿岸即チ武藏ノ本牧、屏風浦、安房ノ館山、陸前ノ石卷、下總銚
子、相模ノ浦賀、上宮田、三崎、伊豆ノ下田、ニ於ケル九ヶ所ニ各稅關監視署ヲ設置ス(各地名ヲ冠シテ署名トス)
而シテ以上ハ何レモ開設日淺ク沿革ノ叙スヘキモノ無シ只其興廢年月等ヲ舉クレハ左ノ如シ
本牧、屏風浦、館山、三監視署ハ共ニ明治三十年七月十六日新設セラレ同八月一日ヨリ開應ス監吏各
一名ヲ配置シ署長トシテ駐在セシム内本牧監視署ハ同三十二年四月二十四日削除セラレ

石卷、銚子、浦賀、下田、上宮田ノ五監視署ハ同三十二年四月二十四日ノ新設ニシテ同八月四日開應ス
而シテ浦賀、上宮田ニ在ツテハ監吏各一名ヲ署長トシ駐在セシメ石卷、銚子、下田ニ於テハ稅務署内
ヲ監視署ニ充テ稅務屬ヲシテ署長トシ監視ヲ兼勤其事務ヲ執ラシム

同三十三年十二月八日上宮田監視署廢セラレ同日閉應ス

三崎監視署ハ上宮田監視署ノ廢應ニ代リ同日該地警察署内ニ設置セラレ同署在勤警部(三崎警署)ヲ以テ

監視ヲ兼任監視署長トシテ事務ヲ執ラシメ何レモ現今ニ至レリ
監視署ノ新設(明治三十年八月)ニ依リ其處務規程ヲ定メタルモノアリ左ノ如シ(本規程ハ明治三十年八月十七日新メ
三之ヲ定ム後同三十二年十月十九日

及同三十三年八月二十五日改正ス茲ニ
掲クルモノハ其改正ニ係ルモノナリ

監視署處務規程

第一條 監視署ニ於ケル平常執務ノ時間ハ本關ノ執務時間ニ依ルヘシ

但シ監視署員ハ執務時間外ニ於テモ監視事務及署内ノ取締ニ付其責ニ任スルハ勿論トス

第二條 監視署ニ於テ處務上決シ難キ事件アレハ關長又ハ部長ニ伺出ツヘシ

第三條 監視署ノ營繕備品及消耗品ニ關スル要求又ハ報告ハ之ヲ本關庶務課ニ致スヘシ

第四條 監視署ニ出勤簿ヲ備ヘ且ツ署員勤務表ハ一ヶ月毎ニ取纏メ翌月五日マテニ監視部ニ提
出スヘシ

第五條 監視署員ハ常ニ監視署注意區域内ニ於ケル監視事務上諸般ノ事物ニ注意シ若シ關稅法
規ニ抵觸スヘキ事實ヲ見聞シタルトキハ相當ノ取締ヲ施スト共ニ遲滯ナク部長ヲ經テ稅關長
ニ報告スヘシ

第六條 監視署員ハ平素監視事務ニ關シ監視署注意區域内ニ於ケル警察官吏市町村役場稅務署
ト交渉又ハ通信ヲ爲シ務メテ時變ニ應スルノ連絡ヲ企圖ス可シ

第七條 平常巡回監視ヲ爲スハ監視署所在地ヨリ往復六里以内ノ範圍ニ於テ毎月三回トシ該巡
回日誌ハ第四條ノ文書ト同時部長ヲ經テ關長ニ提出スヘシ

但兼任監視署長ノ巡回ハ隨時トシ其結果ハ前記同様之カ報告ヲナスヘシ

監視事務上前記ノ範圍外ニ出張スルノ必要アルトキハ豫メ事由ヲ具シ部長ヲ經テ關長ノ許可
ヲ請フヘシ但緊急ノ必要ニ依リ許可ヲ受クルノ違ナキトキハ事後ニ於テ上申承認ヲ受クヘシ

第八條 監視署附近ノ港灣へ出入スル船舶并ニ貨物ノ種類狀況ハ之ヲ取調ヘ一ヶ月毎ニ報告書
ヲ調製シ翌月五日マテニ部長ヲ經テ關長ニ提出スヘシ

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

第九條 監視署注意區域内ニ避難等ノ爲外國船又ハ外國通航船ノ出入ヲ認知シタルトキハ尋問又ハ調査ヲ遂ケ若シ貨物ノ積卸ヲ爲スカ如キコトアレハ事ノ輕重ニ從ヒ關長又ハ部長ノ指揮ヲ受ケ適宜處分ス可シ

第十條 第五條ノ監視署區域内ニ特許ヲ得タル外國船若クハ外國通航船ノ入港スル場合ニ於テハ其取締ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ但特ニ監視官吏ヲ派出シタル場合ハ此限ニアラス

第十一條 犯則事實アルコトヲ認知シタルトキハ證據ノ湮滅セサル様臨機ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 犯則事實ノ證スヘキ物件ノ差押又ハ其他犯則事件ノ調査ニ關スル手續ヲ爲シタルトキハ速ニ報告書ヲ作製シ部長ヲ經テ關長ニ提出スヘシ

第十三條 監視署ニ日記簿ヲ備ヘ監視事務ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ置ク可シ

又同月監視署注意區域ヲ定メシモノ左ノ如シ(後三十三年八月改正ス今茲ニ)
(同月同時ニ設置)

橫濱稅關監視署注意區域

監視署名

注意 區域

- 石卷 稅關監視署 陸前國東北境ヨリ盤城國鹽屋崎ニ至ル沿岸
- 銚子 稅關監視署 盤城國鹽屋崎ヨリ上總國大東崎ニ至ル沿岸
- 館山 稅關監視署 上總國大東崎ヨリ上總國富津ニ至ル沿岸
- 築地 稅關監視署 上總國富津ヨリ武藏國六郷川ニ至ル沿岸
- 屏風浦 稅關監視署 武藏國本牧ヨリ同夏島ニ至ル沿岸
- 浦賀 稅關監視署 武藏國夏島ヨリ相模國三浦郡千駄崎ニ至ル沿岸
- 上宮田 稅關監視署(三十二年十二月創設廢署) 相模國三浦郡千駄崎ヨリ相模國西南境ニ至ル沿岸
- 三崎 稅關監視署(三十二年十二月同時ニ設置) (注意區域ハ前同斷)

- 下田 稅關監視署
- 父島 稅關監視署

- 伊豆全沿岸并ニ伊豆七島
- 小笠原群島一圓

第四章 分課事務

現今本關事務ヲ分チテ官房外一部、六課トス則チ稅關長官房、監視部及監査、檢査、鑑定、貨物、徵收、庶務ノ諸課是ナリ各分掌事務ノ改廢分合ニ係ル沿革ヲ畧述シ以テ其梗概ヲ示サントス

第一節 稅關長官房

安政六年橫濱開港以來維新ニ至ル間神奈川奉行ノ運上所ヲ統轄シタル時ニ在リテハ御書翰掛ナルモノアリテ各國領事往復ノ文書及應接筆記等ニ關スル事務ヲ取扱ヒタルヲ以テ之ヲ官房文書事務ノ濫觴トモ見ルヘキカ然レトモ當時尙ホ引合掛、帳面掛、月番掛、翻譯方及通詞等ノ執リタル事務ニシテ現文書係ニ屬スヘキモノアリ必スシモ御書翰掛ヲ以テ官房文書事務全部ノ起原ト見做スヘカラス而シテ現今官房ニ於テ取扱フ統計事務ノ如キハ當時別ニ帳面掛ナルモノアリテ關稅等調定ノ外ニ輸出入統計ニ關スル事務ヲ執リタルモノナリ

維新後運上所ノ事務ヲ神奈川縣ニ於テ管掌シタルニ當リ明治二年十一月事務ノ分掌ヲ定メタル所ヲ見ルニ書翰掛ナルモノアリテ舊幕同様ノ事務ヲ執レリ

明治四年八月海關稅務ヲ大藏省ノ管轄ニ移サレタル際本關ノ職制ヲ定メラレタル同職制ニ依レハ文書ノ事務ハ翻譯、庶務ノ兩課ニ統計ノ事務ハ專ラ庶務課ニ屬セシメタリ

明治五年十月職制改定ノ際始メテ本關ニ文書課ヲ設置シ内外往復ノ申牒關中例規ノ編纂及簿記書籍新聞紙等出入ノ事務ヲ總管シ外ニ外國文書ノ翻譯ニ從事セシメタリ

同七年一月稅關ノ職制章程ヲ更革セラレタルモ文書課ノ管掌舊ニ異ラス

同十五年三月稅關職制并ニ事務章程ノ改正ニ依リ從來ノ文書課并ニ庶務課ヲ廢シ之ヲ併合シテ諸務

課ニ屬セシム

同十七年七月事務章程并ニ分掌規定ヲ改正シ諸務課ヲ分割シテ更ニ文書科、製表科及ヒ會計科ヲ設ケラル統計事務カ特立ノ一科ニ專屬シタルハ之ヲ以テ嚆矢トナス又從來庶務課ニ屬シタル免狀證書捺印ノ事務ハ此時ヨリ文書科ノ管掌スル所トナレリ

以上ハ官房事務變遷ノ大要ニ過キサレモ要スルニ成文ヲ以テ處務ノ細則ヲ定メタルハ明治十九年四月ニ始マリ其以前ニ在テハ概子慣行(本關事務ニ關スル慣行方法ナ)ニ準據シタルカ故ニ逝テ是カ沿革ヲ詳知セント欲スルモ據ルヘキノ記録ナク僅カニ其要綱ヲ舉クルニ止メタルハ最モ遺憾トナス他ノ部課ニ於ケルモ亦然リ

同十九年三月稅關官制ノ發布アリ同四月創メテ成文ヲ以テ各課處務條款ナルモノヲ編製セリ其際本關ヨリ主務大臣ニ申報シタル所左ノ如シ

本關各課日常處務ノ細則ハ是迄成文ノ條款無之最單ニ輸出入手續ヲ示シタル慣行方法書ナルモノ有之候得共各課職掌ノ區域ヲ定メタルモノニハ無之前來ノ取扱ハ繁冗複雜ニ涉ル儀モ有之候ニ付過般來是等ヲ改良シ此條款調査中恰モ今度官制御改正ニ際會シ尙ホ各課擔任ノ區域ヲ明查シ別冊ノ通執行致候間此段申報候也

今其處務條款ヲ見ルニ官房事務ハ文書課及ヒ製表課ニ於テ分掌セリ左ニ二課ノ分掌ヲ摘記セン

文書課

文書課ノ事務ヲ分テ本課及翻譯、往復、檢印ノ三掛トス

本課

- 一 官吏ノ職務及懲戒ハ諸務執行ニ關スル事項ヲ取扱フ事
- 一 申牒往復命令等ノ文案ヲ起草スル事

各課ノ回議書ヲ調査スル事

官報中稅關ニ關スル事項ヲ見出シ之ヲ往復掛ヘ回付スル事

各課擔任外ノ諸務ヲ調理スル事

海外航內國船ノ船籍證書ヲ預ル事

郵便料及電信料ノ受拂ヲ爲ス事

內國新聞紙ヘ報告事件ヲ取扱フ事

關印及關長及副長ノ官印ヲ管守スル事

當直宿直ヲ割當ル事

吏員ノ勤惰表ヲ調製スル事

年報書ヲ編成スル事

諸法令及其他ノ書類ヲ編輯保管スル事

諸文書書籍ヲ保管スル事

吏員ノ分課錄印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スル事

內國人引會要件ヲ登錄スル事

翻譯掛

各國條約書ヲ保管シ及調査スル事

外國人ノ書翰ヲ接受翻譯シ及其答案ヲ起草スル事

船難報告船難證書ノ證明手續ヲ取扱フ事

外國人ノ應接ニ通辯スル事

外國人引會始末ヲ登錄スル事

第一編 職制并分課

- 一 外國ノ事例ヲ調査シ及外國文ヲ翻譯スル事
- 一 稅關ト外國人トノ往復書類ヲ編輯保管スル事
- 一 外國新聞ヘ報告事件ヲ取扱フ事
- 一 外國書籍ヲ保管スル事
- 一 往復掛
- 一 文書ヲ接受發遣シ及之ヲ件名簿ニ登錄スル事
- 一 諸法令及其他ノ文書回達ノ取扱ヲ爲ス事
- 一 吏員出勤簿ノ出入及整理ヲ爲ス事
- 一 檢印掛
- 一 輸出入稅假納稅返稅及庫租其他諸收入金ヲ檢算スル事
- 一 諸免狀諸證書ニ官印ヲ押捺スル事
- 一 輸出入物品稅及諸收入金ヲ日計シテ簿記掛ヘ送付スル事
- 一 製表課
- 一 輸出入物品輸出入貨幣及出入船舶ニ關スル諸件ヲ簿記統計スル事
- 一 輸出入最要品報告表ヲ調製シテ毎週之ヲ關長ニ呈出スル事
- 一 輸出入品價額及輸出入貨幣ノ要計表ヲ調製シテ毎週之ヲ關長ニ呈出スル事
- 一 輸出入統計表ヲ調製シテ毎月之ヲ關長ニ呈出スル事
- 一 每旬關稅局ヘ送付ノ輸出入品元價要計表及輸出入貨幣表ヲ調製スル事
- 一 每月關稅局ヘ送付ノ輸出入物品甲表及同乙表輸出入元價國別要計表輸出入貨幣表出入船舶表
- 一 輸入藥種表朝鮮貿易要計博覽會出品及積返品月表輸入品小數價格表外國貿易月報ヲ調製スル

事

- 一 每半年關稅局ヘ送付ノ外國往來船賃價格表函館及新潟港回漕船移調查表ヲ調製スル事
- 一 每年關稅局ヘ送付ノ外國貿易年報ヲ編製スル事
- 一 貨物輸出入願書并ニ船舶出入屆書ヲ保管スル事
- 一 製表材料ヲ蒐輯保存スル事
- 一 輸出入品元價ヲ換算スル事
- 一 輸出入願書面及庫租收入ノ諸項ヲ審査シ若シ過誤アルヲ發見セハ之ヲ檢査課ニ報告シテ修正ヲ求ムル事
- 一 別項ニ掲ケサル統計ニ關スル諸件ヲ調査スル事
- 一 同二十二年九月各課事務手續改正ノ際文書課管掌事務中ニモ左ノ通改正セラレ
- 一 文書課檢印掛ニ於テ稅金及諸收入金ヲ檢査ノ上日計シテ簿記掛ニ送付スルノ手續ヲ廢シ諸免狀諸證書ニ捺印スル時輸入願書ノ番號月日ヲ帳簿ヘ登記ス
- 一 同二十五年七月大藏省各局處務細則ノ體裁ニ倣ヒ本關處務細則ヲ改定シ同時ニ從前文書課中ノ檢印掛ニ係ル事務ヲ檢査并ニ製表課ニ移シ從前ノ本課ヲ第一係、翻譯掛ヲ第二係、往復掛ヲ第三係ト改ム
- 一 同二十六年十一月稅關分課規程改正ノ結果文書并ニ製表ノ事務ヲ庶務課ニ併合ス其際亦本關處務細則ヲ改正シ左項ヲ同課ノ主掌トス

庶務課

- 一 本課ニ文書係統計係出納係用度係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 一 文書係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 一 職員ノ職務及身分ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ

- 一 申牒往復命令等ノ諸文案ヲ起草スヘシ
- 一 各課及監視部成案ノ回議ヲ調査シ意見アルモノハ其主務ノ課部ニ協議シ之ヲ取扱フヘシ
- 一 訴願及訴訟ニ關スル事項ヲ調理スヘシ
- 一 稅關法稅關規則違反者ニ對スル申渡ノ手續ヲ爲シ及犯則事件告發ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 官報ヲ閱覽シ及官報掲載ニ關スル事項ヲ取扱ヘシ
- 一 各課及監視部擔任外ノ諸務ヲ調理スヘシ
- 一 稅關及稅關長ノ官印ヲ管守スヘシ
- 一 諸法令ヲ調査シ及年報書ヲ編製スヘシ
- 一 職員ノ勤怠ヲ調査シ勤怠表ヲ調製スヘシ
- 一 職員ノ分課錄印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スヘシ
- 一 外國人ノ諸文書ヲ接受翻譯シ其答案ヲ起草シ及ヒ之ヲ發遣スヘシ
- 一 外國人ノ應接ニ通辯シ及外國人引會始末ヲ登錄スヘシ
- 一 船難報告船難證書ノ證明手續ヲ爲スヘシ
- 一 外國人ノ往復書類ヲ編纂整理スヘシ
- 一 内外國新聞紙へ公告ノ事項ヲ取扱フヘシ
- 一 諸文書ヲ接受發遣シ及之ヲ件名簿ニ登錄スヘシ
- 一 諸文書ヲ淨寫シ及文書回達諸表送達ヲ取扱フヘシ
- 一 郵便料及電信料ノ受拂ヲ爲スヘシ
- 一 職員出勤簿ノ整理ヲ爲スヘシ
- 一 諸法令及諸文書ヲ編纂整理スヘシ

統計係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

- 一 諸申告書ニ依リ一出入物品ノ數量原價稅額等ノ統計ヲ爲スヘシ
 - 一 輸出入品簿輸出入貨幣并地金簿出入船舶簿及其他事務上必要ナル帳簿ヲ整理シ諸表編製ノ資料ニ備フヘシ
 - 一 每半月主稅局へ送付スル輸出入品價額表輸出入貨幣并地金表ヲ調製スヘシ
 - 一 官房第三課へ毎月送付スル輸出入物品表輸出入金銀表出入船舶表國別要計表特別輸出入品表「マツチ」種別表及每半年送付スル船貨價額表函館及新潟回漕船移表ヲ調製スヘシ
 - 一 主稅局へ毎月送付スル輸入藥種表及毎年送付スル外國貿易年報ヲ調製スヘシ
 - 一 輸出入申告書及其他收入ニ關スル事務ハ總テ製表前ニ之ヲ審査シ若シ錯誤アルヲ發見シタルトキハ之ヲ檢査課ニ送付シテ訂正ヲ求ムヘシ
 - 一 輸出入原價ヲ總テ本邦銀貨ニ換算スヘシ
 - 一 輸出入申告書及船舶出入港届書ヲ保管スヘシ
 - 一 製表材料ヲ蒐集保存シ及統計ニ關スル諸件ヲ整理スヘシ
 - 一 諸申告書ニ依リ輸出入物品ノ數量原價稅額等ニ關シ臨時要スル事項ハ之ヲ調査スヘシ
 - 一 外國貿易ニ關スル諸般ノ事實ヲ調査スヘシ
- 同二十九年七月稅關分課規程中改正セラレ新ニ稅關長官房ヲ設置セラル夫カ爲メ從來庶務課ニ屬シタル文書并ニ統計ノ事務ハ官房ニ移ルコトナレリ今同月改正本關處務細則中官房ニ屬スルモノヲ抜摘スレハ左ノ如シ

稅關長官房

官房ニ文書係統計係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第一編 職制并分課

百二十二

- 一 文書係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 一 職員ノ職務及身分ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ
- 一 申牒往復命令等ノ諸文案ヲ起草スヘシ
- 一 各課及監視部成案ノ回議ヲ調査シ意見アルモノハ其主務ノ課部ニ協議シ之ヲ取扱フヘシ
- 一 訴願及訴訟ニ關スル事項ヲ調理スヘシ
- 一 稅關法稅關規則違犯者ニ對スル申渡ヲ爲シ及犯則事件告發ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 官報ヲ閱覽シ及官報掲載ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ
- 一 各課及監視部擔任外ノ諸務ヲ調理スヘシ
- 一 稅關及稅關長ノ官印ヲ管守スヘシ
- 一 諸法令ヲ調査シ及年報書ヲ編纂スヘシ
- 一 職員ノ勤惰ヲ調査シ勤惰表ヲ調製スヘシ
- 一 職員ノ分課録印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スヘシ
- 一 外國人ノ諸文書ヲ接手翻譯シ其答案ヲ起草シ及之ヲ發遣スヘシ
- 一 外國人ノ應接ニ通辯シ及外國人引會始末ヲ登錄スヘシ
- 一 船難報告船難證書ノ證明手續ヲ爲スヘシ
- 一 外國人ノ往復書類ヲ編纂整理スヘシ
- 一 内外國新聞紙ヘ公告ノ事項ヲ取扱フヘシ
- 一 諸文書ヲ接手發遣シ及之ヲ件名簿ニ登錄スヘシ
- 一 諸文書ヲ淨寫シ及文書回達諸表送達ヲ取扱フヘシ
- 一 郵便料及電信料ノ受拂ヲ爲スヘシ

一 職員出勤簿ノ整理ヲ爲スヘシ

一 諸法令及諸文書ヲ編纂整理スヘシ

統計係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

- 一 諸申告書ニ依リ輸出入物品ノ數量元價稅額等ノ統計ヲ爲スヘシ
- 一 輸出入品簿輸出入貨幣并地金簿出入船舶簿輸出入物品元價日計簿輸出入稅及諸收入日計簿
- 一 其他事務上必要ナル帳簿ヲ整理シ諸表編纂ノ資料ニ備フヘシ
- 一 輸出入品課稅原簿ヲ設備シ輸出入申告書ニ記載ノ各事項ヲ記入スヘシ
- 一 每半月主稅局ヘ送付スル輸出入品價額表輸出入貨幣并地金表ヲ調製スヘシ
- 一 大臣官房第三課ヘ毎月送付スル輸出入物品表輸出入貨幣并地金表輸出入品價額國別要計表
- 一 内外出入船舶表無檢査無稅品輸出入表外國博覽會陳列品輸出及積戻品表臺灣諸港仕向并ニ
- 一 仕出物品表外國軍艦及商船需用品表及每半年送付スル外國往來船賃價額表函館及新瀉港回
- 一 漕船移表ヲ調製スヘシ
- 一 主稅局ヘ毎月送付スル輸入藥種表及每年送付スル外國貿易年報ヲ調製スヘシ
- 一 輸出入申告書及其他收入ニ關スル事項ハ總テ製表前ニ之ヲ審査シ若シ錯誤アルヲ發見シタルトキハ之ヲ檢査課ニ送付シテ訂正ヲ求ムヘシ
- 一 輸出入品元價ヲ總テ本邦銀貨ニ換算スヘシ
- 一 輸出入申告書及船舶出入港届書ヲ保管スヘシ
- 一 製表材料ヲ蒐集保存シ及統計ニ關スル諸件ヲ整理スヘシ
- 一 諸申告書ニ依リ輸出入物品ノ數量元價稅額等ニ關シ臨時要スル事項ハ之ヲ調査スヘシ
- 一 外國貿易ニ關スル諸般ノ事實ヲ調査スヘシ

第一編 職制并分課

百二十三

第一編 職制并分課

同三十一年九月本關處務細則ヲ全廢シ新ニ分課規程細則ヲ以テセリ今其稅關長官房ニ關スルモノヲ摘錄スレバ左ノ如シ

稅關長官房ニ文書係統計係ヲ置ク

文書係ハ左ノ事項ヲ取扱フ

- 一 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 一 機密文書ニ關スルコト
- 一 稅關長ノ官印及廳印ノ管守ニ關スルコト
- 一 諸文書ノ受理及發送ニ關スルコト
- 一 諸文書ノ審議及立案ニ關スルコト
- 一 諸文書ノ編纂及保存ニ關スルコト
- 一 揭示廣告及回達ニ關スルコト
- 一 船難報告及同證書ノ附與ニ關スルコト
- 一 訴訟及訴願ニ關スルコト
- 一 犯則者處分及告發ニ關スルコト
- 一 各課部ノ非管事務ニ關スルコト
- 統計係ハ左ノ事項ヲ取扱フ
 - 一 輸出入及其他ノ統計ニ關スルコト
 - 一 外國貿易月報及年報ノ編製ニ關スルコト
 - 一 課稅原簿登錄ニ關スルコト
 - 一 輸出入申告書計算ニ係ル諸願届及統計書類ノ保存ニ關スルコト

一 輸出入申告書及計算ニ係ル諸願届ノ整理ニ關スルコト

同三十二年四月稅關官制ノ改正ニ伴ヒ稅關分課規程ヲ改正セラレタルニ依リ同五月本關ニ於テ其細則ヲ改正セリ當時其官房ニ關スルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

稅關長官房ニ於テハ左ノ事項ヲ取扱フ

- 一 稅關長ノ官印及廳印ノ管守ニ關スルコト
- 一 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 一 各部課直接受授以外ノ諸文書ノ受理及發送ニ關スルコト
- 一 前項諸文書ノ整理編纂及保管ニ關スルコト
- 一 諸文案ノ起草ニ關スルコト
- 一 他部課起草諸文書ノ調査ニ關スルコト
- 一 文書ノ翻譯ニ關スルコト
- 一 船難報告及同證書ノ授與ニ關スルコト
- 一 揭示廣告及文書回達ニ關スルコト
- 一 外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スルコト
- 一 異議訴願及訴訟ニ關スルコト
- 一 機密ニ關スルコト
- 一 他部課ノ非管事務ニ關スルコト
- 一 輸出入及其他ノ統計ニ關スルコト
- 一 外國貿易月表及年報ノ編製ニ關スルコト
- 一 課稅原簿登錄ニ關スルコト

第一編 職制并分課

一 輸出入申告書計算ニ係ル諸願届及統計書類ノ整理保管ニ關スルコト
 前記則ニハ文書係及ヒ統計係ナル係名ヲ設ケタルモ本細則ニ於テハ之ヲ廢セリ而シテ同則ハ同三十二年八月四日關稅法實施後迄引續キ實行セラレ同三十三年十一月ニ至リ更ニ官房ニ貿易調査係ヲ設ケ外國貿易ニ關スル諸般ノ調査ニ從事セシム同三十四年七月他ノ部課ト共ニ分掌内規ヲ定メラレ官房ニ文書、統計、貿易調査ノ三係ヲ置キ現今ニ至ル其分掌事務左ノ如シ

文書係

- 一 稅關長ノ官印及廳印ノ管守
- 一 官吏ノ進退身分ノ調査
- 一 各部課直接受授以外ノ諸文書ノ受理、發送、整理、編纂、及保管
- 一 揭示、廣告、及回達文書ノ取扱
- 一 稅關貨物取扱人ノ免許ニ關スル事項
- 一 外國貿易船不開港出入特許ニ關スル事項
- 一 異議訴願及訴訟ニ關スル事項
- 一 機密ニ關スル事項
- 一 圖書室ノ管理
- 一 他部課ノ非管事務ニ關スル事項
- 統計係
- 一 外國貿易月表ノ調製及其他貿易ニ關スル統計
- 一 輸出入無稅及内地回漕申告書其他統計書類ノ整理保管
- 貿易調査係

一 外國貿易ニ關スル諸般ノ調査

第二節 監視部

本部ハ開港當初來意尋問掛ト稱シ外國船ノ入港スルコトアラハ直チニ其來意ヲ尋問シ及艙口ノ開閉并ニ乗船監視ニ係ル事務ヲ執レリ後(明治三四年ノ頃)密商、本船番、尋問等ノ分掌ヲ區別シ專ラ密輸出入ヲ防遏スルノ監視ニ從事ス

明治四年十一月運上所職制ヲ定メラレシ際検査課ヲ置カレ同課中ノ尋問科ヲシテ前記ノ事務ヲ管掌セシム

同五年正月運上所中ニ選卒、視船、ノ二課ヲ置カレ陸上ノ監視ヲ選卒課ニ海上ノ監視ヲ視船課ノ分掌トシ其二月ニ於テ選卒課ヲ巡警課ニ視船課ヲ監船課ト改稱ス

同五年十一月新タニ海陸監吏課ナル一課ヲ設ケ以テ海陸ヲ巡警シ輸出入貨物ニ係ル密商脫稅ノ取締ニ充ツ

同六年一月海陸監吏課ヲ罷メ監吏課ヲ置キ事務章程ヲ定ム(同章程ハ職制ノ部ニ掲ケタルヲ以テ今茲ニ畧ス)

同七年一月本關職制事務章程ヲ更革セシモ監吏課章程ハ故ノ如シ

同十年五月同課ヲ監視課ト改稱シ又其章程ヲ改ム(職制ノ部ニ掲ケタルヲ以テ畧ス)

同十五年三月又本關職制及事務章程ヲ改正ス而シテ本課章程ハ舊ニ異ナラス

同十七年七月又本關分掌規程ヲ更改セシトキ本課ヲ監視科ニ改ム

同十九年三月監視科ヲ又監視課ニ改メ其四月ニ於テ本關各課處務條款ヲ定メ監視課ノ事務ヲ本課、外海監、陸監ノ二掛トス其分掌左ノ如シ

本課

- 一 監吏及雇監吏ヲ海陸各監所ニ配置シ諸向取締ヲ指揮スル事

- 諸監所ニ於テ密商脱税ヲ看破シタル時事由ヲ審案シ關長ニ具申スル事
- 船舶入出港届ヲ怠リタル時事由ヲ審案シ關長ニ具申スル事
- 國禁物輸入及運送船客船夫其他ノ規則違犯ヲ告發シ及之ヲ關長ニ具申スル事
- 輸出入貨物解船及船客送迎船其他免許解艇取締ニ關スル事項ヲ調査スル事
- 雇監吏ノ勤怠功勞過失ヲ視察シ賞罰ヲ擬定シ關長ニ具申スル事
- 修繕ノ爲メ免許ヲ受ケ不開港場ヘ回航スル船舶假出港許可ノ手續ヲ爲シ雇監吏ヲ上監派遣スル事
- 閉關中輸入貨物ノ船卸及手數濟貨物ノ船積ヲ免許シ及郵船貨物ノ船移ヲ假許スル事
- 定規ノ場所外ヨリ陸揚船積ノ特許ヲ得タル貨物監視ノ爲メ雇監吏ヲ關外ヘ派遣スル事
- 船舶船口封鎖臨時免除願ヲ免許シ雇監吏ヲ上船セシムル事
- 船卸船移貨物ニ付スル證票ノ記號番號個數ヲ積荷目錄寫ニ對照調査スル事
- 輸出入品無検査品ヲ許放スル事
- 船舶入港手數前揮發物爆發物ノ船卸回漕ヲ假許スル事
- 運送船客船ノ諸願諸届ヲ受理シ及其船體號旗ヘ認可ノ檢印ヲ與フル事
- 免許外ノ解艇ヘ臨時號旗ヲ與ヘ時期ヲ定メテ輸出入貨物ノ運輸ヲ免許スル事
- 海陸各監所ニ事件起ルトキハ實地ニ出張處理スル事
- 船具并船用諸品ノ船積願ヲ免許スル事
- 石川中村谷戸東波止場新波止場野毛川口ノ各派出所ヲ管理スル事
- 船用品食料品自用品等ノ輸出月表ヲ調製スル事

海監掛

- 海上ヲ巡回シ内外諸船舶ヲ監視スル事
 - 入港船舶ノ來意ヲ尋問シ船名番號國名其他ノ要件ヲ登記シ關係ノ各課ヘ通達スル事
 - 船舶ノ船籍ヲ査閱スル事
 - 條約書中緊要ノ條款及港内ノ慣行等船司ヘ示諭スル事
 - 船舶船口ノ箇所摸樣ヲ査閱シ鎖鑰封印圖ヲ調製スル事
 - 船卸貨物ノ記號番號個數ヲ登記シ證票ヲ附シテ規定ノ場所ヘ積送リヲ許ス事
 - 免狀ニ對照シ船移貨物ヲ許放スル事
 - 揮發物爆發物ヲ搭載セル船舶ハ港外ニテ該品ノ船卸ヲ監視スル事
 - 船舶碇泊位置ノ轉換ヲ免許スル事
 - 船舶ノ船口封鎖及開披ヲ爲ス事
 - 船舶船口ノ封印鎖鑰ヲ破毀スルモノアレハ實況ヲ審査シ船司ヨリ事由書ヲ領收シテ課長ニ具陳スル事
 - 船舶ノ碇泊位置ヲ整理シ及運送船客船免許解艇ヲ管理スル事
 - 船積貨物ノ免狀附票檢印ヲ査閱スル事
 - 密商脱税品并國禁物ヲ看破摘發シタルトキハ本品押獲課長ニ具申スル事
 - 運送船客船ノ取締規則違犯ヲ發見シタルトキハ其旨本課ヘ報告スル事
 - 船舶入港手數濟ノトキ本船ヘ番號牌ヲ掲ケ出港手數濟ノトキ之ヲ除却スル事
- 陸監掛
- 陸上ヲ巡回シ各監所ヲ監視シ及門鑑鎖鑰ヲ監守スル事
 - 旅具携携品自用品船用品食料品等ヲ検査シ檢印若クハ證票ヲ附シテ許放スル事

- 輸出入見本品ヲ検査シ又検査ヲ經テ一旦出關ヲ願出ル輸出見本品及提携品ニ檢印封印ヲ爲ス事
- 諸船舶ヘ行商スル内外製産品ヲ検査許放スル事
- 閉關中陸揚スル有税品ヲ貯藏所ニ留メ開關時期迄監守スル事
- 船舶修繕用品ノ假通關ヲ許シ還送期日ノ證書ヲ徵收スル事
- 内國船ノ輸出入貨物ヲ検査シ證印許放スル事
- 内國船ニ係ル輸出入貨物ノ日表并月表ヲ調製スル事
- 内國船ノ臨時仕役其他諸願諸届ヲ受理スル事
- 検査場并稅關所轄地内ヘ出入スル荷馬車腕車及仕役人夫ノ取締ヲ爲ス事
- 同二十二年九月各課事務ノ手續改正ノ時本課事務中ニモ左ノ通り改正ヲ爲セリ
- 從來船移等ニ關シ願書副書及免狀ニ據テ許放スルノ手續ヲ改メ單ニ免狀ニ照シテ許放シ之ヲ帳簿ニ登記ス
- 一 船目錄ノ調査ヲ廢止ス
- 同二十五年七月本關處務細則ヲ定メラレ本課ニ海務陸務ノ二部ヲ置キ陸務部中ニ監視方面及守警ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム其兩部ノ管掌事項左ノ如シ
- 海務部ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
 - 一 海上ヲ巡視シ及内外諸船舶諸艇ヲ監視スヘシ
 - 一 貨物運送船客船庫船特許船其他内外艇艇ニ關スル取締ヲ爲スヘシ
 - 一 入港船舶ノ來意ヲ尋問シ船名番號國名其他ノ要件ヲ尋問簿ニ登記セシメ之ヲ關係各課ヘ通知スヘシ

- 船舶ノ船籍ヲ查閱シ其噸數尺度等ヲ調査スヘシ
- 船舶船口ノ箇所模様ヲ檢視シ圖面ヲ調製スヘシ
- 船舶ノ船口封鎖及開披ヲ爲スヘシ
- 船舶船口封鎖免除願ヲ許可シ監吏補ヲ乘監セシムヘシ
- 船舶船口ノ鎖鑰封印ヲ破毀スルコトアラハ其實況ヲ審査シ船長ヨリ事由書ヲ徵シテ之ヲ課長ニ致スヘシ
- 船卸貨物ノ個數及其要件ヲ附記シタル證票ヲ製シ之ヲ貨主又ハ代表者ニ與ヘ陸揚場ヘ致サシムヘシ
- 船移免狀ニ貨物ヲ照合シテ運送艇船毎ニ證票ヲ附與スヘシ
- 船卸船積貨物ノ免狀及船積貨物ノ檢印若クハ其代證ヲ檢視スヘシ
- 船舶入港手數濟ノトキハ本船ヘ番號牌ヲ掲ケ出港手數濟ノトキ之ヲ除却スヘシ
- 關外ヨリ陸揚船積スル貨物ノ監視及檢印許可ノ爲メ監吏補ヲ派遣スヘシ
- 閉關中船舶入港手數前爆發物ヲ船卸シ其置場ヘ回漕スルノ許可ヲ與フヘシ
- 爆發物ヲ搭載シ若クハ搭載セントスル船舶ノ港外積卸ヲ監視スヘシ
- 密商脫稅品及國禁物ヲ發見シ又ハ密商脫稅品及國禁物ナリト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ其旨ヲ課長ニ報告シ課長ハ其事由ヲ審案シテ關長ニ具申スヘシ
- 船舶ノ犯則ヲ發見シタル時ハ其旨ヲ課長ニ報告シ課長ハ其事由ヲ審案シ之ヲ關長ニ具申スヘシ
- 運送船客船特許船其他内國艇艇ノ取締規則違犯ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ告發シ課長ヲ經テ其旨ヲ關長ニ具申スヘシ

陸務部ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

- 一 海上監吏補ノ勤怠ヲ監察スヘシ
- 一 海務監視日誌ヲ調製スヘシ
- 一 陸上ヲ巡視シ各監所ヲ監視シ通關免狀及貨物ノ檢印ヲ檢閱スヘシ
- 一 貨物運送船客船其他内外舢舨ニ關スル取締ヲ爲スヘシ
- 一 旅具提携品自用品見本品及食料品ヲ檢査シ課稅外ノモノハ檢印若クハ證票ヲ附シテ其通關ヲ許可スヘシ
- 一 輸出入無檢査品ノ通關ヲ許可スヘシ
- 一 船用諸品ノ船積願ヲ免許スヘシ
- 一 船用品ヲ檢査シテ其船積ヲ許可スヘシ
- 一 諸船舶ヘ行商スル物品ヲ檢査シ課稅外ノモノハ之ヲ許可スヘシ
- 一 閉關中前條ノ物品中ニ有稅品ト認ムルモノアルトキハ開關ノトキマテ之ヲ監守スヘシ
- 一 沿海通航船ノ諸願届ヲ受理シ及其回漕貨物ノ月表ヲ調製スヘシ
- 一 沿海通航船回漕貨物ヲ檢査シ免狀ヲ付與スヘシ
- 一 運送船客船特許船等ノ願届ヲ受理シ其船體若ハ號旗ヘ認可ノ檢印ヲ與フヘシ
- 一 免許外ノ舢舨ヘ臨時號旗ヲ貸與シ時限ヲ定メテ輸出入貨物ノ運送ヲ免許スヘシ
- 一 關外ヨリ陸揚船積スル貨物ノ監視及檢印許可ノ爲メ監吏補ヲ派遣スヘシ
- 一 輸入手數濟貨物ヲ關内ヨリ他所ヘ回漕スルコトヲ許可スヘシ
- 一 京濱間往復免許ノ外國船ヲ以テ東京ヘ回漕スル貨物ハ免狀ニ對照シテ船積ヲ許可スヘシ
- 一 密商脫稅品及國禁物ヲ發見シ又ハ密商脫稅品及國禁物ナリト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ

其旨ヲ課長ニ報告シ課長ハ其事由ヲ審案シテ關長ニ具申スヘシ
 船舶ノ犯則及運送船客船其他舢舨ノ取締規則違犯ヲ發見シタルトキハ第七十二條ノ手續ニ依ルヘシ

陸上監吏補ノ勤怠ヲ監察スヘシ

輸出入貨物ヲ運搬スル荷車馬車仕役人夫ノ取締ヲ爲スヘシ

輸入貨物ノ記號番號個數ヲ記錄スヘシ

陸揚貨物ニ日時ノ符印ヲ捺スヘシ

輸入貨物ノ着否ヲ證明スヘシ

上屋内外ニ在ル貨物ノ位置ヲ整理シ若シ異狀ヲ發見シタルトキハ之ヲ課長ニ報告スヘシ

輸出入貨物ノ記號番號個數等ヲ免狀ニ對照シ檢印ヲ捺シテ出入通關ノ證票ト爲スヘシ

舢舨内ニ於テ檢査免許ノ貨物ハ其舢舨内ニテ之ニ檢印スヘシ

起重器ノ借用願ヲ許可スヘシ

獸類其他捺印シ難キ貨物ニハ檢印ノ代證ヲ附スヘシ

輸出ノ爲メ豫メ檢査ヲ請フ見本品ニシテ課稅外ノモノハ檢査ノ後封印ヲ施シ關外ニ引取リ置クコトヲ許可スヘシ

陸揚貨物上屋規則ノ規定ヲ過クルモノハ倉庫課第二係ヘ通報スヘシ

定規場所外陸揚船積特許ノ貨物及揮發物爆發物檢印ノ爲メ出張スヘシ

沿海通航船ヲ以テ輸入手數未濟ノ貨物ヲ他港ニ回漕ノ免許ヲ與ヘタルトキハ船會社ヨリ其

貨物ノ目錄ヲ徵シ別ニ通知書ヲ添ヘ仕向港稅關ニ送付スヘシ

本關管轄區域内ニ於ケル船舶ノ難破及寄港密商等ニ關スル取締ヲ爲スヘシ

- 一 小笠原島及築地横濱稅關出張所在勤監吏へ指揮ニ關スル取扱ヲ爲スヘシ
- 一 監吏補ノ勤怠功過ヲ視察シ賞罰例ニ依リ之ヲ擬定シ關長ニ具申スヘシ
- 一 陸務監視日誌ヲ調製スヘシ
- 一 輸出入貨物種類員數記號番號噸數調查簿免狀控簿等ヲ整理保存スヘシ
- 一 課務執行ノ成績月表及沿海通航船貨物月計表ヲ調製シ内外船舶尋問簿同控簿并ニ達簿等ヲ調査保存スヘシ
- 一 諸規則諸達中課務必要事項ヲ類纂シ及内外人民ノ諸願届ヲ類別保存スヘシ
- 一 監視方面ハ東波止場新波止場石川中村トシ左ノ事項ニ依リ各其方面内ノ取締ヲ爲スヘシ
- 一 東波止場監視方面ハ同波止場ヨリ石川中村揮發物揚場ニ至ル區域内ニ於ケル密商稅其他一切ノ取締ヲ爲スヘシ
- 一 新波止場監視方面ハ同波止場ヨリ大岡川監所及高島町神奈川地方ニ至ル區域内ニ於ケル密商稅其他一切ノ取締ヲ爲スヘシ
- 一 石川中村監視方面ハ同所揮發物揚場ヨリ根岸本牧地方及堀内村爆發物貯庫ニ至ル區域内ニ於ケル密商稅其他一切ノ取締ヲ爲スヘシ
- 一 守警ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
- 一 閉關中ニ生シタル事件ノ取扱及廳内ヲ巡視シ一切ノ取締ヲ爲スヘシ
- 一 廳内ノ掃除火ノ元ニ注意シ及各室ノ閉鎖ヲ爲シ鎖鑰ヲ管守スヘシ
- 一 關内若クハ近傍ニ失火アルトキハ必要ナル豫防又ハ消防機械ノ整頓ニ注意スヘシ
- 一 關内電氣燈瓦斯燈ニ注意シ若シ異狀危險アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ之カ豫防ノ手當ヲ爲スヘシ

一 閉關中到來ノ諸文書電信ヲ接受シ緩急送達ノ取扱ヲ爲スヘシ
 同二十六年十一月稅關分課規程ノ改正ニ依リ本課ヲ監視部ト改ム又本關處務細則ヲ改定シ本部ヲ小別シテ海務、陸務、貨物ノ三係及監視方面、守警トシ舊海務部ニ係ル事項ヲ海務係ニ於テ分掌シ同係ノ内へ

左ノ一項ヲ加へ

一 監視船ノ進退及水夫ノ勤勞ニ關シ指揮ヲ爲スヘシ

左ノ一項ヲ廢ス

一 船舶入港手數濟ノトキハ本船へ番號牌ヲ掲ケ出港手數濟ノトキ之ヲ除却スヘシ

又舊陸務部ニ係ル事項ヲ陸務係ニ於テ分掌シ同係ノ中へ左ノ數項ヲ追加ス

- 一 棧橋繫船願書ヲ受理シ繫船差支ノ有無及願書面記載ノ事項ヲ調査シ許可スヘキモノト認ムルトキハ繫船料納付ノ手續ヲ爲サシメ繫船免狀ヲ交付スヘシ
- 一 繫船免狀ヲ交付シタル時ハ繫船場所ヲ指定シ諸般繫船ノ準備ヲ爲スヘシ
- 一 船舶繫留中ハ貨物積卸其他諸般ノ取締ヲ爲シ棧橋使用規則違犯ノ所爲アルトキハ直ニ之ヲ調査シ速カニ關長ニ具申スヘシ
- 一 船長又ハ水先人ノ不注意若クハ其他ノ原因ニ依リ棧橋ヲ毀損シタルトキハ直ニ其事實ヲ調査シ速カニ關長ニ具申スヘシ

而シテ新設貨物係ニ於ケル分掌左ノ如シ

- 一 輸入貨物ノ記號番號個數ヲ記錄スヘシ
- 一 陸揚貨物ニ日時ノ符印ヲ押捺スヘシ
- 一 定期場所外陸揚船積特許ノ貨物及揮發物爆發物檢印ノ爲メ出張スヘシ

- 一 輸入貨物ノ着否ヲ證明スヘシ
 - 一 上屋内外ニ在ル貨物ノ位置ヲ整理シ若シ異狀アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ部長ニ報告スヘシ
 - 一 輸出入貨物ノ記號番號個數等ヲ免狀ニ對照シ檢印ヲ捺シテ出入通關ノ證票トナスヘシ
 - 一 解船内ニ於テ檢査免許ノ貨物ハ其解船内ニテ之ヲ檢印スヘシ
 - 一 獸類其他檢印シ難キ貨物ニハ檢印ノ代證ヲ附與スヘシ
 - 一 輸出ノ爲メ豫メ檢査ヲ願出タル見本品ニシテ課稅外ノモノハ檢印ノ後封印ヲ施シ關外ニ引取り置クコトヲ許可スヘシ
 - 一 起重器ノ借用願ヲ許可スヘシ
 - 一 陸揚貨物上屋規則ノ規定ヲ過クルモノハ倉庫課ヘ通知スヘシ
 - 一 輸出入貨物種類員數記號番號噸數調查簿免狀控簿等ヲ整理保存スヘシ
- 又監視方面ニ係ル事項ヲ左ノ通り改ム
- 一 監視方面ハ稅關長之ヲ定メ其各方面内ニ於ケル密商脫稅其他一切ノ取締ヲ爲スヘシ
- 守警ノ分掌ハ依然タリキ
- 同二十九年七月處務細則ヲ改正シ本部中ノ分掌ヲ左ノ通り定ム但シ監視方面、守警ハ舊ニ異ナラス
- 海務係ノ中ヘ左項ヲ追加ス
- 一 臨時港外回船ヲ願出タルトキハ其事由ヲ審案シテ之カ許可ノ手續ヲナシ監吏補ヲ乘監セシムヘシ
- 陸務係ノ中沿海通航船ニ係ル事項ヲ左ノ如ク改ム
- 一 沿海通航船ノ入港届ヲ受理シ其船籍證書船舶登記證書及船鑑札ヲ預ケ置クヘシ

- 一 沿海通航船ノ出港届ヲ受理シ其船籍證書船舶登記證書及ヒ船鑑札ヲ交付スヘシ
- 又同係ノ中ヘ左項ヲ追加ス
- 一 輸出入貨物ノ噸量ヲ調査スヘシ
 - 一 輸出入貨物ヲ運搬スル馬車仕役人夫ノ取締ヲ爲スヘシ
 - 一 臨時仕役願ヲ受理シ調査ノ上之ヲ徵收課ニ送付シ及閉關中貨物種類分類ニ對シ處理スヘシ
- 又旅具檢査ノ一係ヲ新設ス其分掌左ノ如シ
- 一 外國人ノ旅客ニ對シ其旅具提携品ノ檢査ヲ爲スヘシ
 - 一 旅具中有稅品アルトキハ仕譯書ヲ提出セシメ實品ニ照シテ之ヲ調査シ其稅額ヲ檢定及之カ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 一 旅具提携品ノ無檢査通關ノ取扱ヲ爲スヘシ
 - 一 旅具提携品ノ納出庫手續ヲ爲スヘシ
 - 一 輸出入見本品及内外商賈碇泊船舶ヨリ提携シ來リタル貨物雜品等ヲ檢査スヘシ
 - 一 閉關中輸出ノ爲メ豫メ檢査ヲ願出タル見本品ニシテ課稅外ノモノハ檢査ノ後封印ヲ施シ關外ニ引取り置クコトヲ許可スヘシ
- 而シテ貨物課ノ中ヘ左ノ二項ヲ追加ス
- 一 輸出入品課稅原簿補助簿ヲ備ヘ檢印取扱ヲ爲シタル申告書ノ番號及月日ヲ記入シ當該者之ニ捺印スヘシ
 - 一 船舶乘監監吏ヨリ交付シタル陸揚票ノ着否ヲ調査スヘシ
- 同三十一年九月從前ノ處務細則ヲ廢シ更ニ本關分課規程細則ヲ定ム依テ監視部中ニ庶務、陸務、海務、貨物ノ四係ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一編 職制并分課

庶務係

- 本部ノ庶務ニ關スル事
- 監吏補ノ配置ニ關スル事
- 監吏補ノ勤惰調査ニ關スル事
- 監視署ノ監督ニ關スル事

陸務係

- 陸上ノ監視ニ關スル事
- 沿海通航船入出港ニ關スル事
- 船客及旅具ノ検査ニ關スル事
- 旅具納出庫ノ管理ニ關スル事
- 船用品積込ニ關スル事
- 船舶行商ノ取締ニ關スル事
- 防火器具ノ管理ニ關スル事

海務係

- 入港船舶ノ尋問ニ關スル事
- 船舶艙口ノ開鎖ニ關スル事
- 貨物船積船卸ニ關スル事
- 海上ノ監視ニ關スル事
- 棧橋ノ管理及船舶ノ繫留ニ關スル事
- 舢舨ノ監督ニ關スル事

— 船内検査ニ關スル事

— 監視用船ノ管理ニ關スル事

貨物係

- 貨物ノ陸揚及通關ニ關スル事
- 上屋ノ管守ニ關スル事
- 貨物運搬ノ車馬及人夫ノ取締ニ關スル事
- 損傷石油置場及鑄掛場ノ管理ニ關スル事

同三十二年五月同細則ヲ改正シ其本部ニ關スル分掌ヲ改メ従前ノ貨物係ヲ廢シ同係ニ於ケル第一、
 第四ノ事項ヲ貨物課ニ移シ第二、第三ノ事務ヲ陸務係ノ分掌トス左ノ如シ

庶務係

- 犯則事件ノ調査及處分
- 監吏勤惰ノ調査
- 監吏ノ配置
- 部内回達文書ノ取扱

陸務係

- 貨物及船用品出入ノ監視
- 關稅通路ノ取締
- 沿海通航船入出港ノ監視
- 船舶行商ノ取締
- 貨物運搬ノ車馬及人夫ノ取締

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

- 門戸ノ開閉及關中ノ取締
- 防火器具ノ管理
- 海務係
 - 入港船舶ノ尋問
 - 艙口申告書旅客氏名表ノ受理及艙口ノ閉鎖
 - 貨物船積船卸ノ監視
 - 舢舨ノ取締
 - 船内検査、船内船用品目録ノ調査及船内船用品ノ検査
 - 監視船員ノ監督
 - 船舶ノ棧橋繫留ニ關スル事項
- 同三十四年七月更ニ本部分掌内規ヲ左ノ通り定メラレ部中ヲ庶務、陸務、海務、旅具、棧橋ノ五係ニ改メ現時ニ至レリ
- 庶務係
 - 犯則事件ノ調査及處分
 - 監吏勤怠及賞罰ノ調査
 - 監吏ノ配置及其教習
 - 支署監視署ノ監視事務監督
 - 部内傭人ノ監督
 - 部内文書ノ取扱及整理
 - 出入船舶旅客ノ調査

陸務係

- 出入貨物ノ陸上監視
- 關稅通路ノ監視
- 貨物旅具陸揚ノ整理
- 貨物運搬車馬及人夫ノ取締
- 門戸ノ開閉及關内ノ取締
- 稅關特許指定地ノ取締
- 各方面及監所ノ監督
- 防火器具ノ管理
- 海務係
 - 入港船舶ノ尋問
 - 艙口申告書旅客氏名表ノ受理及艙口ノ閉鎖
 - 出入貨物及旅具ノ海上監視
 - 船内検査、船内船用品目録ノ調査及船内船用品ノ監視
 - 出入船舶ノ監視
 - 舢舨ノ取締
 - 監視船員ノ監督
 - 旅具係
 - 出入旅具船用品及修繕品ノ監視
 - 旅具運搬人ノ取締

第一編 職制并分課

一 船行工商ノ取締

棧橋係

一 棧橋繫離船ノ監視

一 棧橋貨物積卸ノ監視

第三節 監查課

開港以降明治初年以前ニ在ツテハ運上所中ノ分課ナル帳面、引合、改ノ三掛ニ於テ關稅事務ノ重ナルモノヲ處辨シタリ則チ輸出入稅其他賦課額ノ調査及統計ニ關スル事項ハ帳面掛ニ於テ又輸出入貨物船積陸揚ノ調査積荷目錄ノ整理、税金等ノ收入及外人ニ應接等ノ事項ハ引合掛ニ於テ又輸出入貨物ノ品種數量及尺度ノ査定同貨物ノ真偽及價格ノ當否鑑定等ハ改掛ニ於テ掌理セリ蓋シ現今監查課ニ屬スル執務ノ事項ハ其初メ前記ノ帳面引合兩掛ニ於テ分掌シタルモノナリ

維新以後依然舊幕府當時ノ慣行ヲ踏襲シ來リシカ明治四年十一月ニ至リ運上所職制處務順序ヲ規定セラレシトキ檢査課ヲ置キ課中ニ鑑定、改品、上屋、知庫ノ四科ヲ設ク而シテ税金ノ調定及統計ノ事項ヲ分チテ稅額庶務ノ二課(同時ニ新設シタリ)ニ移ス

同五年十月又本關職制并事務分掌ヲ制定サレ上屋及借庫ニ係ル事項ヲ亦倉庫課(同時ニ新設シタル)ニ移サル

同七年一月又稅關職制ヲ改正セラレシカ檢査課事務ハ舊ノ如シ

同八年六月ニ於ケル同課ノ分掌ヲ見ルニ課中ヲ小別シテ目錄翻譯改品鑑定ノ四掛(掛ハ又科トス而シテ其擔當事項概テ左ノ如シ)

- 一 目錄掛ハ差出書(申告書ナリ)ト積荷目錄トヲ照查ス
- 一 翻譯掛ハ輸出入願書等ノ翻譯ニ從事ス
- 一 改品掛ハ輸出入貨物ノ數量尺度等ヲ檢査ス

一 鑑定掛ハ同貨物ノ真偽價格ノ當否ヲ檢定ス

而シテ檢査本課ニ於テ其分掌ヲ總管シ輸出入ノ願書ヲ受ケ改品セシ實地ト比較シテ其當否ヲ精閱シ及増稅或ハ買上品等ノ事ヲ掌理ス

同九年七月新タニ鑑定課ヲ設置サレ爾來貨物鑑定ノ事項ヲ同課ニ移ス

同十一年十月檢査課事務ヲ分チテ本課ノ外目錄、仕入書翻譯改品ノ四分科トシ更ニ改品科中ニ立合掛ヲ設ク其分掌左ノ如シ

檢査課

一 輸出入一切ノ差出書ニ對シ目錄科仕入書科、翻譯科改品科及立合掛等ノ諸手數ヲ點檢シ品質度量價格等ヲ詳査シ及諸願屆書類ヲ受理シ之ヲ處分スル事

一 船舶出入港届ヲ受理シ及貨主ノ差出書ニヨリ積荷目錄ヲ整理スル事

一 輸入貨物ニ對スル仕入書ノ真偽ヲ識別スル事

一 差出書及諸願屆類ヲ和譯スル事

一 改品科

一 立合掛ハ輸出入ニ區分ス

第一編 職制并分課

- 一 輸出入立合掛ハ生絲ノ如キ其容量精査ヲ要スルモノ若クハ玩具品ノ如キ一包裝内ニ各種混入セルモノ、檢査ヲ擔任ス
 - 一 輸入立合掛ハ皆改メヲ要スル場合若クハ混入小間物例ヘハ巴里產物ノ如キモノヲ擔任ス
- 同十五年三月及同十七年七月ノ兩度ニ於テ稅關事務章程及分掌規程等改正セラレシカ檢査課事務ハ異動ナク只十七年七月ノ改正ニ於テ檢査課ヲ檢査科ニ改ム
- 同十九年四月各課處務條款ヲ制定セラレシトキ檢査課(此時科ヲ課ニ改ム)事務ヲ分チテ本課ノ外改品、目錄、翻譯ノ三掛ニ改ム其分掌左ノ如シ

本課

- 一 輸出入ニ關スル執務上ニ過誤アルヲ發見シタルトキハ該課長ト合議シテ之ヲ關長ニ具申スル事
- 一 輸出入貨主又ハ其引受人及船司等ノ過誤若クハ姦詐ヲ視察發摘スル事
- 一 定額品ノ種類及數量ノ適否ヲ檢査スル事
- 一 定額品ノ種類從價品ノ原價鑑定ノ價格及有稅無稅ノ鑑別ニ疑議アリ又ハ之ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ鑑定課ト協議スル事
- 一 損傷品ノ損傷歩合ノ當否ヲ檢査スル事
- 一 包裝ノ損傷シ易キ又ハ重量巨大ナル貨物ノ船内檢査願ヲ許可スル事
- 一 從價品ノ増稅ヲ貨主ニ示談シ及該貨物買上ノ處分ヲ取扱フ事
- 一 見本品、提携品、自用品、又ハ船用殘品ヲ勘査スル事
- 一 輸入畜類及貨幣等關内ニ留置キ難キモノ一假通關ヲ許可スル事
- 一 一旦陸揚シタル貨物ヲ再ヒ同船ヘ積戻ヲ許可スル事

- 一 輸入品ヲ他港ヘ廻漕シ又ハ海外ヘ積戻ストキ手數ノ濟否ヲ檢査シ之ヲ許可スル事
- 一 船移願書ヲ調査シテ之ヲ許可スル事
- 一 他港稅關預ケ稅品ノ陸揚願書ヲ檢査スル事
- 一 東京築地ヘ貨物廻漕ノ願書ヲ檢査シ其稅濟ヲ證記スル事
- 一 他港ヨリ預稅ニテ回着シタル石炭類ハ監視課ヨリ其揚ケ切リノ證明ヲ得テ後本手數ヲ爲サシムル事
- 一 改品掛又ハ上屋掛ニテ徵收セル示談稅ノ當否ヲ檢査スル事
- 一 貨物ノ數量尺度願書面ト差違アルトキ改品ノ當否及貨主ノ情狀ヲ勘査スル事
- 一 輸入稅濟通關稅ノ貨物損傷又ハ缺量ノ返稅願ヲ調査スル事
- 一 改品濟ノ輸出入品急場ニ臨ミ定例手數ヲ了ラスシテ稅金ヲ假納セシメ通關ヲ許可スル事
- 一 改品掛ニ於テ國禁若クハ犯則ノ物品ヲ發見シタルトキハ之ヲ抑留セシメ其事由ヲ審案シ關長ニ具狀スル事
- 一 輸入ヲ願出タル阿片ノ許可スヘカラサル品質ニ對シ措置スル事
- 一 各國軍用品ノ無檢査通關ヲ願フトキハ其正否ヲ勘査シ許可ノ手續ヲ爲ス事
- 一 輸入稅濟貨物ノ重量巨大又ハ情狀ニ由リ波止場外陸揚又ハ東京回漕ヲ許可スル事
- 一 定例手數未濟品波止場外揚卸願許可ノ手續ヲ爲ス事
- 一 改品掛
- 一 貨物ノ品質、數量、尺度ヲ實査スル事
- 一 原品ト願書トノ記號、番號、個數ノ合否ヲ點檢シ相違アルトキハ本課ヘ送り更正ヲ求ムル事
- 一 貨物ノ品質、數量、尺度願書ト相違アルトキハ鑑定課ト協議シ故意ニ出テサルモノハ之ヲ更正

- スル事
- 一 輸出入貨物ノ記號、番號不明ナルモノハ符印ヲ捺スル事
- 一 願書ノ實品ト相違アルトキ貨主ノ詐偽ニ出テタリト認め又ハ其疑アルモノハ課長ニ具陳スル事
- 一 關外又ハ舩船内ニ於テ検査特許ノ貨物及揮發物爆發物實查ノ爲メ出張スル事
- 一 見本品ヲ實查シ之ニ檢印スル事
- 一 積荷目錄ニ記セサル見本品及輸入提携品自用品ヲ實查シ其數量過多ナルトキハ鑑定課ト協議シ價值五圓以上百圓未滿ハ示談稅ヲ徵收シ若シ商品ト認ムルモノハ二重稅ヲ徵收スル事
- 一 輸入損傷品ノ數量、尺度ヲ實查スル事
- 一 他港ヨリ海外航船ヲ以テ回着セシ輸出預リ稅品及輸入稅濟品ヲ實查シ他港稅關免狀及檢印ノ有無ヲ願書寫ヘ證記スル事
- 一 輸入稅濟貨物ヲ内地各所ヘ廻漕スルトキ稅ノ濟否ヲ實查シ之ヲ願書寫ニ證記スル事
- 一 海外ヘ積戻ス輸入稅濟貨物ヲ實查シ其品質數量尺度及稅ノ濟否ヲ願書寫ニ證記スル事
- 一 輸出刻煙草ヲ實查シ其印紙ヲ消抹シ印紙ノ種類枚數及稅額ヲ願書寫ニ記入スル事
- 一 返稅ノ爲メ檢査ヲ願フ輸出醬油ハ其升量ヲ實查スル事
- 一 國禁若クハ犯則ノ物品ヲ發見スルトキハ之ヲ抑留シ課長ニ具陳スル事
- 目錄掛
- 一 出入船舶ノ名稱國名番號噸數出入時日及仕出仕向ノ港名ヲ記錄スル事
- 一 船舶ノ出入港屆書ヲ受領シ及其出入港手數ヲ爲ス時刻成規ニ違ハサルヤ否ヲ調査スル事
- 一 入港届ノ時刻成規ニ違フモノハ其事由ヲ尋問シ課長ニ具陳スル事

- 一 領事ノ船籍預證書ヲ查閱スル事
- 一 出入港屆書中ノ要件ヲ記錄スル事
- 一 積荷目錄ニ船名仕出港名及入港手數濟ノ日時ヲ記載シ之ヲ保管スル事
- 一 輸入庫入船移及積戻願書ノ品名記號番號個數ヲ積荷目錄ニ照查スル事
- 一 積荷目錄照查ノ後尙目錄上殘餘ノモノアルトキハ之ヲ究鑿調理スル事
- 一 積荷目錄ト諸願書トヲ照查シ符合セサルモノハ之ヲ追加又ハ修正セシムル事

翻譯掛

- 一 願書類ノ洋文ヲ和文ニ翻譯スル事
- 同二十二年九月十六日翻譯掛ヲ廢シ爾來諸願屆書類等ハ凡テ原文ノ儘取扱フコトトナリ又陸揚及通關貨物ノ個數ヲ積荷目錄副紙ニ記入スル所謂第二目錄ノ事務ヲ倉庫課ヨリ移シ且同時ニ審査掛免狀掛(收稅課ヨリ移ル)原簿掛ヲ増設シ前願本課ノ事務ハ審査掛ニ於テ輸出入其他諸免狀ノ調製并ニ諸證明ハ免狀掛ニ於テ輸入貨物仕入書添付ノ有無調査及輸出入願書ニ受付番號記入等ノ事務ハ原簿掛ニ於テ處理スルコトトナリ又別ニ整理掛ヲ置キ本課各掛ハ固ヨリ鑑定調定倉庫各課ノ調査ヲ經タル關稅書類ヲ細大トナク審査シ稅金及諸收入ノ日計ヲ調製セリ
- 同二十三年四月又稅關分課規程ヲ改正セラレ改品掛ヲ鑑定課ニ屬シ同時ニ輸出入貨物ノ數量尺度等査定ノ事務ヲ同課ニ移サル
- 同二十五年七月本關處務細則ヲ制定シ本課ニ第一ヨリ第五ニ至ル掛ヲ小別シ新タニ指定事務ヲ設ケ檢査スヘキ輸出入貨物ヲ指定スルコトトナル
- 同二十六年十一月及同二十九年七月ノ兩回ニ於テ同細則ヲ改定シ從前ノ第一ヨリ第五ニ至ル掛ヲ廢シ更ニ賦稅調査ノ二掛ヲ置ク其分掌左ノ如シ(但シ茲ニ掲ケタルハ二十九
年七月改正ノモノニ係ル)

賦稅係

- 輸出入申告書ヲ受理シ其検査スヘキ貨物ノ指定ヲナス事
- 輸出入ニ關スル願届書類ヲ受理シ之ヲ處辨スル事
- 輸出入船移積戻其他ノ申告書ヲ受理シ之ヲ處理スル事
- 外國航内國船貨物ノ陸揚願書ヲ査閲シ之ヲ處辨スル事
- 鑑定課ヲ經由シタル輸出入貨物ノ申告書ヲ法規ニ照シ處理スル事
- 積荷目録ニ記載セサル貨物ハ其事實ヲ調査シ重稅及單稅ヲ區別スル事
- 輸出入品課稅原簿補助簿ヲ備ヘ取扱ヒタル申告書ノ番號及月日ヲ記入スル事
- 輸出入貨物ニ關シ當該課ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正セシメ又ハ課長ニ通牒シ主務者ノ手續書ヲ徵シ之ヲ稅關長ニ提出スル事
- 輸入損傷品ノ割引ヲ願出タルトキハ鑑定課ニ送付シ之ヲ處辨スル事
- 返稅願ヲ受理シ之ヲ處辨スル事
- 海關稅及諸收入金既納後過不足アルトキ其事實ヲ調査スル事
- 從價品買上ヲ願出タルトキハ之ヲ鑑定課ニ通知シ回議書ヲ製シ庶務課ニ通牒スル事
- 帝室皇族御用品在外公使及外國公使ニ屬スル物品無検査無稅通關ヲ取扱フ事
- 輸出入貨物ノ船積陸揚其他ノ證明ヲ處理スル事
- 在港締盟各國海軍及同病院用品ノ陸揚若クハ船積願ヲ受理シ成規ニ照シ處辨スル事
- 輸入申告ヲ爲シタル藥用阿片ニシテ輸入スヘカラサル性質ノモノタルトキ其積戻ヲ願出ルニ於テハ之カ積戻ノ手續ヲナス事
- 輸出内國品積戻リタルトキ輸出免狀ヲ調査シ之ヲ處理スル事

- 輸出製造煙草ノ印紙稅又ハ輸出酒醬油造石稅ノ返戻願ヲ受理シ調査シ證明ヲ與フル事
- 禽獸類并ニ其保護ニ困難ナルモノ、假通關ヲ許可スル事
- 包裝ノ破損シ易キ又ハ巨大ナル貨物ノ船中検査願ヲ受理シ之ヲ處辨スル事
- 監視部ニ於テ旅客提携品中有稅品ニ對シ徵稅シタルトキ同部ヨリ送付ノ申告書ヲ調査スル事
- 外國船舶ヲ内國人買收シタルトキ之カ噸稅ノ調査ヲナス事
- 臨時開港及定時外又ハ關外ニ於テ貨物積卸ヲ願出タルトキハ其願書ヲ調査シ之ヲ關係課係ニ通知スル事
- 爆發物搭載船舶ハ其爆發物ニ對スル稅金ヲ豫納セシメ港外ニ於テ船卸シ且其置場ヘ回漕ノ手續ヲナサシムル事
- 輸出入貨物通關免狀ノ謄本下付願ヲ受理シ原本ニ據リ之ヲ調製スル事

調査係

- 出入船舶ノ船名國籍噸量日時仕出仕向港名及入港手數濟ノ日時ヲ調査スル事
- 外國船ノ船籍證書ヲ預リタル領事ノ證明書ヲ受理シ査閲スル事
- 積荷目録ヲ受理シ輸出庫入又ハ船移等ノ申告書ト對照整理スル事
- 船舶出入港届ヲ受理シ之ヲ處理スル事
- 船移申告書ヲ受理シ之ヲ處辨スル事
- 積戻又ハ回漕申告書ヲ受理シ之ヲ許可スル事
- 他港稅關ノ預稅回漕免狀ヲ査閲シ其陸揚ヲ證明スル事
- 外國通航内國船入港シタルトキ其船籍證書及鑑札ヲ預リ置キ出港ノトキ還付スル事
- 外國船及外國航内國船入港ノトキ陸揚免狀ヲ交付シ出港ノトキ出港免狀ヲ付與スル事

第一編 職制并分課

- 一 關内ニ於テ公賣ヲ願出タルトキハ之ヲ許可シ關係課係ニ通知スル事
- 一 諸收入領收證ヲ點檢シ及免狀ニ關印ヲ押捺シ貨主又ハ願人ニ交付スル事
- 一 積荷目録中爆發物又ハ危險物ヲ書載シアルトキハ之ヲ關係課係ニ通知スル事
- 一 貨物ノ陸揚個數ト通關個數ノ通知ヲ得之ヲ目錄副紙ニ記入整理スル事
- 同三十一年九月新タニ本關分課規程細則ヲ設定シ本課中ヲ小別シテ申告書、目錄、監査、免狀掛ノ四トス其分掌左ノ如シ
- 申告係
 - 一 輸出入申告書及諸願書ノ受理ニ關スル事
 - 一 檢査スヘキ貨物ノ指定ニ關スル事
 - 一 損傷巨大及重量貨物ノ取扱ニ係ル特許ニ關スル事
- 目錄係
 - 一 船舶ノ入出港届及積荷目録ノ受理及調査ニ關スル事(内國船舶ノ入出港及積荷目録受理ノ事項ハ通稱第一項ハ第二目錄掛ニ於テ處理シタリ)
 - 一 積荷目錄追加訂正ニ關スル事
 - 一 船舶資格變更ニ關スル事
 - 一 船籍書類ノ保管ニ關スル事
 - 一 輸出入貨物噸量ノ調査ニ關スル事
- 監査係
 - 一 輸出入申告書及諸願届ノ監査ニ關スル事
 - 一 從價買上品ニ關スル事

- 一 追徴返戻税ニ關スル事
- 一 諸證明ニ關スル事
- 一 預リ税ニ關スル事
- 一 關外派出檢査臨時開應及貨物積卸特許ニ關スル事
- 一 手数料ニ關スル事
- 免狀係
 - 一 免狀ノ調製附與ニ關スル事
 - 一 回漕貨物ニ對シ陸揚證ノ附與ニ關スル事
- 同三十二年四月又稅關分課規程ヲ改正セラレ檢査課ヲ監査課ト改稱ス而シテ同年五月本關分課規程ノ設定ト共ニ課中係ナル名稱ヲ廢シ第二錄目ノ事務ヲ貨物課ニ移シ現時ニ至ル而シテ現今本課事務分掌(三十四年七月改正)ヲ舉レハ大略左ノ如シ
- 一 船舶及貨物ニ關スル申告書ノ受理
- 一 積荷目錄ノ受理及調査
- 一 船舶書類ノ預入保管
- 一 製産原地證明書ノ調査
- 一 稅率適用及貨物檢査ノ監督
- 一 噸税ノ賦課ニ關スル調査
- 一 關稅其他ノ擔保ニ關スル事項
- 一 船舶及貨物ニ關スル免許特許及認許
- 一 減稅返稅及追徴ノ調査

第一編 職制并分課

第一編 職制并分課

一 船舶及貨物ニ關スル證明

第四節 検査課

本課ハ明治三十二年四月税關分課規程ノ改正ニ依リ鑑定課中ノ検査係ヲ分割シ別ニ一課ヲ創設シタルモノナリ同年五月本關分課規程細則ニ基ツキ其管掌事務ヲ舉クレハ大要左ノ如シ

- 一 輸出入貨物ノ検査
 - 一 旅具及小包郵便ノ検査
 - 一 保税倉庫庫入貨物ノ検査
 - 一 權衡ノ管理
 - 一 風袋原簿ノ記入及報告
 - 一 關外派出検査
 - 一 貨物検査場ノ管理
- 同年六月同細則改正サレ本課ノ分掌ヲ左ノ通り定メ同三十四年七月又同細則ヲ改正サレシ際モ異動ナクシテ現今ニ至ル
- 一 輸出入貨物ノ検査
 - 一 税率ノ適用
 - 一 免稅品禁制品ノ鑑別
 - 一 損傷程度及免稅見本程度ノ鑑別
 - 一 船用品ノ検査
 - 一 旅具ノ検査
 - 一 小包郵便物ノ検査

一 検査用器具及検査場ノ管理

第五節 鑑定課

輸出入貨物ニ係ル鑑定ノ事務ハ開港後明治一二年ノ交ニ至ル迄運上所内ノ一分課ナル改掛ニ於テ掌理シタリ(改掛ハ後收稅改方又ハ輸出入荷物改方ト稱シタルコトアリ)後同四年十一月運上所ノ職制等ヲ定メラレシ時検査課ヲ新設サレ課中ニ鑑定科ヲ置キ專ラ定額并ニ從價品ニ關スル鑑定ニ從事セリ

同九年七月検査課中ノ鑑定事務ヲ分割シテ新ニ鑑定課ヲ設置シ以テ貨物ノ眞偽價值ノ當否ヲ精檢シ定額從價及有稅無稅ノ區別ヲ定メ原價不當ノ貨物ハ之ニ増價スル等ノ事務ヲ執ラシム

同十五年三月ニ於テ本關事務分掌ノ改正アリシモ本課ノ分掌事項ハ依然タリキ

同十七年七月鑑定課ヲ鑑定科ト改稱ス

同十九年四月各課處務條款ヲ定メラレ此時鑑定科ヲ又鑑定課ニ改ム而シテ事務ヲ分ツテ本課及仕入書調査掛ノ二トス左ノ如シ

本課

- 一 輸出入貨物ノ有稅無稅定額從價ノ區域ヲ鑑別スル事
- 一 輸出入貨物ノ價額ヲ鑑定シ若クハ之ニ増價ヲ付スル事
- 一 仕入書ヲ添ヘサル輸入貨物ニ鑑定價ヲ付スル事
- 一 願書ト實品ト符合セサルトキ貨主ノ詐僞ニ出テタリト認ムルモノハ課長ニ合議シ關長ヘ具申スル事
- 一 損傷品ノ損傷程度ヲ鑑定スル事
- 一 定期場所外ヨリ輸出入特許ノ貨物ヲ出張鑑定スル事
- 一 輸出入貨物ノ見本ヲ蒐集保管スル事

第一編 職制并分課